

平成30年度

柏市学力・学習状況調査
結果報告及び改善案

「学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む」

平成30年8月

柏市教育委員会

平成30年度 柏市学力・学習状況調査結果報告書 目次

◆教育長巻頭言 より良い変化を求めて	4
■柏市学力・学習状況調査の概要及び結果について	5
□柏市学力・学習状況調査内容について	
□柏市学力状況結果一覧	
□過去5年間の学力状況の推移一覧	
■学ぶ意欲と学ぶ習慣を可視化するための「4つのC」について	11
■【国語】学力状況調査結果（小2～中3） 及び指導改善案（小1・小3・小5・中1）	17
■【社会】学力状況調査結果（小6～中3） 及び指導改善案（小・中）	29
■【算数・数学】学力状況調査結果（小2～中3） 及び指導改善案（小1・小3・小5・中1）	36
■【理科】学力状況調査結果（小6～中3） 及び指導改善案（小・中）	48
■【英語】学力状況調査結果（中2・中3） 及び指導改善案（中2・中3）	54
■生活・学習意識調査結果及び学力との関連について	58
□ICT活用	
□学校図書館	
■分析用エクセルシートの使用法	62

より良い変化を求めて

柏市教育委員会

教育長 河 篤 貞

柏市が独自に実施している「柏市学力・学習状況調査」は、本年で7年目となりました。市全体としては、小中学校共にすべての教科・学年において、全国とほぼ同程度の結果であり、概ね良好な状況といえます。

しかし、各校、そして子ども一人一人の学びの状況に目を向けると、それぞれ課題となるものが見えてきます。これまでの蓄積されたデータを活用しながら、より細やかな分析を行うことが必要です。今年度も昨年度と同様、算数・数学において各校の解答状況を分析した結果をもとに、学年や学級ごとに「課題のある問題」を配付しました。「学年分析データ」では、自校の子どもがつまずきやすい単元や内容が明確になっており、また、「学級分析データ」では、一人一人の学びの状況を把握し、個別の支援を行うために活用してほしいと思います。自校の全体的な状況を知ることだけでなく、授業改善に向けた具体的な手立てを講じ、子ども達の変化を見届けることが、本調査を継続して実施している趣旨なのです。

新学習指導要領への移行に伴い、様々な新しい取り組みが行われています。しかし、その取り組みだけが先行されることなく、子ども一人一人の実態を把握し、その実態をより良く変化させていくことが何よりも大切です。本調査によって得られた結果を受け止め、この報告書に記されている授業改善の方向や効果的指導例を一助に、子どもの意欲の向上に繋がる授業アイデアを教職員同士で出し合っしてほしいと思います。そして、全ての学級において、人と人との関わりを大切にされた教育活動が日々展開されることを切に望むところです。

柏市学力・学習状況調査の概要及び結果について

実施日 平成30年4月5日（木）～20日（金）の期間中で、各学校が設定した日。

実施校 柏市内小中学校（小学校 42校 中学校 21校）

実施学年及び実施教科等

学校種	学年	人数	実施教科等
小学校	2年	3,646人	2年から6年国語及び算数（2教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート） 6年は、社会及び理科を加えた4教科
	3年	3,656人	
	4年	3,655人	
	5年	3,630人	
	6年	3,505人	
中学校	1年	3,156人	国語、数学、社会、理科（4教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	2年	3,189人	国語、数学、社会、理科、英語（5教科）
	3年	3,177人	生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）

柏市学力・学習状況調査内容について

【学力調査事項】

- ・児童生徒の前年度の履修内容を調査。
- ・出題内容は、学習指導要領の評価の観点に基づいて出題。
- ・基礎問題と活用問題で構成されており、活用問題は「思考力・判断力」「表現力」を問う問題で出題。
- ・国語と英語は全学年で聞き取り問題と作文を出題。
- ・記述論述問題を一定量（35～50%）出題し、作図や作文の問題、論理的思考力や考えるプロセスを考慮した問題を出題。

【生活・学習意識調査事項】

- ・学習意欲、学習習慣、生活習慣、学校図書館やICTの活用等に関するアンケート調査。
小2（一部小4）から中3まで、同一設問で調査。調査項目のうち40項目は、学ぶ意欲と習慣を図る指標として数値化する。

【学力調査分析内容について】

学年・教科別に正答状況を数値で示す。

まず、当該学年教科について、全国の平均正答率と本市の平均正答率を比較し、レーダーチャート図に整理したもので全体傾向を把握できるようにした。

次に、経年変化として、本年度の当該学年教科の平均正答率と、同一児童生徒の1年前のものとの比較、前年度同学年の児童生徒のものとの比較を、レーダーチャート図にまとめております。子供たち自身の成長を把握すると同時に、前年度の子供たちとの比較をし、経年変化を2側面から分析した。

調査結果から把握できる、子供たちの良さ（強み）と課題を示し、良さを伸ばしつつ、課題を克服していくための授業改善について、改善の方向性や具体的指導例を示した。

【生活・学習意識調査について】

学ぶ意欲，学校図書館活用，ICT活用の度合いと，学習状況との比較を行い，よりよい授業改善に資する内容を記載した。

柏市学力状況結果一覧

学年		国語					社会					算数/数学					理科					英語										
		基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用			基礎		活用								
				思考・判断力	表現力				思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力			思考・判断力	表現力						
小2年	目標値	78.0	82.6	56.3	55.0	57.5						79.2	83.5	62.5	63.6	55.0																
	市町村 平均正答率	79.5	84.7	55.2	53.0	57.4						83.4	88.8	62.5	63.1	58.3																
	前年度 市町村 平均正答率	80.6	85.8	56.3	54.5	58.1						83.6	88.9	62.7	63.3	58.9																
	全国 平均正答率	81.1	86.3	56.5	55.5	57.6						84.3	89.6	63.9	64.5	60.3																
	評価	≒	≒	≒	≒	≒						≒	△	≒	≒	≒																
小3年	目標値	74.6	77.8	62.0	65.0	57.5						72.0	75.6	53.3	56.3	47.5																
	市町村 平均正答率	78.2	81.2	66.1	70.7	59.2						76.0	79.6	57.5	61.6	49.2																
	前年度 市町村 平均正答率	78.4	81.6	65.7	70.5	58.6						76.1	79.9	56.4	60.5	48.2																
	全国 平均正答率	79.9	83.0	67.6	72.8	59.7						77.5	81.1	58.9	63.2	50.3																
	評価	≒	≒	≒	△	≒						≒	≒	≒	△	≒																
小4年	目標値	68.0	72.6	47.0	48.3	45.0						67.2	73.4	43.1	45.8	35.0																
	市町村 平均正答率	70.1	74.9	48.1	49.6	45.8						73.8	79.6	51.2	55.1	39.6																
	前年度 市町村 平均正答率	71.5	76.3	49.1	50.6	46.9						74.6	80.2	52.6	56.0	42.2																
	全国 平均正答率	70.7	75.3	49.7	51.9	46.3						74.9	80.5	53.2	56.2	44.4																
	評価	≒	≒	≒	≒	≒						△	△	△	△	≒																
小5年	目標値	68.4	71.3	55.0	60.0	47.5						63.9	66.9	48.3	50.0	45.0																
	市町村 平均正答率	74.4	78.1	56.7	61.3	49.7						69.1	71.9	53.8	54.1	53.2																
	前年度 市町村 平均正答率	75.4	79.1	57.5	61.9	50.9						70.0	72.8	55.1	54.8	55.6																
	全国 平均正答率	74.2	77.9	56.1	60.9	49.1						71.5	74.3	56.9	57.3	56.0																
	評価	△	△	≒	≒	≒						△	△	△	≒	△																
小6年	目標値	68.1	72.1	49.0	53.3	42.5	66.4	69.6	49.0	50.0	47.5	63.3	68.1	42.1	48.0	27.5	69.5	72.8	59.4	55.8	70.0											
	市町村 平均正答率	72.7	77.4	49.9	54.8	42.6	67.2	70.4	49.9	52.2	46.5	67.8	73.0	44.5	52.4	24.6	72.1	76.1	59.4	56.0	69.8											
	前年度 市町村 平均正答率	72.9	77.7	49.7	53.9	43.4	67.4	70.6	49.8	52.4	46.0	67.6	72.7	44.7	52.5	25.3	70.9	74.9	58.4	55.8	66.4											
	全国 平均正答率	74.9	79.7	52.1	56.9	45.0	70.0	73.1	53.1	55.1	50.2	70.2	75.2	48.0	55.1	30.5	71.9	75.7	60.1	56.6	70.5											
	評価	≒	△	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒											
中1年	目標値	66.2	69.8	54.3	60.0	40.0	61.2	63.4	50.8	55.0	30.0	67.5	68.6	61.7	70.0	45.0	62.6	64.2	57.5	58.0	56.7											
	市町村 平均正答率	69.7	73.6	57.0	63.9	39.8	61.9	65.5	45.4	50.3	21.4	69.4	70.0	65.8	75.8	45.8	65.7	66.5	63.3	68.0	55.5											
	前年度 市町村 平均正答率	69.2	73.0	56.6	62.9	40.7	62.1	65.7	45.3	50.1	21.4	68.7	69.2	66.2	76.4	45.8	65.1	65.9	62.5	66.3	56.1											
	全国 平均正答率	69.0	72.9	56.5	62.5	41.5	62.9	66.5	46.1	50.4	24.3	69.8	70.6	65.9	76.3	45.1	64.0	64.7	62.0	64.6	57.8											
	評価	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	▼	≒	▼	≒	≒	≒	△	≒	≒	≒	≒	△	△	≒										
中2年	目標値	69.4	71.8	60.7	63.0	55.0	52.3	54.2	42.0	38.3	47.5	58.2	61.8	44.4	48.3	32.5	56.0	60.4	41.9	41.7	42.5	57.1	62.0	45.0	58.8	35.8						
	市町村 平均正答率	72.7	75.2	63.8	67.2	55.4	55.4	55.9	53.0	48.7	59.4	61.4	65.1	47.5	52.1	33.8	55.8	59.4	44.0	44.5	42.5	62.7	66.7	52.6	64.8	44.4						
	前年度 市町村 平均正答率	72.2	74.5	63.9	67.3	55.2	54.7	55.0	53.1	48.1	60.7	62.6	66.4	48.3	53.0	34.0	54.8	58.7	42.2	42.4	41.8	62.6	66.7	52.4	64.3	44.4						
	全国 平均正答率	73.0	75.2	65.0	68.1	57.2	55.7	55.8	54.7	49.9	62.0	61.9	65.9	47.0	51.3	33.9	56.0	59.5	44.4	44.5	44.1	62.4	66.8	51.2	64.4	42.5						
	評価	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	△	△	△	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	△	≒	△	△	△						
中3年	目標値	65.8	69.4	52.1	46.0	67.5	56.8	60.2	40.0	40.0	40.0	56.4	59.4	40.8	42.5	37.5	54.3	58.1	41.3	40.0	43.3	57.3	63.4	42.0	52.5	35.0						
	市町村 平均正答率	69.7	73.4	56.1	48.4	75.4	58.1	61.1	43.3	35.9	54.4	59.1	62.7	40.5	40.5	40.4	56.3	60.5	41.8	41.0	43.3	62.6	67.5	50.3	59.9	43.9						
	前年度 市町村 平均正答率	68.9	72.3	56.1	48.4	75.5	57.5	60.5	42.1	35.3	52.1	59.0	62.4	41.7	41.4	42.3	55.4	59.5	41.4	40.4	43.2	62.5	67.5	50.1	61.3	42.6						
	全国 平均正答率	70.9	74.4	57.7	49.6	78.0	58.5	61.3	44.8	36.8	56.8	59.7	63.0	42.6	42.1	43.6	55.8	59.6	42.7	41.0	45.4	62.0	67.0	49.4	60.3	42.1						
	評価	≒	≒	≒	≒	△	≒	≒	≒	≒	△	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	△	≒	△	△	△						

評価欄説明 ≒ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり

【目標値とは、問題作成時に十分に学力が備わっている状況として設定され、統計的に処理されている期待値】

【小学校の結果】

全学年、各教科全体の結果を見ると、全国平均正答率とほぼ同程度で、概ね良好な状況といえる。しかし、小学5年の国語と小学6年の理科以外の正答率は全国より下回っている。中でも、小学5年の算数と小学6年の国語・社会・算数は、全国平均正答率より2ポイント以上下回っており、今後、改善を図っていく必要がある。

各教科の基礎・活用の結果を見ると、小学5年の国語の基礎・活用と小学6年の基礎については全国平均正答率を上回った。しかし、その他については、平均正答率を下回る結果となった。中でも国語の活用（思考・判断力）や算数の活用（表現力）については、今後、より改善を図っていく必要がある。

【中学校の結果】

全学年、各教科全体の結果を見ると、全国平均正答率とほぼ同程度で、概ね良好な状況といえる。中でも、中学1年の国語と理科、中学2年の英語、中学3年の理科と英語は、全国平均正答率を上回った。英語については、7年連続して良い結果が見られる。

各教科の基礎・活用の結果を見ると、中学1年は国語の活用と理科の基礎・活用において、中学2年生は英語の活用、中学3年も英語の活用においてよい結果が見られた。一方で、国語・社会・理科の活用（表現力）については課題がある結果が見られ、今後、改善を図っていく必要がある。

以上が、柏市全体の結果概要になるが、各学校においては、この結果がすべて当てはまるわけではない。従って、各学校に送付されている結果について、校内で詳細に分析することが重要となる。また、分析結果について、中学校区の学校と共有することも大切な視点である。各中学校区で「子供をどう育てるか」など協議し、授業改善につなげていくことを期待する。

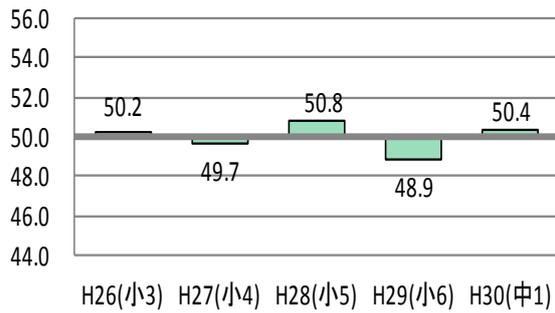
過去5年間の学力状況の推移一覧

過去5年間の児童生徒の変化を標準化得点によりグラフ化したものを示す。

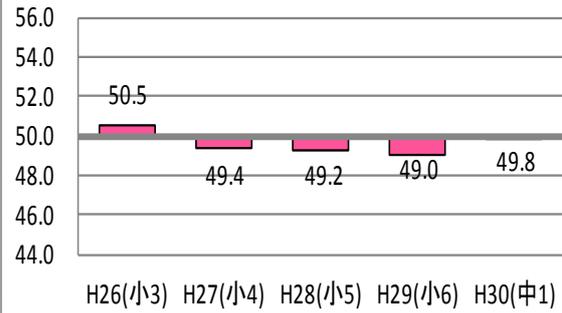
【中央の線が標準スコアとなり、良い場合は上向き、劣る場合は下向きに表示】



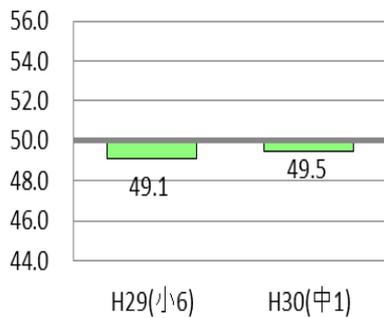
現中1 国語



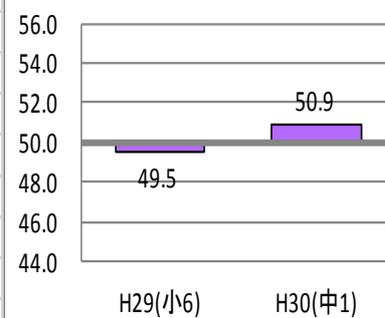
現中1 算数/数学



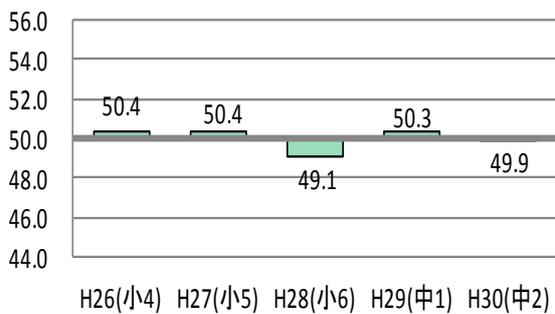
現中1 社会



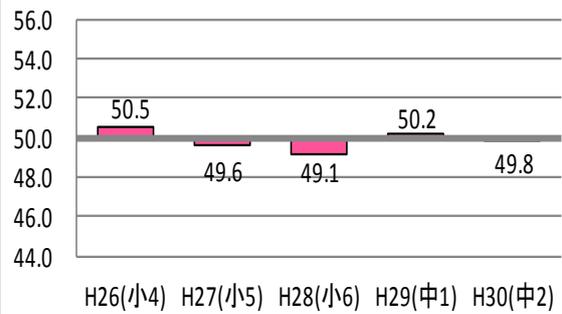
現中1 理科



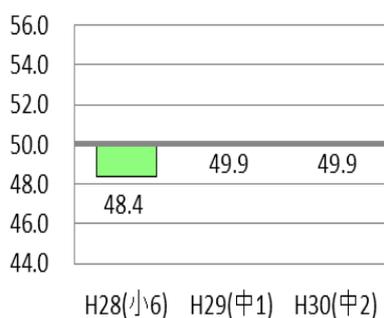
現中2 国語



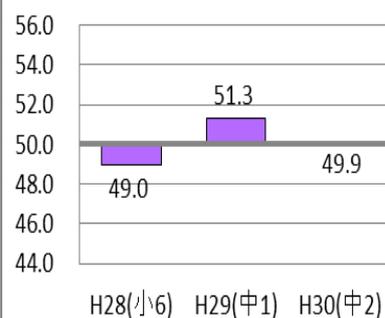
現中2 算数/数学

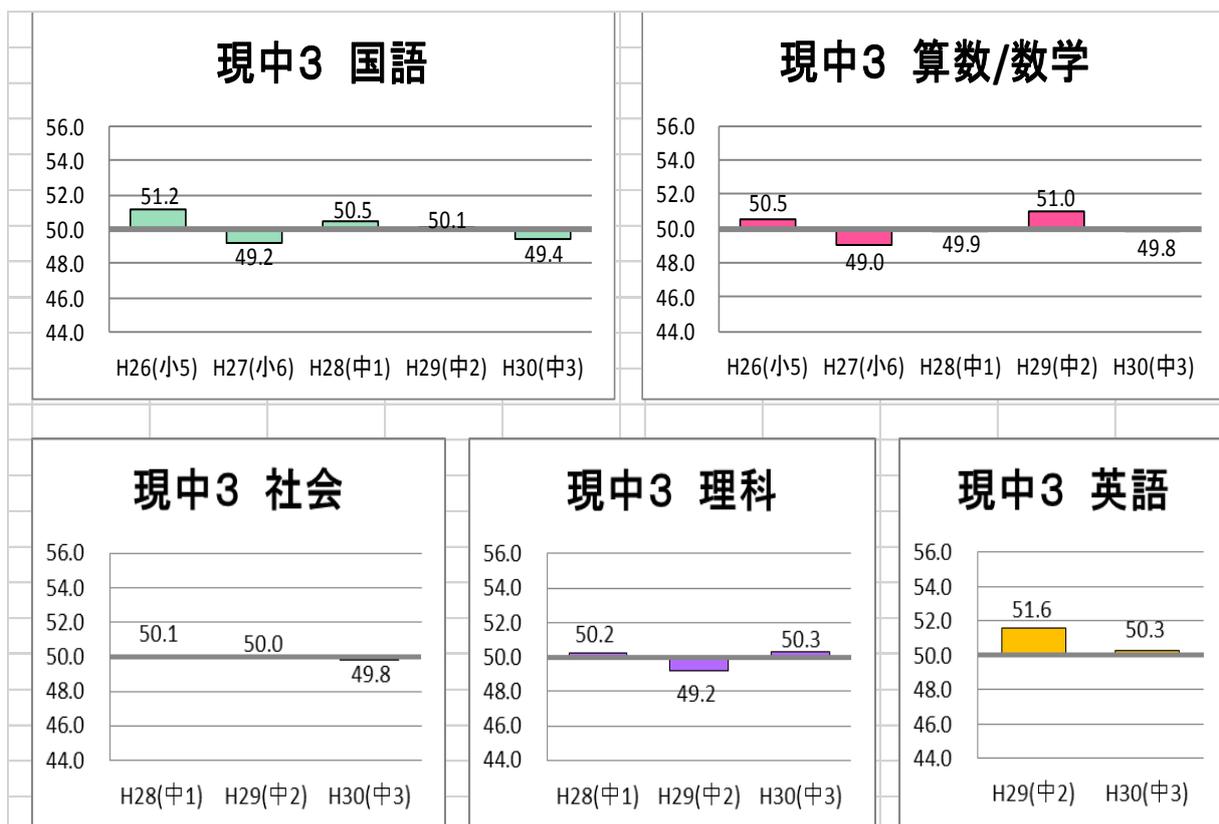


現中2 社会



現中2 理科





今年度も、算数・数学において各校で正答率が低かった問題を分析し、学年や学級ごとに『課題のある問題』として全校に配付した。子どもがつまづきやすい単元や内容を明確にすることで、日々の授業を改善し、個別の支援に役立てることをねらいとしているので、ぜひ役立ててほしい。

また、柏市の同一集団の児童生徒の状況を全国（標準スコア）と比較すると、経年により力が落ちていく集団が見られる。この危機感を柏市全教職員で共有し、児童生徒が意欲を持って学べるよう、授業改善を強く押し進める必要がある。

学ぶ意欲と学ぶ習慣を可視化するための「4つのC」について

柏市教育委員会では、児童生徒の学力向上において、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけることが最重要課題であるとしている。

なぜ、意欲と習慣に焦点を当てているのか。

児童生徒が大人として活躍する21世紀中盤から後半の社会は、知識基盤社会と言われ、“正解と言われる解”の無い課題に対して、他者と協力し合いながら最善を尽くし、新たなものを創造する力が求められている。知識を利用しながら定型的な処理をする仕事は、第四の産業革命と言われるロボットの台頭により無くなるだろうと言われ、数多くの仕事が消えて無くなる仕事リストに掲げられ、今の小学生の65%は、現在存在しない職業に就くだろうとも言われている。

このような近未来社会へ向けて「学力」を育む時、「学力」を「学んだ結果」として捉えるのではなく、「学ぶ力」として捉えることが、21世紀を生き抜く為の「学力」の実態に即していると考えられる。そして、この学ぶ力の根底となるものが学ぶ意欲と学ぶ習慣である。

ここに示す4つの力「見通す力（Concept）」「挑戦する力（Challenge）」「関わり合う力（Communication）」「自律する力（Control）」は、変化の激しい時代を生き抜く柏市の児童生徒に身に付けて欲しい力である。即ち「4つのC」＝学ぶ力であり、それは困難に直面したとき乗り越える為に学ぼうとする力であり、生涯学び続ける力である。我々は、日々の学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む教育活動の中で児童生徒の学ぶ力が培われていくものと考えている。

学習状況調査では、児童生徒一人一人の「4つのC」の定着状況を数値化できるように、全学年共通で40の質問項目を設定した。この数値が63校共通の指標となり、児童生徒の学ぶ力が全校で共有化され、授業改善を図る為の指標となることを目指すものである。

学ぶ意欲と学ぶ習慣を支える4つの力（4つのC）はこう決まった

平成25年度第2回調査結果から、学校が好き、国語や算数が好きと回答する児童生徒の割合が正答率も高く、学ぶ意欲と正答率の相関関係が認められた。さらに、好きと回答する割合は、小学校高学年から急激に低下し、その低下と正答率の低下にも相関が認められ、学ぶ意欲を持続することが課題であると認識された。

さらに、学ぶ習慣の指標とされる家庭学習時間30分以内と回答する児童生徒が、小学校4年生で50%存在するが、中学校3年でも40.6%存在するという事実を把握し、学ぶ習慣を身につけることの重要性も認識された。

平成26年度第3回調査結果を元に、児童生徒の学ぶ意欲と学ぶ習慣の状況について分析を行った。分析の結果から、中学校区単位で取り組んだり、学校全体の授業改善を通して取り組んだり、組織的に授業における指導改善を行った学校で、一定の効果が見られることがわかった。

このことから、意欲と習慣に関する指標を明確に設定し、校内や中学校区において共通目標を持って取り組めるようにすることが重要であることがわかった。そこで、これからの子供たちに必要な力を、学校管理職・学校教職員・市役所事務系職員・指導主事・管理主事等総勢50名近くにより、複数回のブレインストーミングを通して抽出されたキーワードが、「見通す力」「挑戦する力」「関わり合う力」「自律する力」の4つの力である。

当初、「挑戦する力」と「関わり合う力」の2つを意欲、「見通す力」と「自律する力」の2つを習慣とする考えもあったが、4つの力それぞれに、意欲的に取り組むことと、習慣化することの両面があるとの結論に至り、4つの力ごとに「意欲」に関する質問項目と「習慣」に関する質問項目を5項目ずつ設定して、計40項目を評価指標とした。

4つの力（4つのC）質問項目一覧

4つのC	見出し	番号	小学校2～4年生用	小学5年生～中学校1年生用	中学校2・3年生用		
コンセプト	意欲	夢・目標	1	しょうらいのゆめはありますか。	将来の夢や目標を持っていますか。	将来の夢や目標を持っていますか。	
		計画	4	きまった時間にしゅくだいをして していますか。	ものごとに取り組む時、計画を立て て取り組んでいますか。	物事に取り組む時、計画を立てて取 り組んでいますか。	
		計画の見直し	5	やろうとしたことがうまくいかなかったと き、べつのやりかたをかながえますか。	ものごとが計画的に進まない時、計 画の見直しをしていますか。	物事が計画的に進まない時、計画の 見直しをしていますか。	
		地域社会 への関心	28	テレビのニュースを見ています か。	地域・社会で起こっているできごとやニ ュースに関心がありますか。	地域・社会で起こっているできごと やニュースに関心がありますか。	
		地域社会 への貢献	27	学校でべんきょうしたことを、だれかのた めにやくだてたいとおもいますか。	学校で学んだことを、地域や社会のため に役立てたいと思いますか。	学校で学んだことを、地域や社会の ために役立てたいと思いますか。	
	見通す力	習慣	学習のめ あて	6	めあてをかながえながらべんき ょうをしていますか。	めあてや学習課題を意識して授業 に参加していますか。	めあてや学習課題を意識して授業 に参加していますか。
			予想	7	もんだいをとくときに、よそを たてていますか。	課題に対して予想を立てて勉強し ていますか。	課題に対して予想を立てて勉強し ていますか。
			本・ICT 活用	8	本でしらべることがすぎですか。	課題を解決するために、本やコンピ ュータなどを活用していますか。	課題を解決するために、本やコンピ ュータなどを活用していますか。
			学習方法 （関わり）	15	わからないことがあったとき、人に聞いたり じぶんでしらべたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり 自分で調べたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり 自分で調べたりしていますか。
			学習の振 り返り	20	じゅぎょうのおわりに、まとめや ふりかえりをしていますか。	ものごとに取り組んだ時、まとめや 振り返りをしていますか。	物事に取り組んだ時、まとめや振り 返しをしていますか。
チャレンジ	意欲	学習の目 標	3	ことしのもくひょうはありませ んか。	ものごとに取り組む時、目標を立て て取り組んでいますか。	物事に取り組む時、目標を立てて取 り組んでいますか。	
		発見する 喜び	25	べんきょうをして、あたらしいこ とを知ることはいはれしいですか。	学習して新しいことを知ったり、身につ けたりすることはうれしいですか。	学習して新しいことを知ったり、身につ けたりすることはうれしいですか。	
		困難さへ の挑戦	36	むずかしいことでもちようせん していますか。	難しいことでも、失敗をおそれない で挑戦していますか。	難しいことでも、失敗をおそれない で挑戦していますか。	
		粘り強さ	37	こまったときに、あきらめずにいろ いろなやり方をかながえていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろ いろな方法を考えていますか。	困難に直面しても、あきらめずにい ろいろな方法を考えていますか。	
		承認経験	41	友だちからほめられてうれし かったことはありますか。	友だちから認められてうれし かったことはありますか。	友だちから認められてうれし かったことはありますか。	
挑戦する力	習慣	夢・目標 への努力	2	そのゆめにむかってがんば っていますか。	将来の夢や目標に近づくために努 力していますか。	将来の夢や目標に近づくために努 力していますか。	
		ノートの 工夫	16	ていねいにノートを書いていま すか。	ノートの取り方について、自分なり の工夫をしていますか。	ノートの取り方について、自分なり の工夫をしていますか。	
		間違いの 見直し	22	テストでまちがえた問だけは、あ とでやりなおしていますか。	テストでまちがえた問題は、後でや り直していますか。	テストでまちがえた問題は、後でや り直していますか。	
		学びの活 用	26	学校でべんきょうしたことを、い えでの生活に生かそうとしていますか。	学校で学んだことを、普通の生活に 生かそうと考えていますか。	学校で学んだことを、普通の生活に 生かそうと考えていますか。	
		読書習慣	23	すすんで本を読んでいますか。	進んで本を読んでいますか。	進んで本を読んでいますか。	

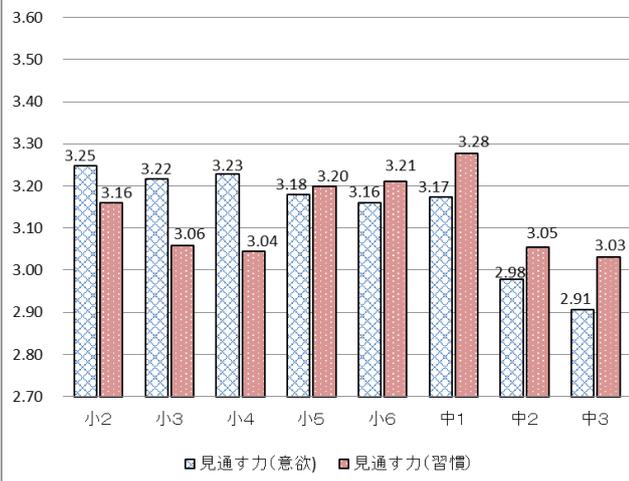
コミュニケーション 関わり 合う 力	意欲	地域行事への参加	29	ちいきのぎょうじ（おまつりなど）やボランティアかつどうにさんかしていますか。	地域の行事やボランティア活動に参加しようと思いますか。	地域の行事やボランティア活動に参加しようと思いますか。
		思いやり（意欲）	38	人の気もちがわかる人になりたいと思いますか。	人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。	人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。
		傾聴（意欲）	17	話し合いをする時、友だちの話をしっかりと聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えをしっかりと聞きたいと思いますか。	話し合いをする時、相手の考えをしっかりと聞きたいと思いますか。
		あいさつ	30	じぶんから先にあいさつしていますか。	自分から先にあいさつするところをこころがけていますか。	自分から先にあいさつするところをこころがけていますか。
		積極的な発言	18	話し合いをする時、じぶんの思ったことやかんがえたことをすすんで話していますか。	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言しようと思いますか。	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言しようと思いますか。
	習慣	家庭での会話	31	いえの人と学校のできごとについて話をしていますか。	家の人と学校のできごとについて話をしていますか。	家の人と学校のできごとについて話をしていますか。
		傾聴（習慣）	44	先生や友だちのはなしをよく聞いていますか。	先生や友だちの話をよく聞いていますか。	先生や友だちの話をよく聞いていますか。
		思いやり（習慣）	45	学校で、友だちの気もちを考えてこうどうしていますか。	普段の生活の中で、相手の立場を考えて行動していますか。	普段の生活の中で、相手の立場を考えて行動していますか。
		仲間づくり	46	友だちになりたいとおもった時、じぶんから声をかけていますか。	友だちになりたいと思った時、自分から声をかけていますか。	友達になりたいと思った時、自分から声をかけていますか。
		意思表示	49	先生や友だちにいいたいことをうまくはなすことはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく伝えることはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく伝えることはできますか。
コントロール 自律する 力	意欲	貢献意欲	39	しょうらい人のやくに立つ人になりたいと思いますか。	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
		自己肯定感	40	じぶんによいところがあるとおもいますか。	自分に良いところがあると思いますか。	自分に良いところがあると思いますか。
		授業への集中	19	じゅぎょうにしゅう中していますか。	集中して授業に取り組んでいますか。	集中して授業に取り組んでいますか。
		がんばっていること	51	学校生活でがんばっていることはありますか。	学校生活で打ち込めるもの、がんばっていることはありますか。	学校生活で打ち込めるもの、がんばっていることはありますか。
		運動への意欲	52	体をうごかすこと（うんどう・スポーツ・外あそびなど）はすきですか。	体を動かすこと（運動・スポーツ・外遊びなど）は好きですか。	体を動かすこと（運動・スポーツ・外遊びなど）は好きですか。
	習慣	規範意識	42	学校のきまりをまもっていますか。	学校の規則やクラスで決めたことを守っていますか。	学校の規則やクラスで決めたことを守っていますか。
		家庭学習	21	しゅくだいをきちんとやっていますか。	宿題や課題をきちんとやっていますか。	宿題や課題をきちんとやっていますか。
		素直さ	50	じぶんがわるかったとおもうときは、すなおにあやまっていますか。	自分が悪かったと思う時は、すなおにあやまっていますか。	自分が悪かったと思う時は、すなおにあやまっていますか。
		運動習慣	53	体いくのじゅぎょういがいに、すすんで体をうごかしていますか。	体育の授業以外に、積極的に体を動かしていますか。	体育の授業以外に、積極的に体を動かしていますか。
		規則正しい生活	54	まい日おなじくらのじかんにねて、あさはじぶんでおきていますか。	毎日同じくらの時刻に寝て、朝は自分で起きていますか。	毎日同じくらの時刻に寝て、朝は自分で起きていますか。

4つの力(4つのC)の状況について

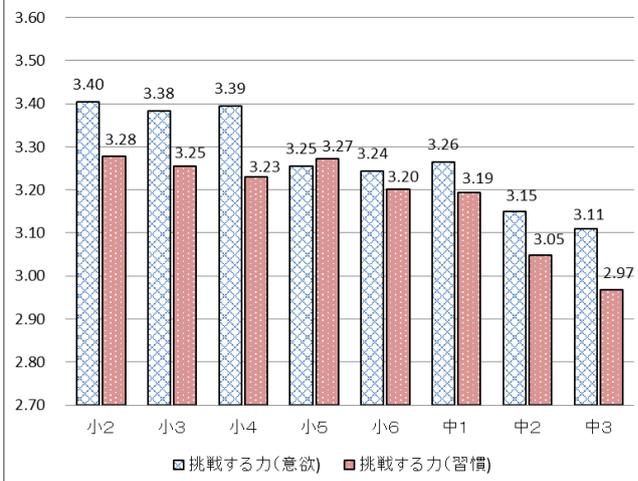
柏市全体では、4つの力の総合平均が、平成27年度3.19、平成28年度3.24、平成29年度3.26と向上し続け、平成30年度は昨年度と同じ3.26となった。昨年度と同様の値となったことは、各学校がそれぞれの目標を持ち、継続して取り組んでいる成果であるといえる。ただし、学校間における差はみられるので、各学校で状況を詳しく分析する必要がある。

同一集団における変容を見ると、中学2年のコンセプト(見通す力)の意欲及び習慣の数値が、前年度の中学1年時に比べて0.2ポイント前後下回っている。各中学校において、いわゆる「中1ギャップ」への対応がさらに求められていると考えられる。これらの対応を含め、学ぶ意欲を高めるための授業改善や教育課程の工夫を引き続き行っていただきたい。また、改善の手立てが有効に機能したものについては、共有化を図っていきたい。

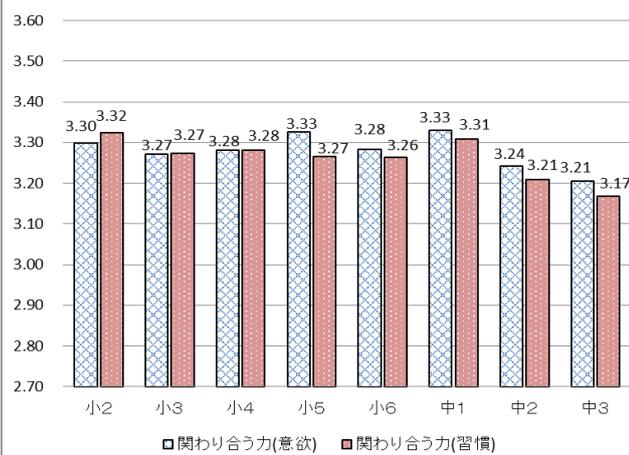
コンセプト(見通す力) 意欲と習慣



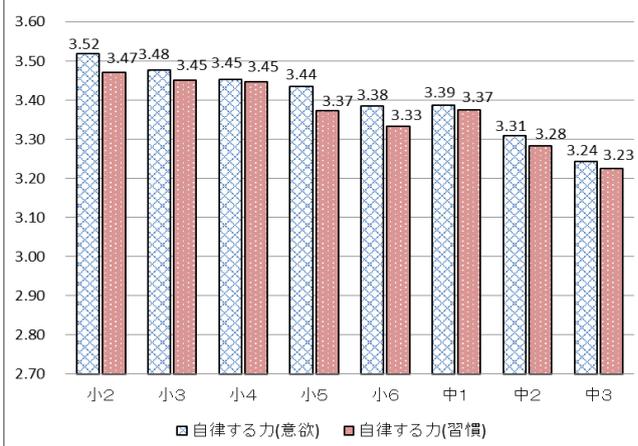
チャレンジ(挑戦する力) 意欲と習慣



コミュニケーション(関わり合う力) 意欲と習慣



コントロール(自律する力) 意欲と習慣



平成 30 年度 生活・学習意識調査 結果一覧表(平成 29 年度と比較して)

		4 C 総 平均	意 欲	習 慣	見通す力		挑戦する力		関わり合う力		自律する力	
					意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	意 欲	習 慣
H29	小2	3.32	3.35	3.29	3.25	3.12	3.38	3.28	3.26	3.31	3.50	3.47
	小3	3.30	3.33	3.26	3.22	3.06	3.38	3.23	3.26	3.29	3.47	3.46
	小4	3.29	3.33	3.25	3.23	3.04	3.38	3.22	3.26	3.29	3.45	3.45
	小5	3.32	3.33	3.31	3.23	3.22	3.29	3.29	3.35	3.32	3.45	3.42
	小6	3.28	3.29	3.27	3.19	3.21	3.26	3.21	3.31	3.29	3.40	3.36
	小学計	3.30	3.33	3.28	3.22	3.13	3.34	3.25	3.29	3.30	3.46	3.43
	中1	3.29	3.30	3.29	3.19	3.23	3.28	3.19	3.32	3.33	3.40	3.41
	中2	3.17	3.18	3.16	3.02	3.04	3.17	3.05	3.24	3.24	3.31	3.30
	中3	3.09	3.09	3.08	2.90	2.99	3.09	2.94	3.17	3.16	3.22	3.23
	中学計	3.19	3.19	3.18	3.04	3.09	3.18	3.06	3.25	3.25	3.31	3.32
小中計	3.26	3.28	3.24	3.16	3.12	3.28	3.18	3.27	3.28	3.40	3.39	
H30	小2	3.34	3.37	3.31	3.25	3.16	3.40	3.28	3.30	3.32	3.52	3.47
	小3	3.30	3.34	3.26	3.22	3.06	3.38	3.25	3.27	3.27	3.48	3.45
	小4	3.29	3.34	3.25	3.23	3.04	3.39	3.23	3.28	3.28	3.45	3.45
	小5	3.29	3.30	3.28	3.18	3.20	3.25	3.27	3.33	3.27	3.44	3.37
	小6	3.26	3.27	3.25	3.16	3.21	3.24	3.20	3.28	3.26	3.38	3.33
	小学計	3.30	3.32	3.27	3.21	3.13	3.34	3.25	3.29	3.28	3.45	3.42
	中1	3.29	3.29	3.29	3.17	3.28	3.26	3.19	3.33	3.31	3.39	3.37
	中2	3.16	3.17	3.15	2.98	3.05	3.15	3.05	3.24	3.21	3.31	3.28
	中3	3.11	3.12	3.10	2.91	3.03	3.11	2.97	3.21	3.17	3.24	3.23
	中学計	3.18	3.19	3.18	3.02	3.12	3.17	3.07	3.26	3.23	3.31	3.29
小中計	3.26	3.28	3.24	3.14	3.13	3.28	3.19	3.28	3.26	3.41	3.37	

4つの力（4つのC）を活用する授業改善について

(1) 効果的な実践を共有する

「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を可視化する「4つのC」の改善に取り組むことは、結果として子供たちに学ぶ力を育成することとなり、柏市が目指す学力の育成に繋がると考えている。

4つのCに関する質問は、小学校2年生から中学校3年生まで共通内容で実施した。(文言は年齢相応に変更)これは、課題を共有化し、効果のある実践を共有化することにつながるように意図して行っていることである。各学校・各学級の課題解決に向けた取り組みが、オール柏の実践に反映していけることを理想に掲げ、お互いの実践交流が頻繁に行われることを期待している。

(2) 指標を生かした授業改善マネジメントを進める

課題とは、目指す姿と現状との差のことを指す。

自校の課題を明確にするために、4つのCの指標を活用し、目指す子供の姿と現状を把握した上で取り組めるよう、次のような手立てを講じるよう努めたい。

① 子供たちの今の姿（現状）を共有する

学習状況調査の4つのCのデータから、課題は何か、自校の強みと弱み等を分析し全職員（事務やサポート・図書館・理科等の人材も含むと良い）で共有化を図る。

② 目指す子供の姿の共有化

課題（現状と目指す姿との差）が明確になったら、全職員によるワークショップ型研修により、自校の子供たちに付けたい力を出し合い、共通理解を深めながら最も力

を入れて取り組む内容（指標の質問項目）を1～3点程度に定め、全職員で共有する。

③ 課題解決に向けた実践の手立てを共有する

最も力を入れて取り組む内容（指標の質問項目）が定まったら、この力を育むために授業の中で何に留意し、どう取り組むか（教科・学年ごとに）の方針を立て実践する。また、学校生活や学校行事の中でどう取り組むかを共通理解する。これらの取組の中で効果的な手立てがあれば実践の共有化を図る。

④ 子供たちの姿を見取りながら実践を深める

柏市学力学習・状況調査は年1回であるが、学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む為の日々の実践が重要である。課題に偏ることなく、指標となる項目をもとに、子供たちの意識の変化や指導の効果を検証し、子供たちの現状を見取りながら実践を進めることが大事である。授業改善が子供たちの学ぶ力の育成に繋がった時、成就感や達成感とともに、組織としての一体感を得ることができる。

(3) 家庭や地域との連携に生かす

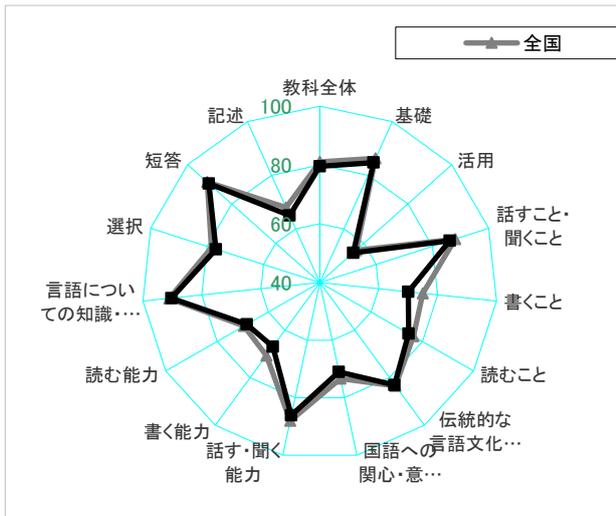
指標から自校の課題を明確にして、全職員で共通実践を行うと同時に、家庭や地域の協力が必要な項目について1～2点程度選び、家庭や地域に具体的に協力を依頼することも大事である。教育ミニ集会等のテーマとして、全職員で行ったようなワークショップを実施して、参加者みんな決めて、参加者みんなで活動することにより、マネジメントサイクルを生かした取組が実施できる。

(4) 強みを生かし、重点的に取り組む

学校教育目標に照らし、4つのCに現れる子供たちの実態の中から、強み（得点が高いもの）を生かしながら、弱みを引き上げる工夫を図り、課題となっているもの全てに取り組むといった、総花的な取組みにならないよう留意したい。

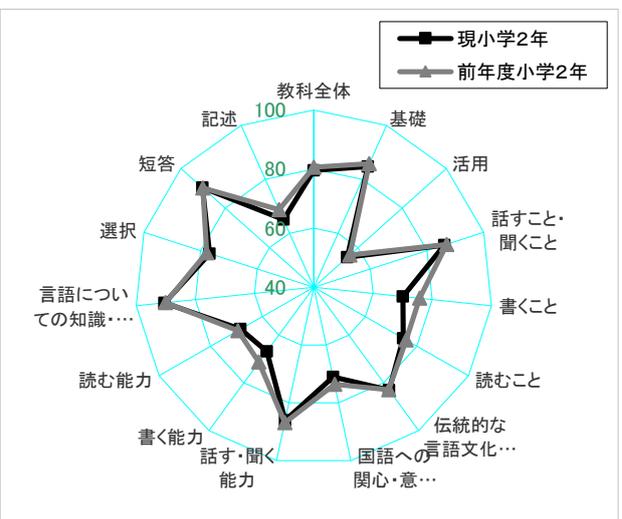
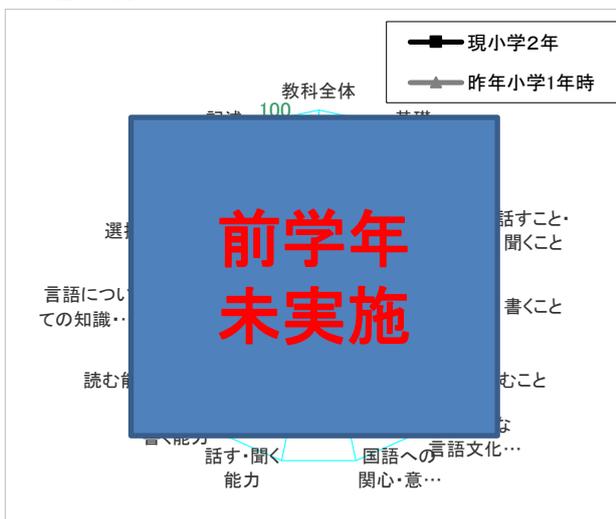
小学 2年 国語

1. 全体傾向



コメント
 ・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。
 ・「書くこと」の領域の平均正答率は、全国より5ポイント低く課題がある。
 <問題別>
 ・「漢字を読む・書く」の平均正答率は、全ての問題が90%前後と高い。良好である。
 ・「与えられた情報を読み取って、例にならって文を書く(記述式)」の平均正答率は、全国と比較すると上回っているものの、平均正答率は低く課題である。また、約2割の児童が無回答である。
 ・「自分の考えが明確になるように書く(記述式)」の平均正答率が低く課題である。全国と比較すると約12ポイント下回っている。
 ・「話題に沿った質問をすることができる」の平均正答率は、全国と比較すると、約4ポイント下回っている。

2. 経年変化



コメント

コメント
 ・平均正答率は前年度との2年生と同程度である。
 ・「書くこと」の領域の平均正答率は、前年度と比較すると、約6ポイント下回った。
 <問題別>
 ・「自分の考えが明確になるように文を書く(記述式)」の平均正答率は、前年度と比較すると約13ポイント下回った。

3. 強みと弱み

○「漢字を読む・書く」「大事なことを落とさないで聞き取る」は、約90%以上の児童が正答しており、強みといえる。

- 課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。
 - ・「話すこと・聞くこと」では、話すことと聞くことを一体化した指導をしていく。話し手だけでなく聞き手への指導にも重点をおき、話し手の発言を受けて、聞き手も関連した発言をする(質問する、復唱して確かめる等)活動を充実させる。
 - ・「書くこと」では、表記面での条件(使用する言葉、文字数、文末表現等)を提示して、それらに応じながら記述させる指導も取り入れていく。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

1年 しらせたいことをかこう

—— 見つけたことを書いてみよう ——

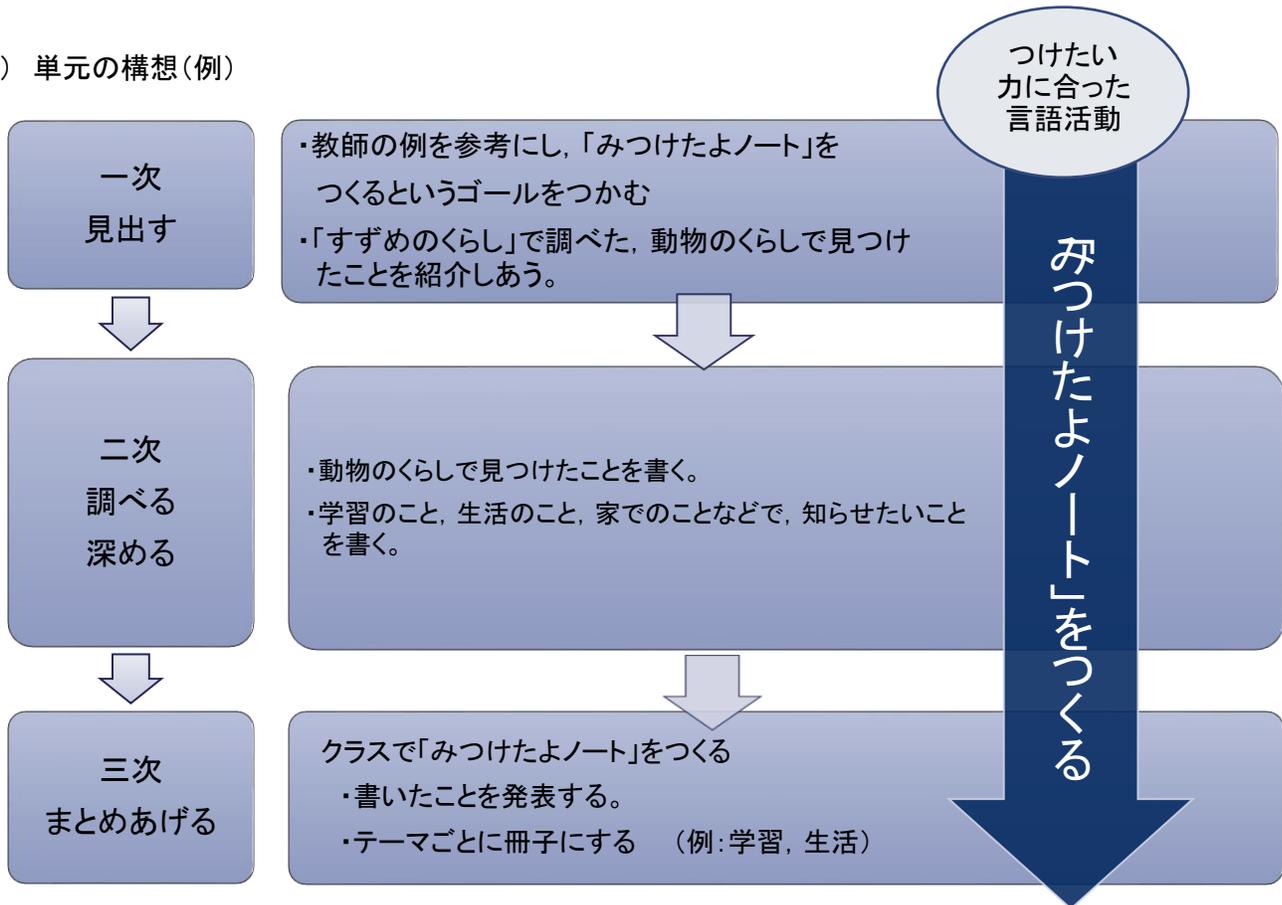
(2) つけたい力

経験したことや想像したことなどから書くことを見付け, 必要な事柄を集めたり確かめたりして, 伝えたいことを明確にすること (B 書くこと-A)

(3) つけたい力に合った言語活動

「みつけたよノート」をつくる

(4) 単元の構想(例)

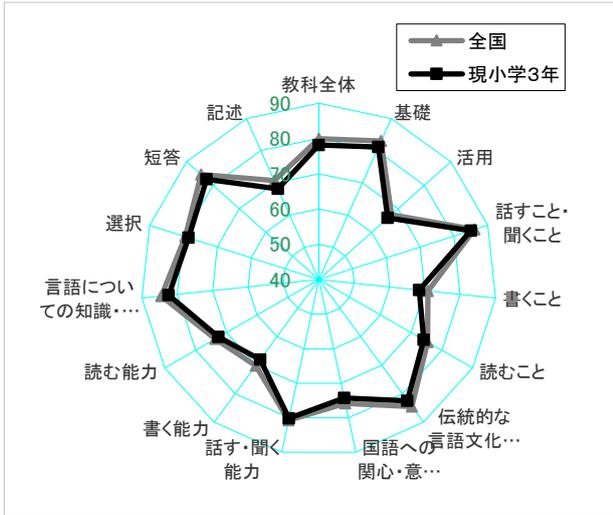


指導のポイント!

1年生の頃から, 自分の言葉で文章を書く経験をたくさんしていくことで, 意欲的に書くことができるようになります。生活経験が少ないので, 書くテーマを与えて様々な体験の後に見つけたことを書かせていくとよいでしょう。書いたことを, 朝の会などで発表するなど, 日常の活動につなげることもできます。慣れてきたら, 授業のまとめも穴埋めではなく, 自分の言葉で書かせるように, 1年生から取り組むことも大切です。

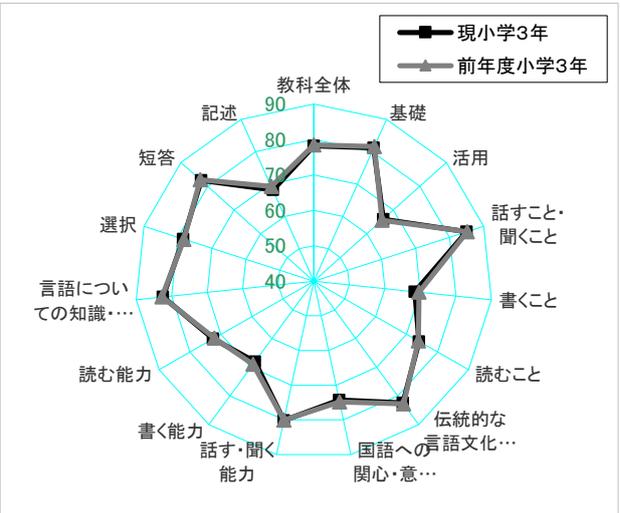
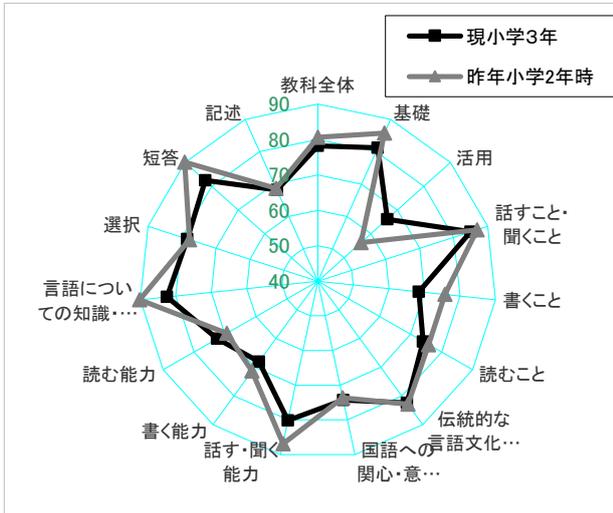
小学 3年 国語

1. 全体傾向



コメント
 ・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。
 <問題別>
 ・「漢字を読む」の平均正答率は、90%以上あるいは全国を上回っており、良好である。
 ・「大事な言葉を読み取って丁寧な言葉で書く(記述式)」の平均正答率は低く課題である。
 ・「自分の考えが明確になるように、具体的に書く(記述式)」の平均正答率は、全国と比較すると約6ポイント下回っている。

2. 経年変化



コメント
 ・教科全体の平均正答率は2年生時とほぼ同等である。
 ・全国平均との標準スコアで2年生時と比較するとほぼ同等である。

コメント
 ・平均正答率は前年度との3年生と同程度である。
 <問題別>
 ・「自分の考えが明確になるように具体的に書く」の平均正答率は、前年度と比較すると約4ポイント下回った。

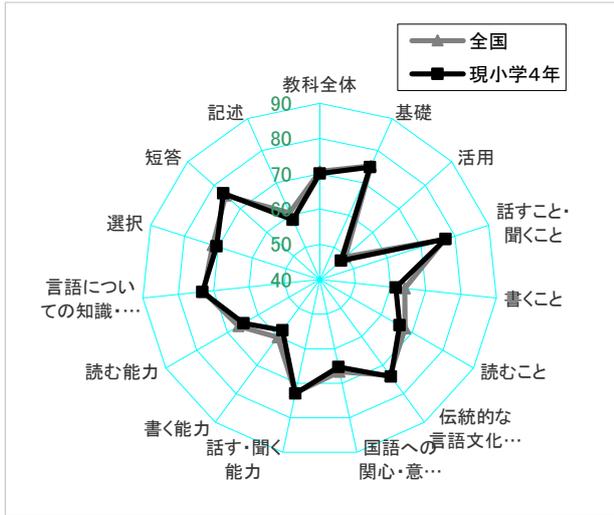
3. 強みと弱み

○「漢字を読む」「大事なことを落とさないで聞き取る」は、ほぼ約90%以上の児童が正答しており、強みといえる。

- 課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。
 - ・「書くこと」では、自由記述だけでなく、表記面での条件(使用する言葉、文字数、文末表現等)を提示して、それらに応じながら記述させる指導も取り入れていく。
 - ・他教科と関連づけたり、書く目的意識を高めるゴール(発信のあり方)を工夫し、子供たちの書きたくなる気持ちを喚起する学習を仕組んでいく。

小学 4年 国語

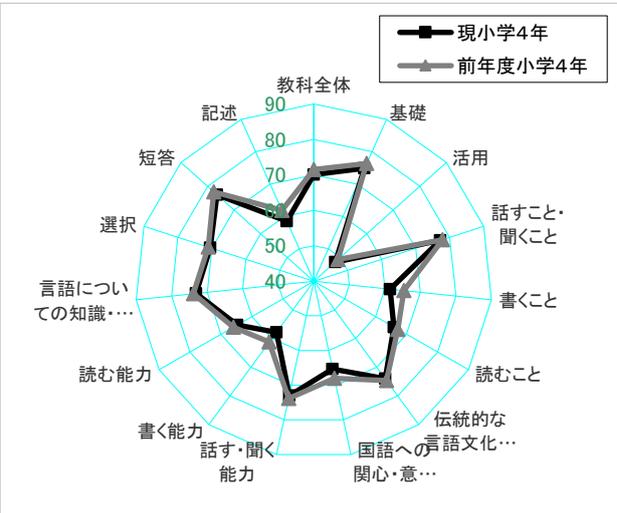
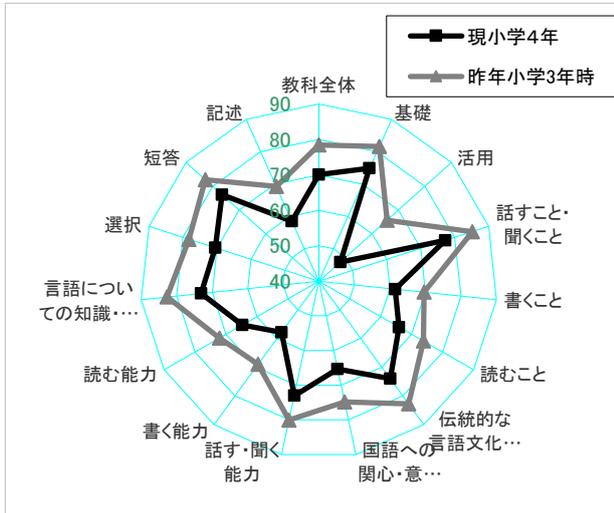
1. 全体傾向



コメント

・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。
 <問題別>
 ・「漢字を読む」の平均正答率は、どの問題も約85%を上回っており、良好である。
 ・「ローマ字を読む・書く」の平均正答率は、全国と比較しても上回っているものの、正答率は低く課題である。
 ・「表と文を関連づけて考える」は、平均正答率が大変低く課題である。
 ・「互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合う」問題は、平均正答率が大変低く、話題にそった内容の質問を書くことができない児童が多い。
 ・「作文」の問題では、平均正答率が低く、自分の意見は書けるものの、条件に応じた文章量や段落構成で書くことができなかった。

2. 経年変化



コメント

・教科全体の平均正答率は3年生時より下回った。
 ・全国平均との標準スコアで3年生時と比較するとほぼ同等である。

コメント

・平均正答率は前年度との4年生と同程度である。
 <問題別>
 ・「自分の意見の説明を書く」の平均正答率は、前年度と比較すると約9ポイント下回った。

3. 強みと弱み

○「漢字を読む」は約85%以上、「話の中心に気をつけて聞く」は、約90%以上の児童が正答しており、強みといえる。

●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。

- ・「書くこと」では、自分の考えを説得力をもって伝えるために、図、表、グラフなどの根拠となる資料を用いて、説明する文章を書く活動を取り入れる。また、自由記述だけでなく、表記面での条件(段落構成、文字数、等)を提示して、それらに応じながら記述させる指導も取り入れていく。
- ・「話すこと聞くこと」では、小グループでの話し合いの際に、司会や提案者など、児童一人一人にそれぞれの役割を果たす経験をさせていく。特に、司会の経験をどの子にもさせ、グループ内の発言を整理したりまとめたりできる力を高めていく。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

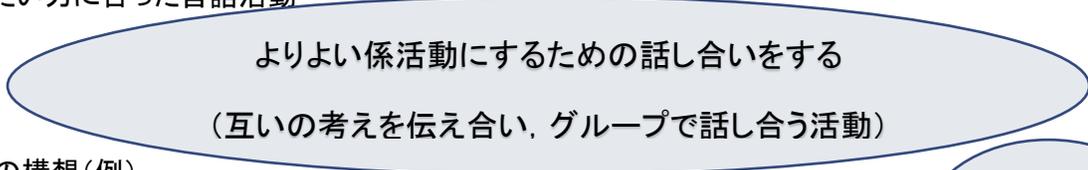
3年 話し合って, みんなの考えをまとめよう 『係の活動について考えよう』

—— 係活動バージョンアップ大作戦! ——

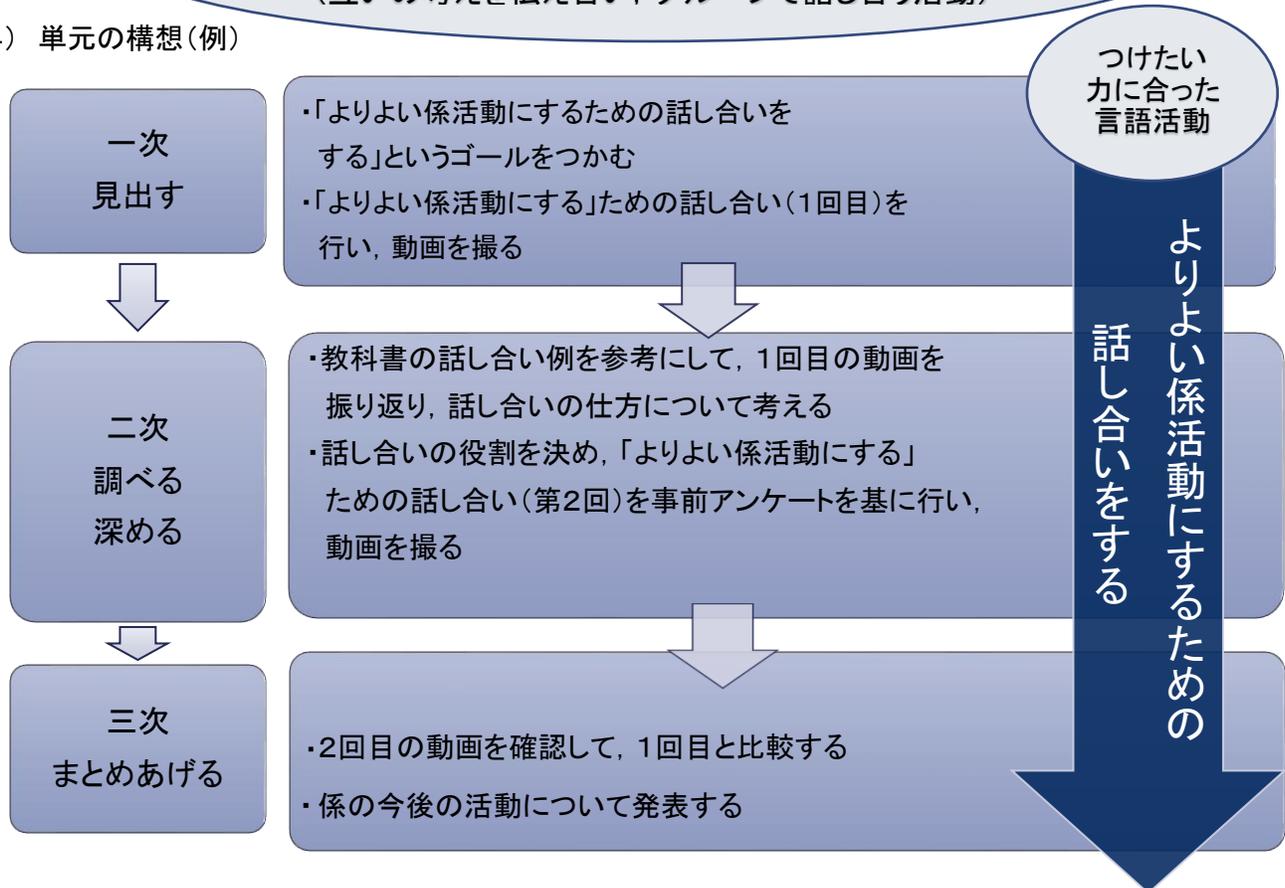
(2) つけたい力

目的や進め方を確認し, 司会などの役割を果たしながら話し合い, 互いの意見の共通点や相違点に着目して, 考えをまとめること。(A 話すこと・聞くこと一オ)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)

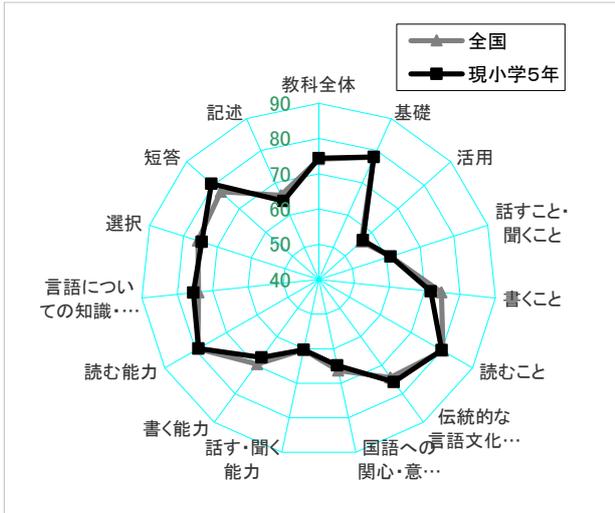


指導のポイント!

「よりよい係活動にする」という日常生活に結び付いた, 話し合う必然性のある題材を用いた学習です。動画を撮って自分たちの話し合う姿を振り返ることで, 客観的に話し合い方や話し合うことの良さを身に付けていくことができます。この話し合いが高学年に向けてグループから学級全体へとつなげていけるよう, 共通点と相違点, また意見の根拠を明確にした話し合い活動が望まれます。一度限りの学習で終わらないよう, テーマを決めて継続的に話し合いが行われるとよいでしょう。

小学 5年 国語

1. 全体傾向



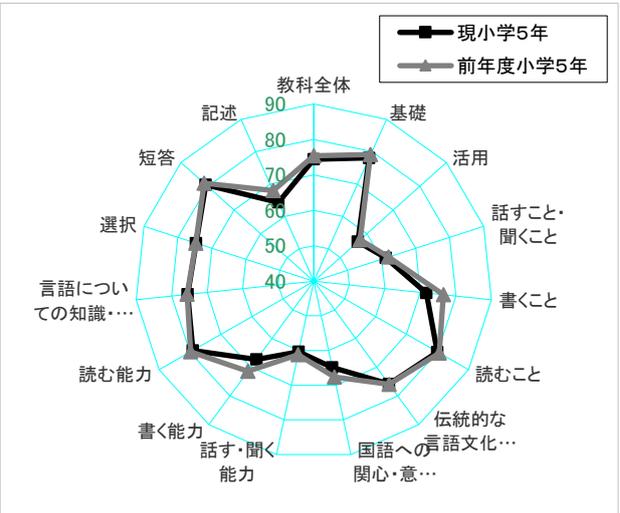
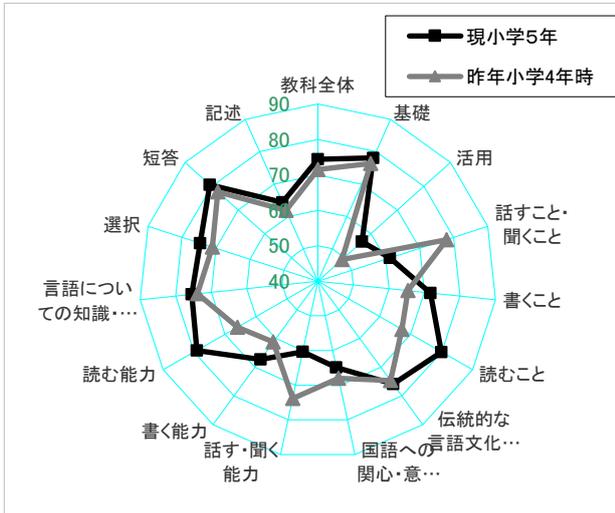
コメント

・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。

<問題別>

- ・「漢字を読む・書く」の平均正答率は、85%以上あるいは全国を上回っており良好である。
- ・「述語の理解」の平均正答率は、全国と比較すると、約7ポイント下回っており課題である。
- ・「資料と話し合いを関連づけて考える」問題の平均正答率は低く、課題である。
- ・「話し手の意図を考えながら、メモをとる」問題の平均正答率は大変低く、聞き取ったメモを基に、話の内容を書くことができない児童が多かった。

2. 経年変化



コメント

- ・教科全体の平均正答率は、4年生時とほぼ同等である。
- ・全国平均との標準スコアで4年生時と比較するとほぼ同等である。

コメント

- ・平均正答率は前年度との5年生と同程度である。
- ### <問題別>
- ・「修飾語について理解」の平均正答率は、全国比較・前年度比較ともに、約4ポイント上回った。
 - ・「意見と理由を区別して書く」では、前年度と比較して6ポイント下回った。

3. 強みと弱み

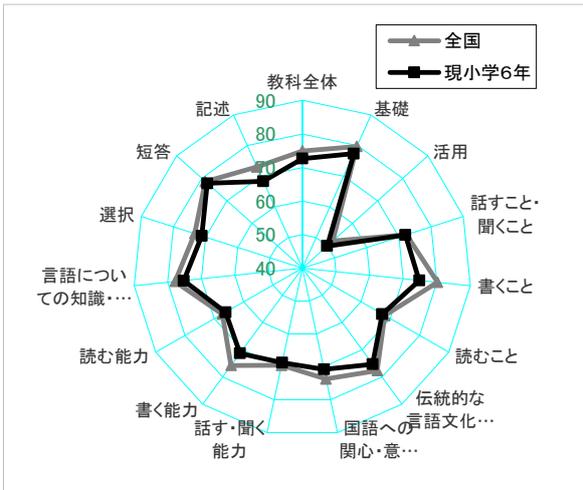
○出題の29問中19問が、平均正答率70%を上回っている。特に「漢字を読む・書く」は、平均正答率が全国を上回っており、強みといえる。

●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。

- ・「書くこと」では、自分の考えを説得力をもって伝えるために、図、表、グラフなどの根拠となる資料を用いて、説明する文章を書く活動を取り入れる。
- ・「話すこと聞くこと」では、インタビュー活動を通して、「話し手の意図を捉えながら聞き、話し手の発言を受けて質問する力を高めていく。そのために、事前に想定問答メモを書き、インタビューしたいことを整理させたり、インタビューモデルで事前に練習させたりする活動を取り入れる。

小学 6年 国語

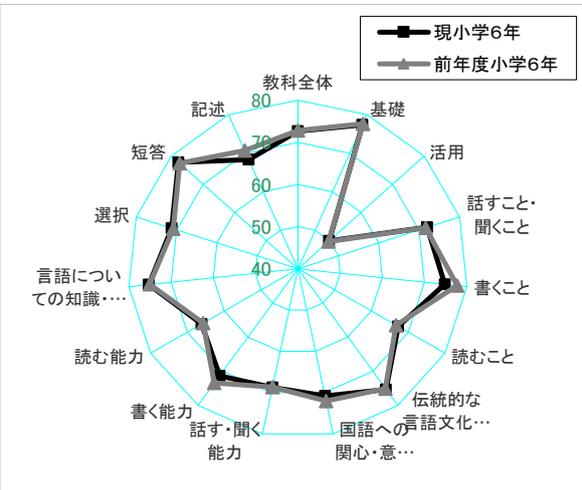
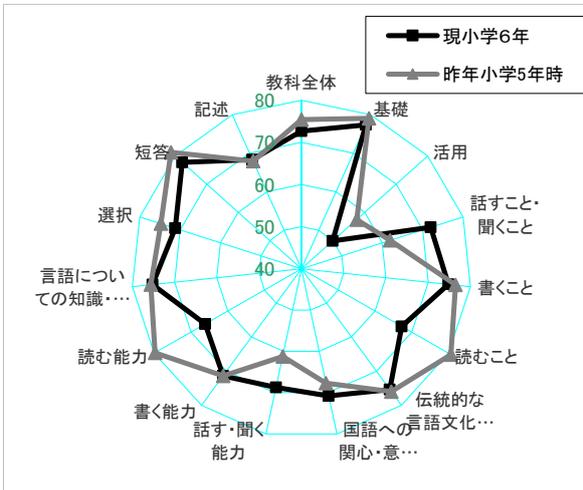
1. 全体傾向



コメント

・教科全体の平均正答率は全国と比較して下回っている。
 <問題別>
 ・「漢字を読む」の平均正答率は、全国を上回っており良好である。
 ・「述語の理解」の平均正答率は、全国と比較して、約15ポイント下回っており課題である。
 ・「話し合いをもとに活動報告を書き直す(記述式)」問題は、平均正答率が低く、課題である。無回答率も2割を超えており、高い。
 ・「自分の立場や意図をはっきりさせて、話し合う」問題は、平均正答率が大変低く、児童が話し合いの内容を基に、司会のよりよい進め方を考えることができない児童が多かった。

2. 経年変化



コメント

・教科全体の平均正答率は、5年生時と比較すると下回った。
 ・全国平均との標準スコアで5年生時と比較すると、下回った。

コメント

・平均正答率は前年度との6年生と同程度である。

3. 強みと弱み

○「自分の意見とその理由を区別して書く(作文)」「話の内容を聞く」は、平均正答率が約90%前後であり、強みといえる。

●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。

- ・「書くこと」の指導では、導入時に「取材→構成→記述→推敲→交流」の学習プロセスや書く目的や意図を明確にする。特に、文章を読んでもらう相手を意識させ、読み手に応じた推敲の観点を話し合う等、推敲の必要性を児童が実感できる指導をする。
- ・「話すこと聞くこと」では、話し合いの際に、司会や提案者など、児童一人一人にそれぞれの役割を果たす経験をさせていく。特に、司会の経験をどの子にもさせ、時間内に計画的に話し合いが進むよう、グループ内の発言を整理したりまとめたりできる力を高めていく。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

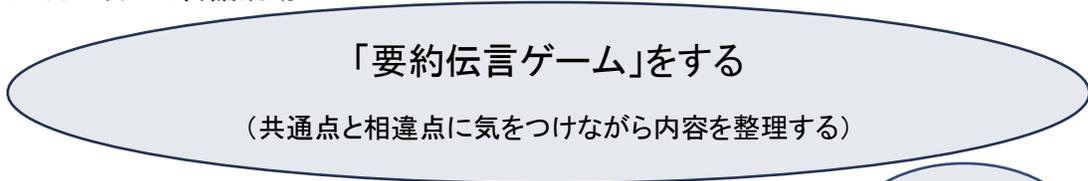
5年 言葉で伝えよう『要約伝言ゲームをしよう』

—— 要約して友達に話を伝えよう ——

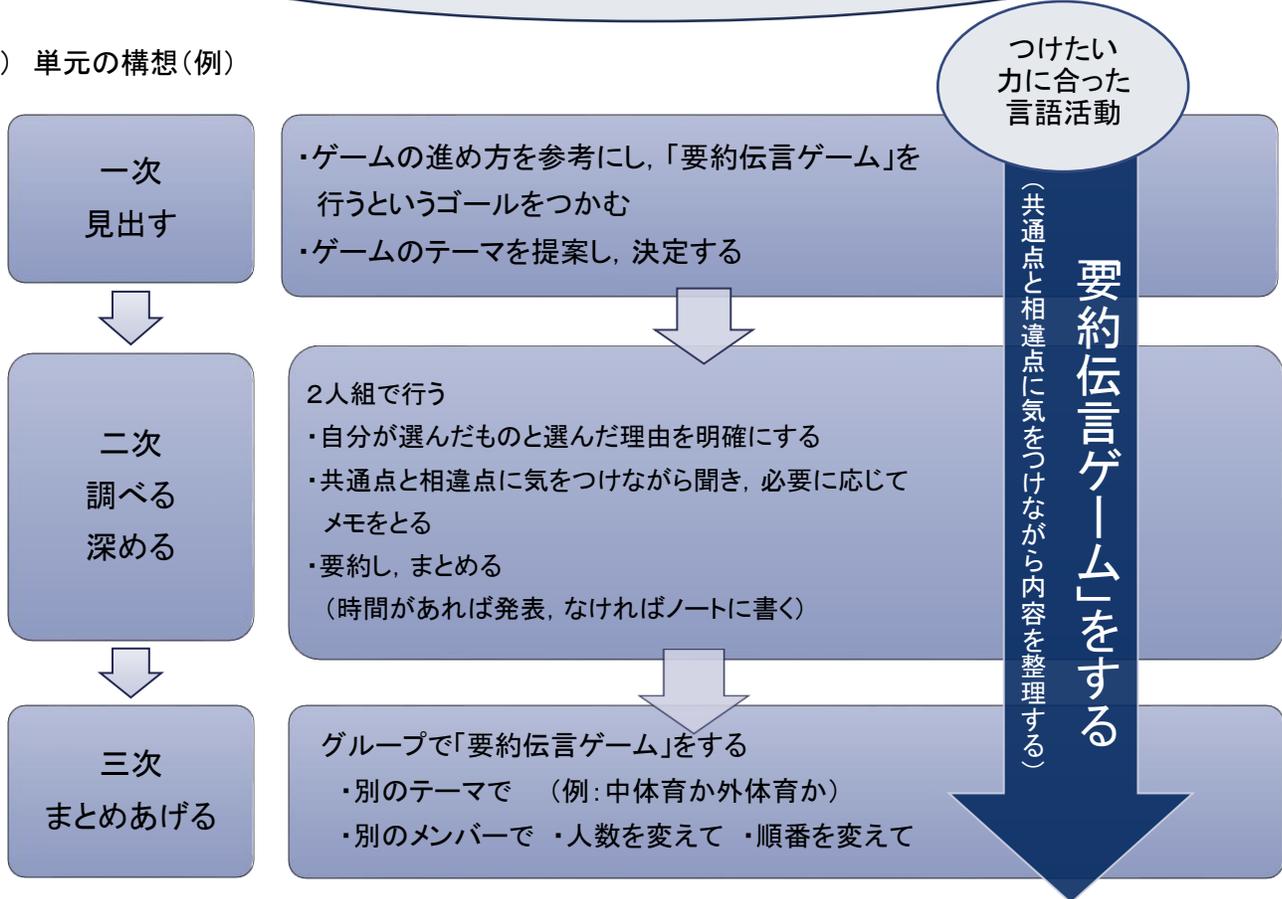
(2) つけたい力

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて, 話の内容を捉え, 話し手の考えと比較しながら, 自分の考えをまとめること。(A 話すこと・聞くこと-E)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)

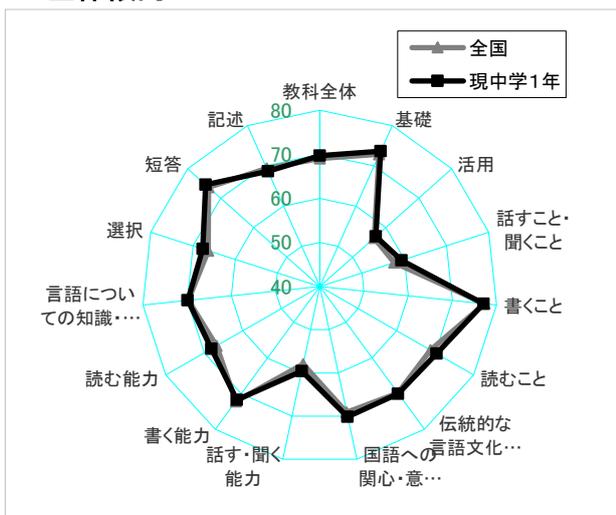


指導のポイント!

テーマとするものを子ども達に提案させることで, 意欲的に活動に取り組みます。また, このゲームで大切なことは, ただ要約をするのではなく伝言をすることです。自分の考えだけではなく, 相手の意見をしっかり聞かなければこのゲームは成り立ちません。「誰が」, 「どのような理由で」その考えなのかを明確にすることを意識させる必要があります。朝の会などで, 日常的に取り入れることもできます。また, 慣れてきたら時間を制限したり人数を増やしたり, 難易度をあげても楽しいです。

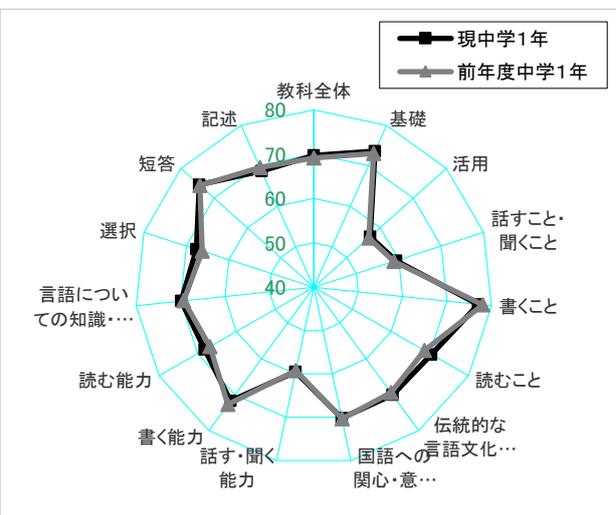
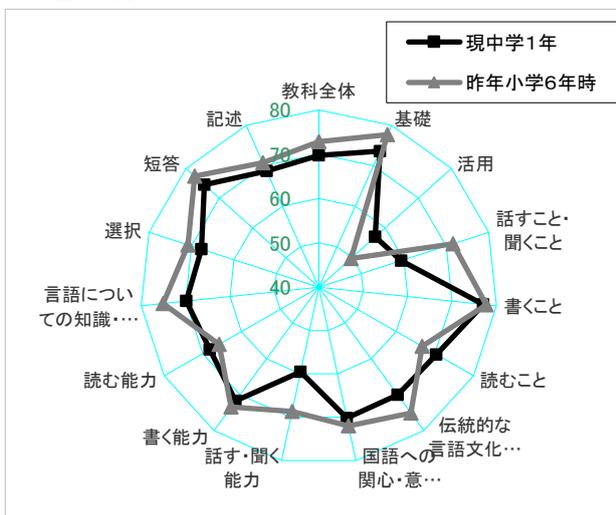
中学 1年 国語

1. 全体傾向



コメント
 ・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。
 <問題別>
 ・「漢字を読む」の平均正答率は、90%以上、あるいは、全国を上回っており、良好である。
 ・「話の内容を正確に聞き取る」の平均正答率は、全国と比較して約12ポイント高く良好である。
 ・「修飾語」の問題の平均正答率は、大変低く課題である。
 ・「話の内容を活用する」問題の平均正答率は低い。聞き取ったことを基に、文章を書きなおすことができない生徒が多かった。また、話し合いの様子とメモを比較して不足する情報を指摘する(記述式)ことができない生徒も多く、課題である。

2. 経年変化



コメント
 ・教科全体の平均正答率は、6年生時と比較すると、下回っている。
 ・全国平均との標準スコアで6年生時と比較すると、上回っている。

コメント
 ・平均正答率は前年度との中学1年生と同程度である。

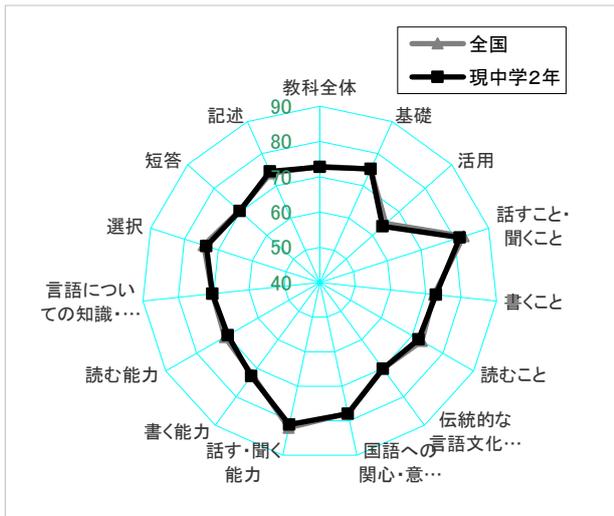
3. 強みと弱み

○「漢字を読むこと」「話を正確に聞くこと」は、平均正答率が全国を上回っており、強みといえる。

- 課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。
 - ・「話すこと聞くこと」では、話を正確に聞き取ったり、聞き取ったことを基に意見や考えをまとめたりする力を育てるために、目的や段階に応じてメモの取り方を指導する。
 - ・修飾語や被修飾語の指導の際には、日常生活でも表現できるようにするため、「話す・聞く・書く」というあらゆる場面で修飾語を意識させて指導する。

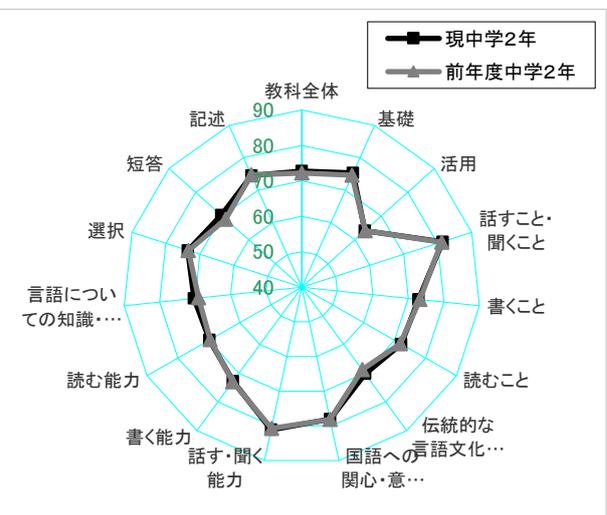
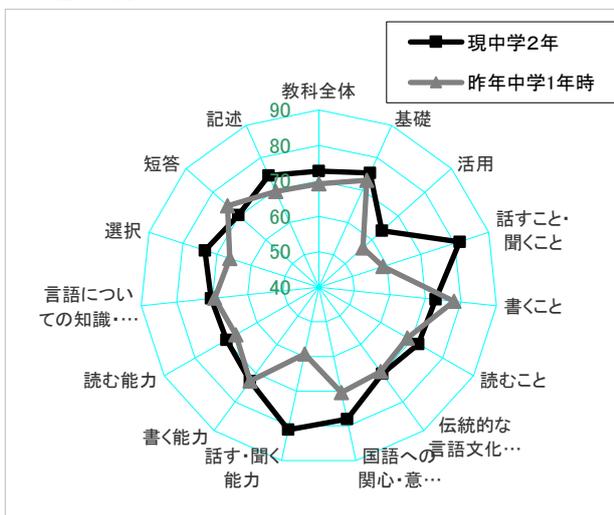
中学 2年 国語

1. 全体傾向



コメント
 ・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。
 <問題別>
 ・「指示された条件で文章で自分の考えをかく」作文問題の平均正答率は、全国と同等あるいは約5ポイント上回っている問題もあり良好である。
 ・「文章を読み取り、内容を明確に書く(記述式)」問題は、正答率が低く課題である。文章から読み取った事柄を、「いつ」「どこで」「なにが」「どうした」のかがわかるように明確に書くことができなかった。

2. 経年変化



コメント
 ・教科全体の平均正答率は、中学1年時と比較すると上回っている。
 ・全国平均との標準スコアで昨年度中学1年時と比較するとほぼ同等である。

コメント
 ・平均正答率は前年度との中学2年生と同程度である。

3. 強みと弱み

○「作文力」を問う問題は良好であり、指示された条件で自分の意見をかくことができる。特に、最後に文章の内容に沿ったまとめをかくことは、全国と比較して約5ポイント上回っており強みといえる。

●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。
 ・「書くこと」では、身の周りにある新聞やちらし等から表現の工夫やその効果をグループで話し合い、その効果を理解した上で自分の文章に活かす活動を取り入れる。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

中1「図表を用いて報告する」 P.178～181
 —— 小学6年に, 中学校を紹介しよう ——

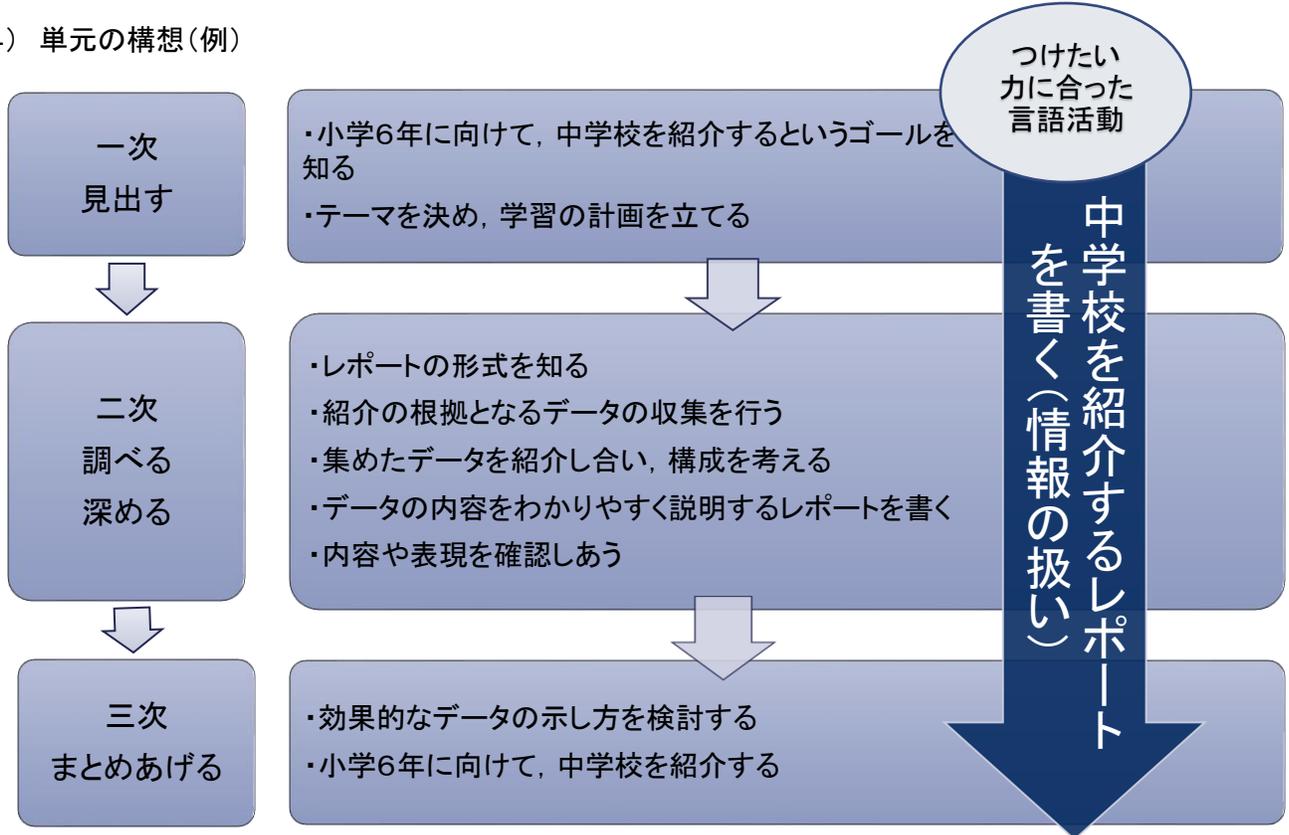
(2) つけたい力

- ・根拠を明確にしなが, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること ([思考力, 判断力, 表現力等] B 書くこと (1)ウ)
- ・比較や分類, 関係付けなどの情報の整理の仕方, 引用の仕方や出典の示し方について理解を深め, それらを使うこと ([知識及び技能] (2)イ)

(3) つけたい力に合った言語活動



(4) 単元の構想(例)

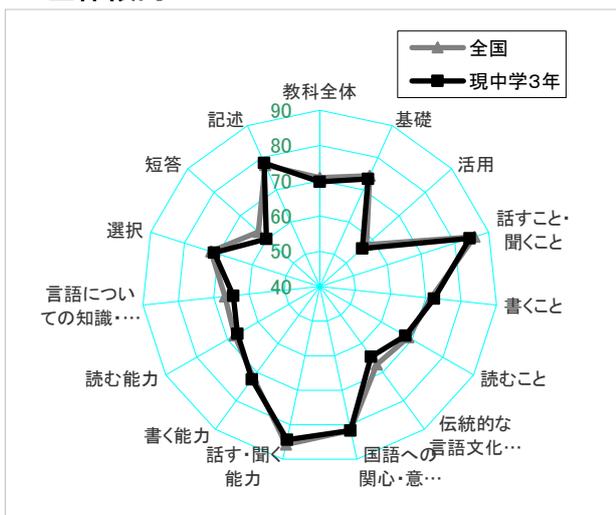


指導のポイント!

新しい学習指導要領では, 国語科で身につける「知識及び技能」に「情報の扱い」が新設されました。これからは, 目的をもったデータの収集・分析と, それに基づいた記述・交流という学習が, より求められるようになるでしょう。本単元では, 二次をグループでの協働学習の形にすると, より多面的なデータ分析と, 根拠のあるレポート記述が期待できます。また, 相手を定めたゴールを用意し, “学習を本気にさせる”ことも, 大きなポイントです。

中学 3年 国語

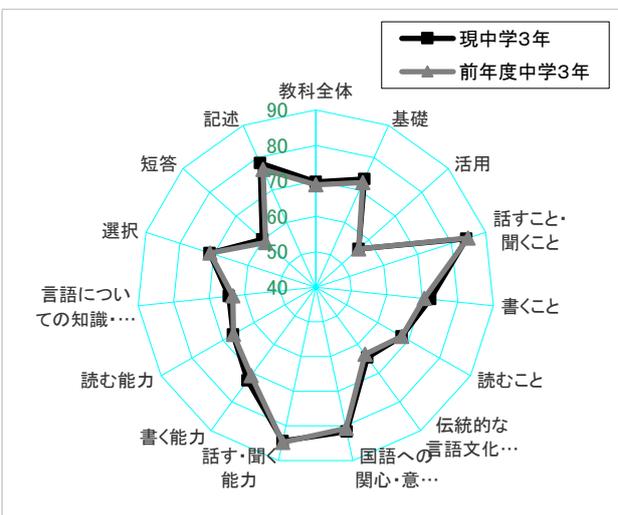
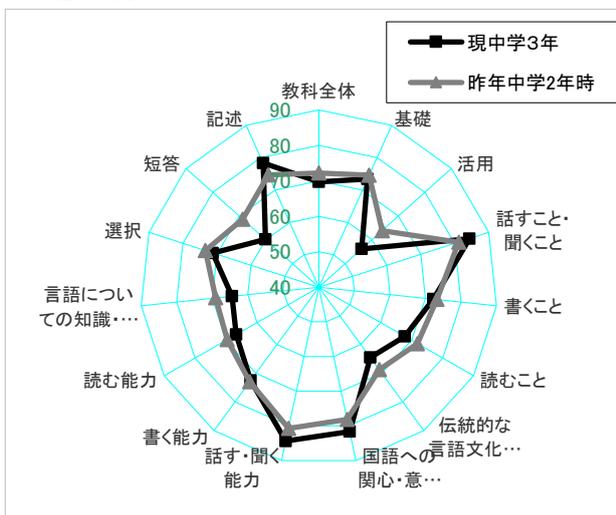
1. 全体傾向



コメント

・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。
 <問題別>
 ・「話し合いの内容を正確に聞き取る」問題は、平均正答率が高く良好である。
 ・「自分が考えたことを書く」作文問題の平均正答率は、全国を7ポイント上回っており良好である。
 ・「同音異義語の漢字の間違いを指摘する」問題は、全国より6ポイント下回っており、課題である。
 ・「文章の内容をとらえて、具体的な事例に当てはめる」問題は、平均正答率が低く、文章から読み取ったことを基に、他の事例に当てはめることができない生徒が多かった。

2. 経年変化



コメント

・教科全体の平均正答率は、中学2年時と比較すると同程度である。
 ・全国平均との標準スコアで昨な中学2年時と比較するとほぼ同等である。

コメント

・平均正答率は前年度との中学3年生と同程度である。
 <問題別>
 ・「グラフから読み取ったことを基に自分の考えを書く」の平均正答率は、前年度と比較して、7ポイント上回った。

3. 強みと弱み

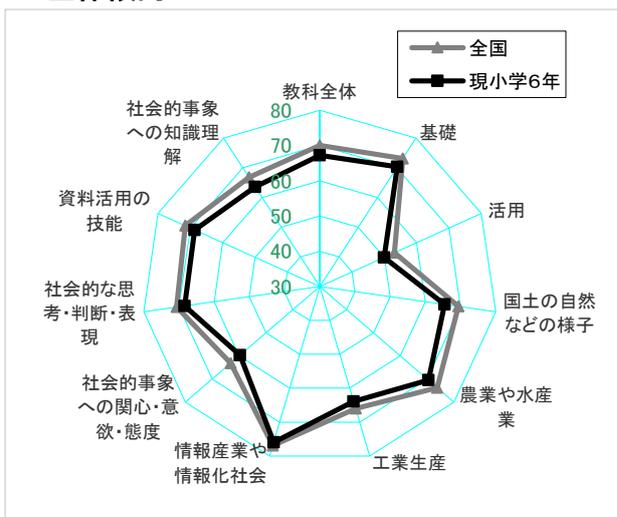
○「作文力」を問う問題は全国と比較して上回っており強みといえる。

●課題となる問題からみると、次のことに気をつけて指導する必要がある。

- ・「書くこと」の指導では、書く目的や意図を明確にする。特に、文章を読んでもらう相手を意識させ、読み手に応じた推敲の観点を話し合う等、推敲の必要性を生徒が実感できる指導をする。
- ・「読むこと」では、内容理解だけでなく、文章の展開の仕方、例示や比喩表現の仕方等について評価し、自分の文章に活かす指導も行う。

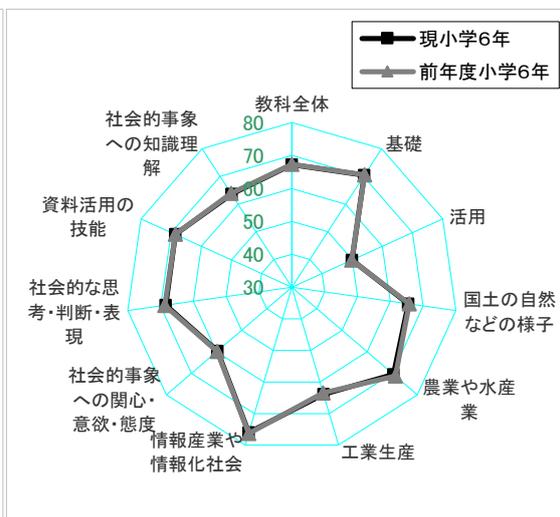
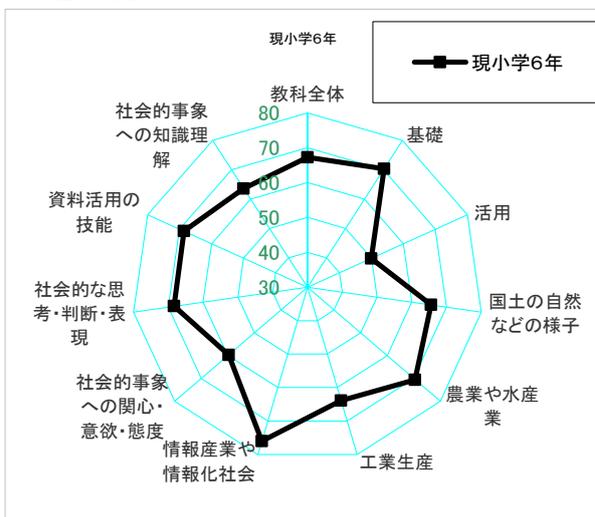
小学 6年 社会

1. 全体傾向



コメント
 ・教科全体としては、目標値を上回っていたものの、全国平均正答率は基礎・活用とともに下回った。
 ・観点別の正答率について、「社会的な事象への知識・理解」が目標値を下回り、それ以外の観点は上回った。全国平均との比較においては、すべての観点で下回った。
 ・領域別の正答率について、全国平均値と比べると、すべての領域で下回った。

2. 経年変化



コメント
 ※比較するデータが無いため、コメントはありません。

コメント
 前年度とほぼ同等の数値となっている。領域では「工業生産」が昨年度より若干上回ったものの、その他の領域は同等かやや下回った。

3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

- 全国平均を下回っており、改善が必要な状況である。
- 日本の位置について、周囲の大陸名や海洋名とも理解している。
 - 日本の国土の地形の概要について理解している。
 - 食料自給率のグラフを読み取る。また、地産地消の取り組みについても理解している。
 - 電子部品を多く扱っている成田国際空港について理解している。
 - 情報を利用する際の注意点について、自分の問題として判断することができる。
 - 年間を通した米づくりの様子や農作業に使われる機械を含めた理解について。
 - 自動車の製作工程におけるプレス機の理解について。
 - 太平洋ベルトについて、また、自動車の製作工程などの工業生産について。
 - 日本の食料輸入の問題点についての考察。

4. 授業改善の方向

☆発問の工夫で学習のねらいに迫る

- ①「いつ」「どこ」「だれ」「いくつ」と問う
- ②「どのように」（方法・過程・事実）、「なぜ」（理由・根拠）と問う
…まず「どのようにして」→「なぜ」
- ③「もし～だったら」と問う
- ④「～なのに、なぜ～か」と問う
- ⑤「何だと言えるか」と問う…複数の事例から共通する要素を考え、一般化できる定義を作る発問→社会的なものの見方や考え方を獲得
- ⑥「〇〇に賛成ですか。反対ですか」と問う
- ⑦「キーワードは何か」「どのように変えたか」と問う…その答え自体が時代観に結びつく
- ⑧「～のよさは何か」と問う…「価値を聞く」発問→出来事や物事の社会的意義を考える

☆体験がしにくく実感の伴わない内容をどう扱うか…

●毎年、工業の領域の学習が子どもたちにとって苦手であることが示されている。

●この傾向は中学校も同じである。→「太平洋ベルト」の正答率が毎年低い。

<<資料を読み取る力をつける>>（上の「発問の工夫」を駆使して）

- ・統計資料、グラフ、地図などを活用し、気づいたことを発表させる。
- ・十分に資料を読ませたり、考えさせたりする時間を確保する。
- ・実物・映像・画像など視覚資料があるとよい。

【学習指導要領移行措置の内容】（平成30年～31年）

1 移行期間中の実践

①全ての学校で先行実施…新指導要領第5学年の内容の（1）のアの（ア）「我が国の国土と国民生活」

「世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解」→「領土の範囲」…「竹島や北方領土、尖閣諸島が我が国の固有の領土であることに触れる」

②平成31年度の3年生の内容配列

現行の「地域社会における災害及び事故の防止」において、「火災、風水害、地震など」の中から「火災」を取り上げて、自然災害は取り上げない。

2 現行、新のいずれでも共通して取り組むこと

①社会的事象の見方・考え方を働かせた深い学びを目指すこと

（1）社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に注目して（視点）、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）。

（2）（1）の視点や方法に基づいて、問いを意識すること。

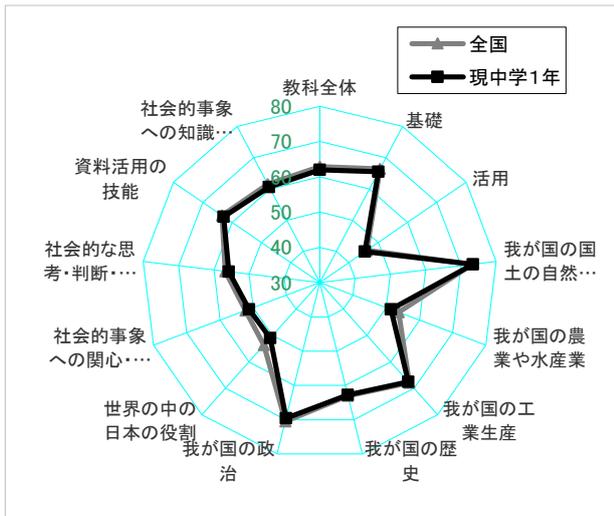
（3）地図や年表、統計などの各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する学習活動を工夫する。

②説明したり議論したりする活動を工夫すること

（1）生産者と消費者、情報の送り手と受け手など複数の立場から考えたり、よりよい社会の実現に向けて自分たちに協力できることを選択・判断したりしたことについて、資料などを活用し根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、他者の主張を踏まえて議論したりする活動を工夫する。

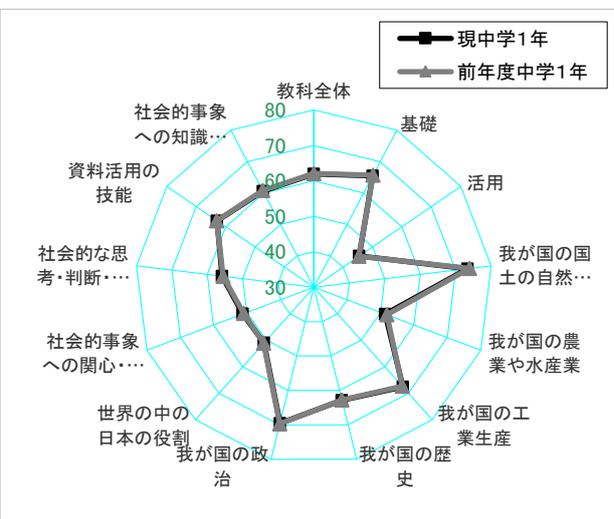
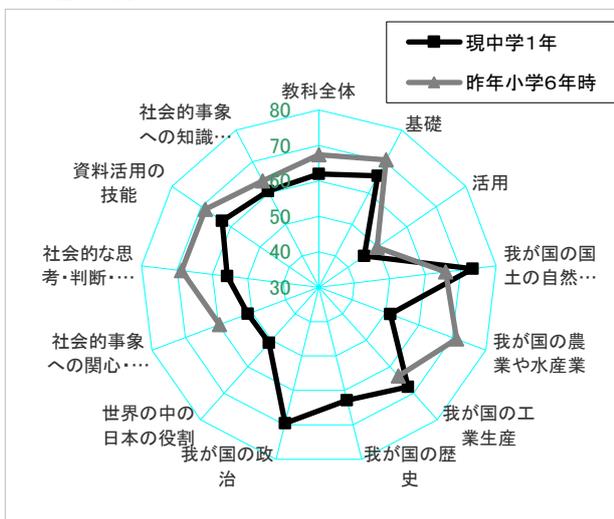
中学 1年 社会

1. 全体傾向



コメント
 ・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同程度であった。
 ・「基礎」、「活用」とも全国平均正答率と同傾向であった。
 ・観点別正答率では、すべての観点で全国平均と比べると同程度かやや下回っている。
 ・領域別正答率では、「我が国の国土の自然などの様子」が全国平均を上回った。

2. 経年変化



コメント
 (参考程度にとどめる)教科全体、基礎活用ともに小学6年時よりも下回っている。領域では、「我が国の農業や水産業」が約20ポイント正答率が下回っている。また、観点を見ると、社会的な思考・判断・表現が約13ポイント下回っている。

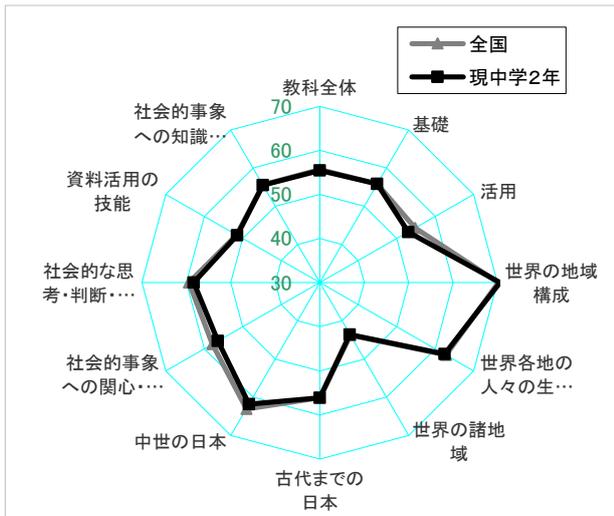
コメント
 昨年度の1年生と比較すると、教科全体、基礎活用、領域、観点ともに、ほぼ同程度である。

3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

- 全国とほぼ同程度で、良好な状況である。
- 資料から、わが国の工業の特色を読み取ることができる。
 - 明治初期の改革について、その内容や目的などを理解している。
 - 日本国憲法の三大原則について、理解している。
 - 工業のさかんな地域である「太平洋ベルト」について。
 - 国際連合について。
 - 日本の食料生産における、生産者の工夫や自然環境とのかかわりなどの視点を示す資料についての考察。
 - 平安時代の貴族の暮らしに関する資料を読み取り、習得した知識との関連について。

中学 2年 社会

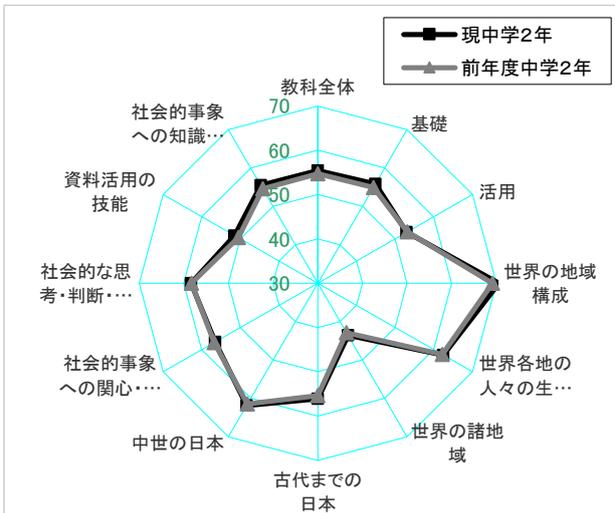
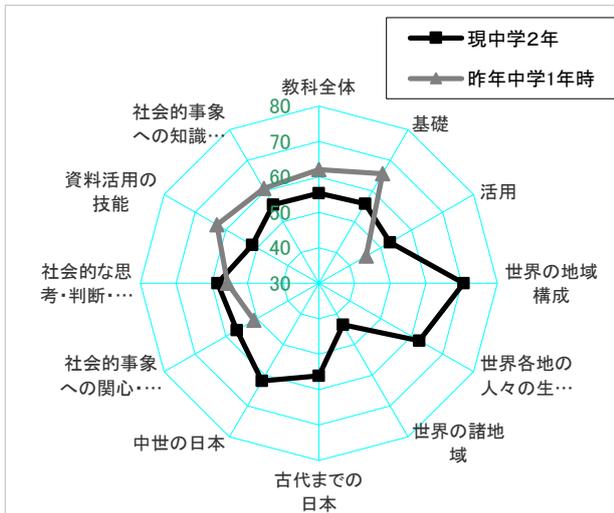
1. 全体傾向



コメント

・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同程度であった。
 ・「基礎」については、全国平均を上回った。一方、「活用」については、全国正答率を1.7ポイント下回った。
 ・観点別正答率は、全国正答率と比べると、すべての項目でやや下回った。
 ・領域別正答率では、「世界の地域構成」については全国正答率を上回った。それ以外の領域では、ほぼ同程度の数値となっている。

2. 経年変化



コメント

(領域が小学校の内容から中学校の内容に変わっているので参考にとどめる)「活用」が昨年度に比べてかなり上昇しており、観点別正答率においては、「関心・意欲・態度」が5.5ポイント、「社会的な思考・判断・表現」が2.8ポイント上回っている。

コメント

昨年度の2年生と比較すると、領域では、「世界の地域構成」で1.5ポイント、観点では、「資料活用の技能」が1ポイント上回っている。

3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

○大和政権の首長について理解している。

○弥生時代の外交についての理解をもとに、資料を読み取ることができる。

○稲作伝来後の社会についての理解をもとに、写真資料について考えることができる。

○世界各地の人々が住む家のつくりについて考え、説明することができる。

○世界の主な大陸と海洋の分布を理解している。

○メキシコで自動車工業が発達した理由について、資料を読み取って考えることができる。

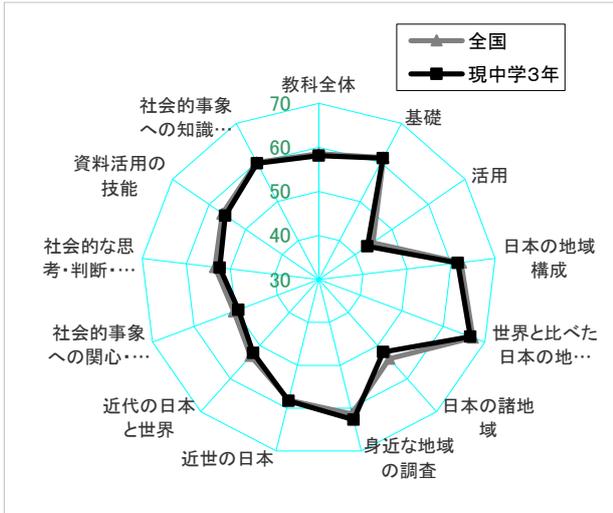
●オーストラリアの鉱工業に関する資料の読み取りについて。

●平安時代の蝦夷平定について。

●大西洋、北海の沿岸地域の気候が、暖流と偏西風の影響を受けていることについての理解をもとにした資料の読み取り。

中学 3年 社会

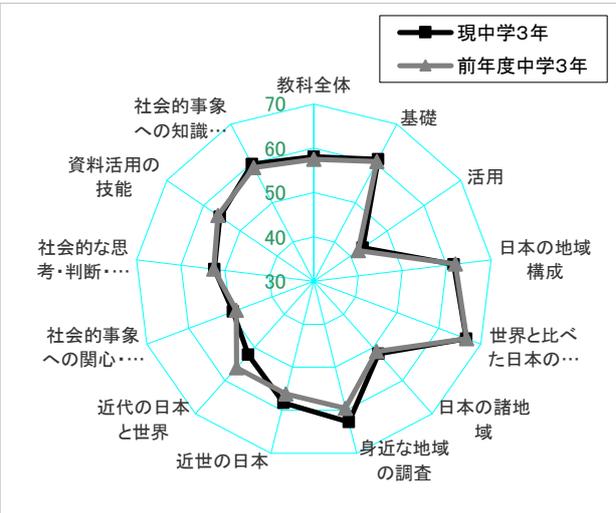
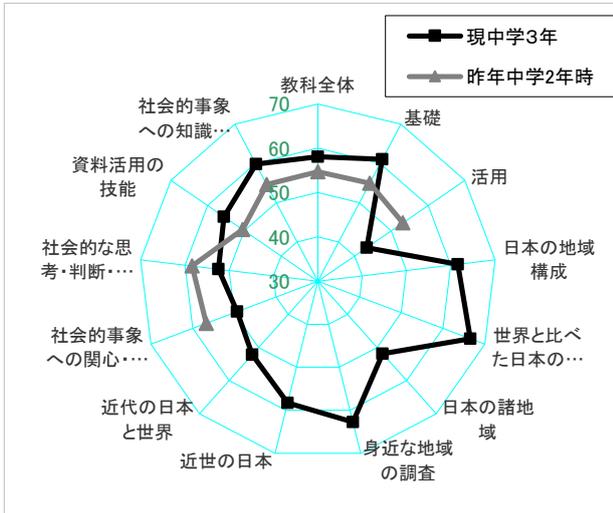
1. 全体傾向



コメント

・教科全体,「基礎」「活用」のいずれも全国平均正答率より下回った。
 ・観点別正答率については,すべての項目で全国平均を下回った。
 ・領域別正答率は,「身近な地域の調査」(1.4ポイント)において,若干ではあるが全国正答率を上回った。
 それ以外の領域については,全国正答率とほぼ同程度となっている。

2. 経年変化



コメント

昨年と比較すると,「教科全体」と「基礎」は上昇しているが,「活用」は大きく下回っている。また,「資料活用の技能」「社会的な事象への知識理解」は上昇しているが,「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」が下降している。

コメント

昨年度の3年生と比較すると,教科全体と「基礎」はほぼ同程度であり,「活用」については1.2ポイント上回っている。

3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

全国平均をやや下回っており,改善が必要な状況である。

○中部地方における,自然環境をうまく利用した農業について考え,表現することができる。

○日本と,他国の一地点との時差を考慮することができる。

○日本の農業について,各地の主な生産物を把握することができる。

○江戸時代の産業について,その特色を理解している。また江戸幕府が,資料のような法令を百姓に出した背景を考え,表現することができる。

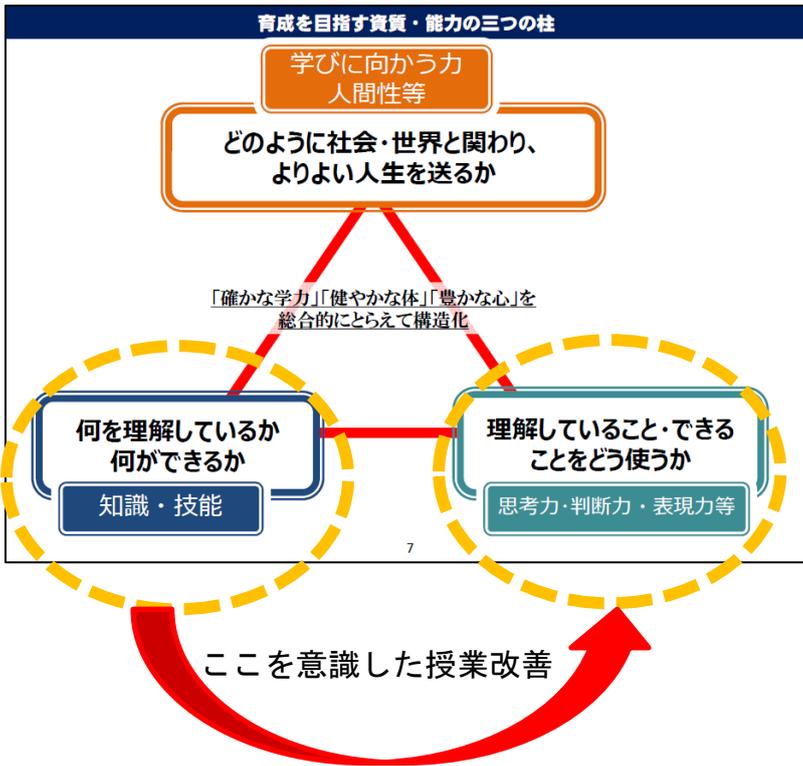
●世界や日本の米の生産についての資料の読み取り。

●大日本帝国憲法について。

●武家諸法度の資料から,江戸幕府が行った大名統制の読み取りについて。

●日本の各県の統計について,資料をもとに判断すること。

4. 授業改善の方向



次期学習指導要領

「育成を目指す資質・能力の三つの柱」

- 学びに向かう力，人間性等
- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力

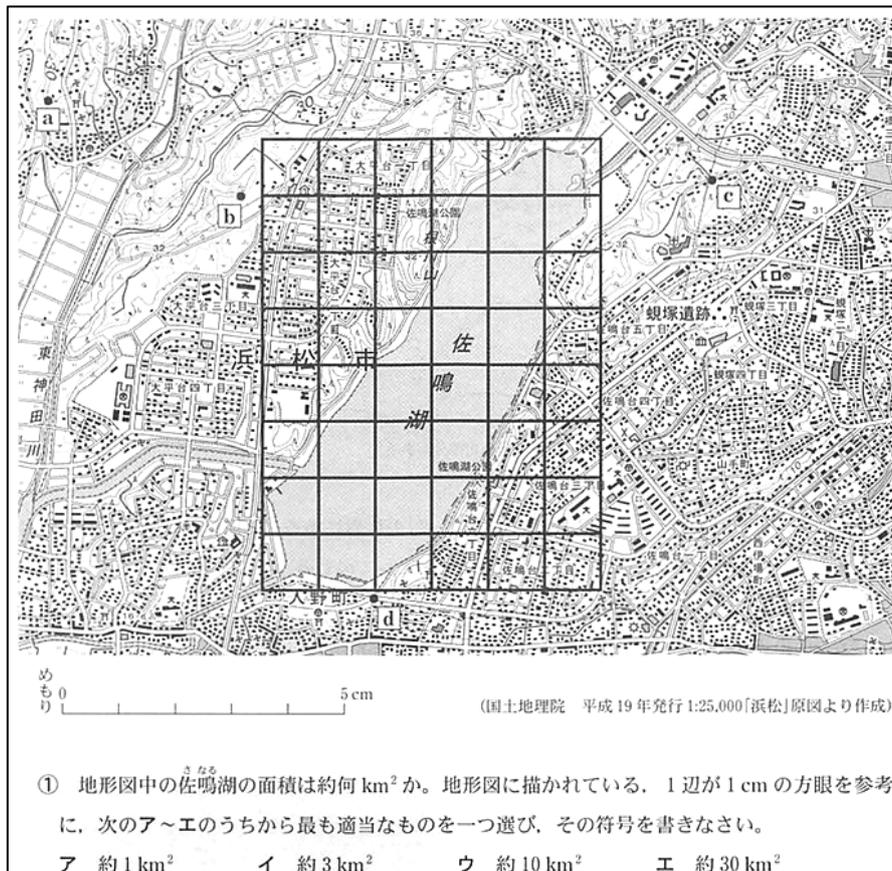
★キーワードは…

アウトプットを意識したインプット
(課題解決型の学び)

- ・アウトプット(思・判・表)のために、インプット(知識・技能)する。
- ・アウトプットがインプットの目的になる。(何のために学ぶのか)
- ・インプットが豊かになると、アウトプットの質が高まる。(相乗効果)

次期学習指導要領の地理分野の目標から

○調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける



二〇一八年 千葉県高等学校前期選抜より

- ◎地図の縮尺のしくみを知っているだけでなく、実際に活用できる能力が求められる。
→地図の情報を基に思考させる授業を計画的に入れる。(答えは ア)

次期学習指導要領の地理分野の目標から

○現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う

二〇一八年 千葉県高等学校前期選抜より

衆議院議員選挙は、小選挙区制と比例代表制を組み合わせで行われます。このうち、比例代表制では、有権者は政党名で投票し、得票数に応じてドント方式(ドント式)で各政党に議席が配分されます。

この議席配分のしくみを理解するために、例えば、定数が5議席のブロックで、各政党の得票数が下の表のようになった場合を考えてみます。この場合には、A党に **I** 議席、B党に **II** 議席、C党に **III** 議席、D党に **IV** 議席が配分されます。

表 定数が5議席のブロックにおける各政党の得票数

政党	A党	B党	C党	D党
得票数	15,000	12,000	6,000	3,000

ア I : 3 II : 2 III : 0 IV : 0 イ I : 2 II : 2 III : 1 IV : 0
 ウ I : 3 II : 1 III : 1 IV : 0 エ I : 2 II : 1 III : 1 IV : 1

◎「ドント方式」という語を知るだけでなく、実際にその方式を使って議席を配分する学習経験を通して、有権者の1票を政治に反映させる仕組みの利点や課題を考察する。

因みに、この問題の場合、以下のとおりとなる。(答えは イ)

	A党	B党	C党	D党
÷ 1	①15,000	②12,000	④6,000	3,000
÷ 2	③7,500	④6,000	3,000	1,500
÷ 3	5,000	4,000	2,000	1,000
獲得議席	2	2	1	0

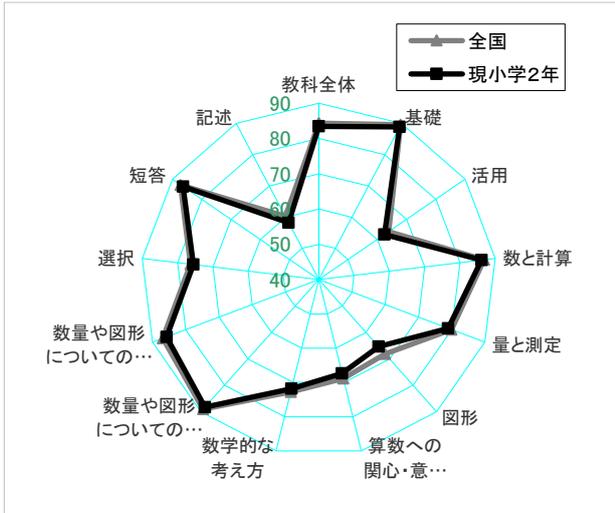
高等学校の選抜試験を見ると、依然として暗記した知識の取り出しが中心になっており、それによって授業自体も知識伝達が中心になっている傾向がある。しかし、上記で紹介した例をはじめとして、2020年の大学入試改革と連動して、高等学校入試も「思考力・判断力・表現力」を問う問題が増えていくことが予想される。これは、次期学習指導要領がそのような学習の方向を示しているからである。「主体的・対話的で深い学び」と共に授業改善のキーワードにしたい。

【学習指導要領移行措置の内容】(平成31年～32年)

- ・平成31年度及び平成32年度の地理的分野及び歴史的分野の授業時数の配当について、新学習指導要領の規定により、授業時数を両分野に適切に配当する。
- ・平成31年度及び平成32年度の「世界の諸地域」(地理的分野)の指導に当たり、「世界の様々な地域の調査」を併せて指導する。
- ・平成31年度及び平成32年度の「世界の古代文明」、「ユーラシアの変化」、「ヨーロッパ人來航の背景」、「市民革命」(歴史的分野)の指導に当たっての内容の取扱いについて、新学習指導要領の規定による。
- ・平成30年度から平成32年度の「領域の範囲や変化とその特色」(地理的分野)、「富国強兵・殖産興業政策」(歴史的分野)、「世界平和と人類の福祉の増大」(公民的分野)の指導に当たっての内容の取扱いについて、新学習指導要領の規定による。

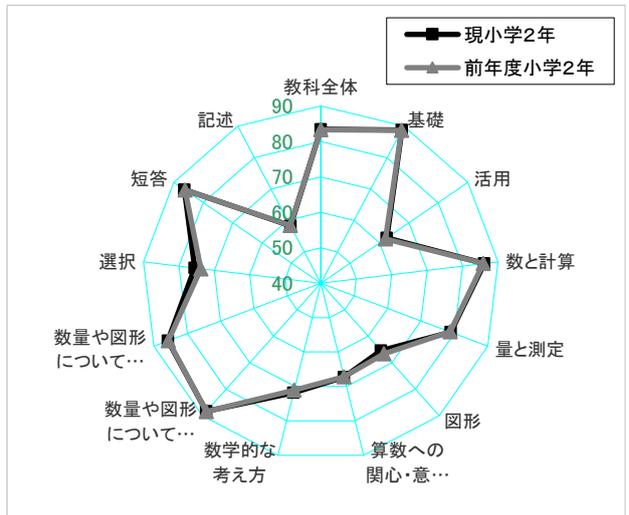
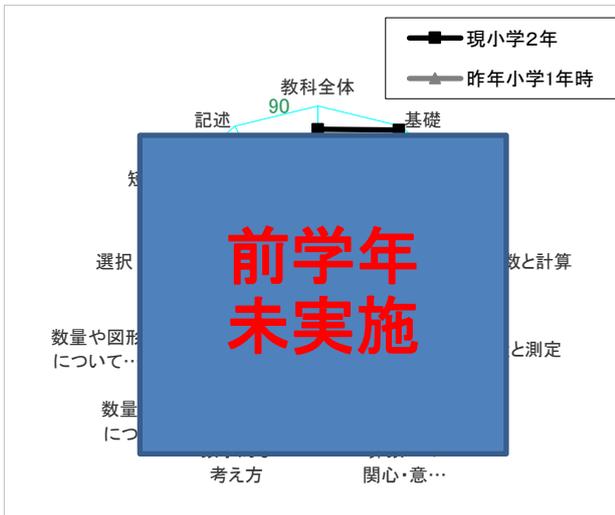
小学 2年 算数

1. 全体傾向



コメント
 ・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同等と言える。
 ・「数と計算」領域においては、基本的な計算技能は概ね身に付いているが、文章題になるとやや正答率が下がる。
 ・「量と測定」領域では、時計の読み取りに課題が見られる。
 ・「図形」領域の問題は、全て全国平均を下回っている。特に「方向や位置に関する言葉の問題(なんばんめ)」に課題があり、無回答率も高くなっている。

2. 経年変化



コメント

コメント
 前年度の2年生と比較すると、「100までの数の系列の理解」が高まっている。一方で、「10の合成の理解」に関する問題は、2ポイント以上下回っている。

3. 強みと弱み

- 基本的な計算技能は身に付いている。
- 120までの数の系列, 位取り記数法の理解度は高い。
- 繰り上がりのあるたし算は, 計算はできても, 考え方の理解が不十分である。
- 時計は読み取れるが, 条件を満たす場面を考える問題に難がある。

4. 授業改善の方向, 効果的指導事例

【小1年生の実践例】

(1) 単元名「なんじなんぷん」

(2) 本単元をつまづき

『絵の中の時計を読み取り, 条件を満たす場合を考えることができる。』

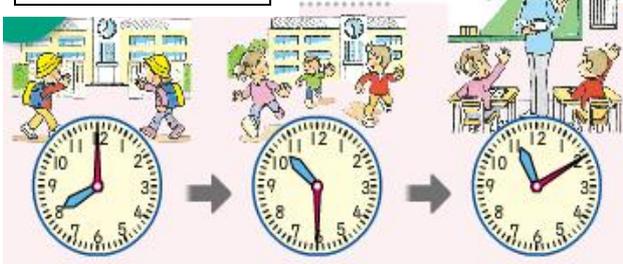
(3) つまづき解消に向けた指導例

(学習指導要領解説より)

与えられた時刻を読んだり表したりするだけでなく, 児童の日常生活での活動などと時刻とを関連させ, 学習の時間以外の学校生活や家庭生活で適切に用い, 時刻への関心を高めていくことが大切である。

○絵を見て, 1日の生活と関連付けながら時刻を読む

教科書(下) P52



・どんな場面かな? ・何をしているかな?

「登校したところです。」

「校庭で友達と遊んでいます。」

・何時に登校したかな?
・(絵の中で)勉強しているのは何時何分かな?

「登校したのは, 8時です。」

「勉強しているのは, 11時10分です。」

○示された時刻をよんだり, 時計に表したりする活動を行う

- ・示された時刻をよみ合う
- ・言われた時刻を時計に表す

長針と短針を動かしながら時計をよむ活動を行いましょう。

目盛りに着目して, 「○時△分」と10分刻み, 5分刻みから扱うようにし, 1分単位でよむことができるようにしていきましょう。

模型の時計を使って, ペアで練習する活動を行うなど, 習熟する時間を設けましょう。

「時刻の当てっこゲーム」など, 楽しく時刻をよむ練習を!!



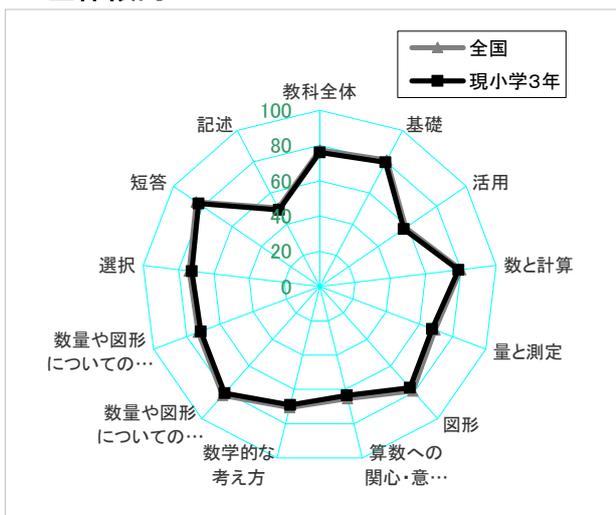
学習後も, 時刻について日常生活と関連付けていきましょう。

低学年の授業では・・・

まず, 「問題場면을絵にかく」「半具体物の操作活動」など, 場面のイメージをもたせることが大切です。また, 場面の読み取りが正確でない場合は, 問題文を読み返させることも必要です。そして, 子供同士の関わり合いを多く持たせましょう。みんなで関わり合うことで授業が楽しくなり, 学びの意識が高まります。

小学 3年 算数

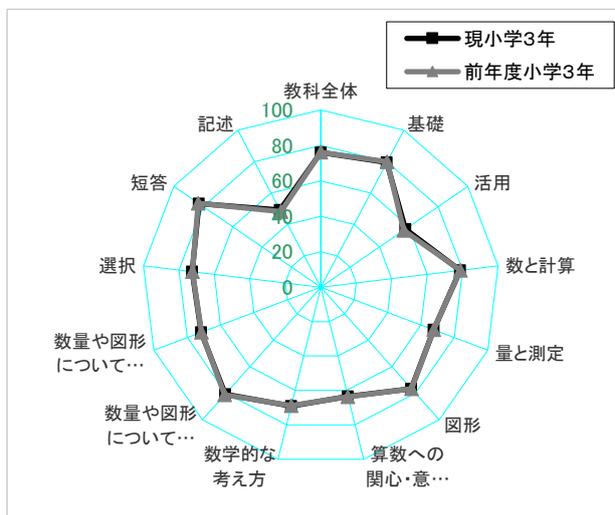
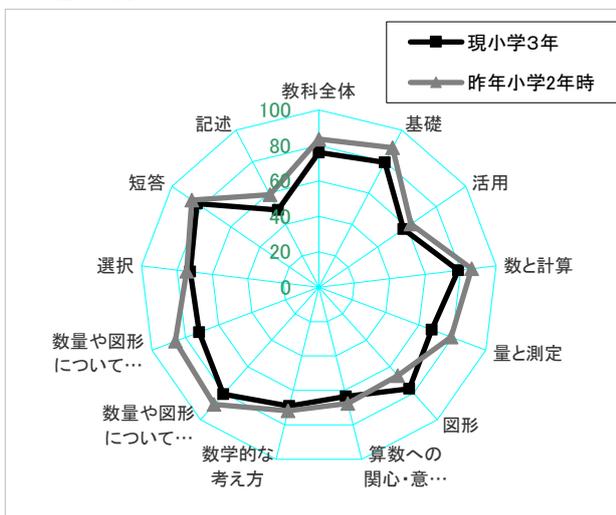
1. 全体傾向



コメント

・教科全体としては、全国平均正答率より1.5ポイント下回っているが、各領域において大きな差はない。
 ・「数と計算」領域では、波及的繰り下がりの計算の正答率が低く課題がある。
 ・「量と測定」、「図形」領域は、共に、全ての問題において全国平均を下回っている。
 ・「場面を理解し、条件を満たす場合を考え、その理由を説明する」問題は、正答率が低く、無回答率も高い傾向にある。

2. 経年変化



コメント

・小学2年時と比較すると、「図形」領域が9.9ポイント向上しているのに対して、「量と測定」領域は、11.6ポイント低下している。
 ・観点別に見た場合、「数量や図形についての知識・理解」が、14.4ポイント大きく低下している。

コメント

・前年度の3年生と比較すると、ほぼ同程度であるが、基本的な計算技能はわずかに下回っている。
 ・「量と測定」領域においては、いくつかの問題で向上が見られる。

3. 強みと弱み

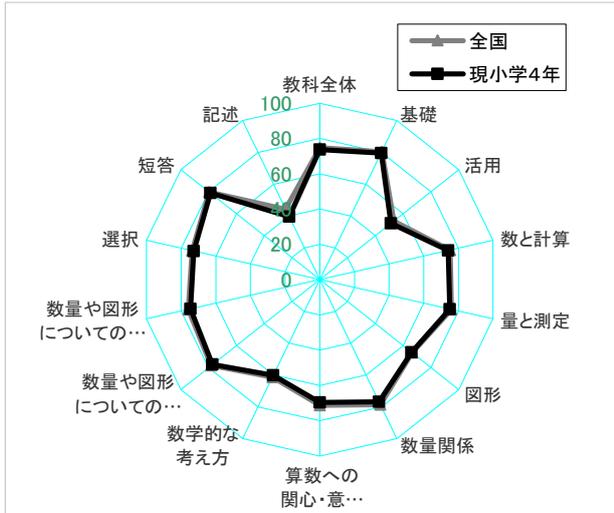
○「数の相対的な大きさについての理解」は、全体で唯一全国平均を上回っている。

●数直線上に示された数の読み方について、重点的な指導が必要である。

●身近なもののかさを推察して、適切な単位を選択するための量感が身に付いていない。

小学 4年 算数

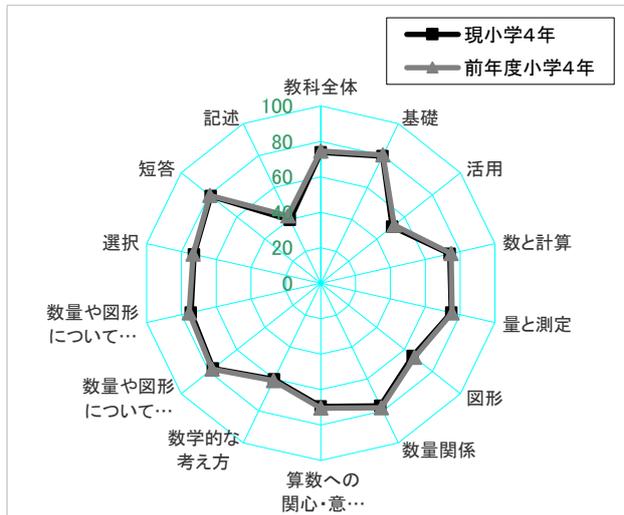
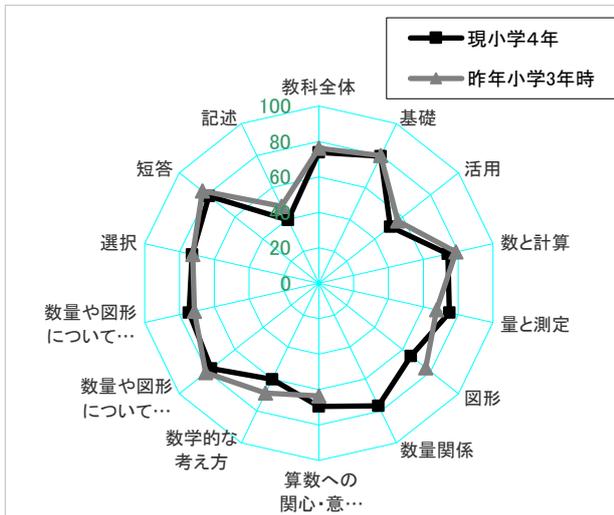
1. 全体傾向



コメント

・教科全体としては、全国平均正答率より1.1ポイント下回っているが、大きな差はない。
 ・「数と計算」領域の基本的な問題については、概ね理解できているが、数学的な考え方を問う問題になると、全国平均より3.9ポイント下回っている。
 ・「量と測定」、「図形」領域は、ほぼ全国平均と同等であるものの、ほとんどが下回っている。特に、「身近にあるものの重さの推察」、「正三角形の性質を活かした適用問題」は、全国的な傾向でもあるが、正答率が低い。

2. 経年変化



コメント

・小学3年時と比較すると、「量と測定」領域が7.4ポイント向上した。一方で、「図形」領域については、10.6ポイント下回った。
 ・観点別に見ると、「数学的な考え方」が8.6ポイント低下している。

コメント

・前年度の4年生と比較すると、全体として0.8ポイント下がっている。
 ・()を用いた三つの数の乗法について、式の意味を場面と結びつけて説明する問題や、「長さ」における適切な単位の選択は、前年度より約3ポイント下回っている。

3. 強みと弱み

- 乗法や除法の文章問題では、正しい立式ができ、全国平均を上回っている。
- 棒グラフの読み方、表し方だけでなく、有用性や特徴についての理解が必要である。
- 二つの表で異なる数値に着目し、条件を満たす場合を考えたり、式の意味を場面と結びつけて説明したりする力が不足している。

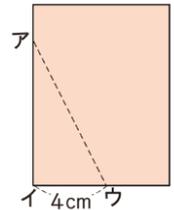
(1) 単元名「三角形と角」

(2) 本単元をつまづき

◇出題のねらい『正三角形の性質がわかり, 適用問題ができる。』

◇問題例

右の図のように, 紙を2つに折り, 直線アウにそって切ります。紙を開いた時に, 正三角形になるのは, 直線アウが何cmのときですか。

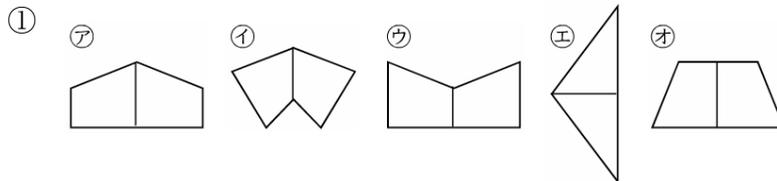


◇つまづき仮説

紙を開いてできる形が, イメージできない。



(3) つまづき解消に向けた指導例



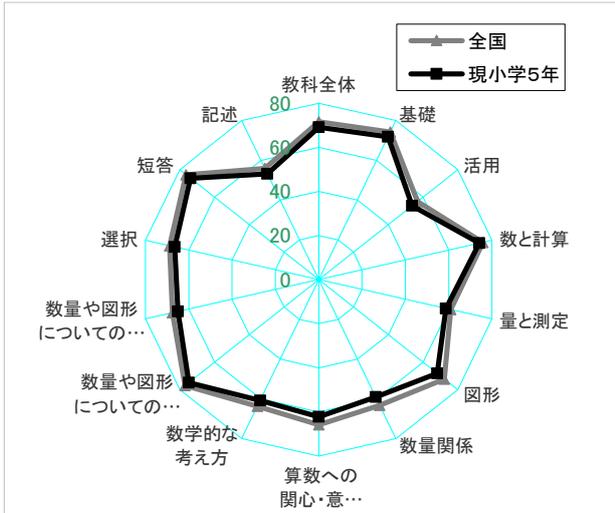
*上記のような図形を, 中央の直線でぴったり重なるように折る。折ったものをまた開く。何度か繰り返し, 折り重なったものを開くと, どんな形ができるかイメージを掴ませる。

②問題の図形について考える。

③どうしたら正三角形ができるかを考える。

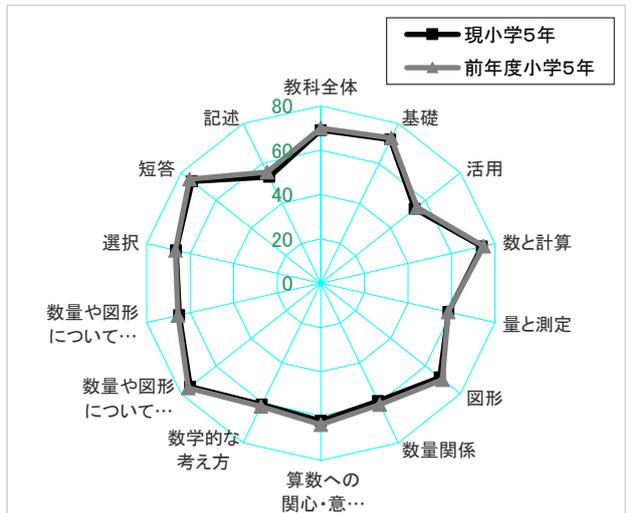
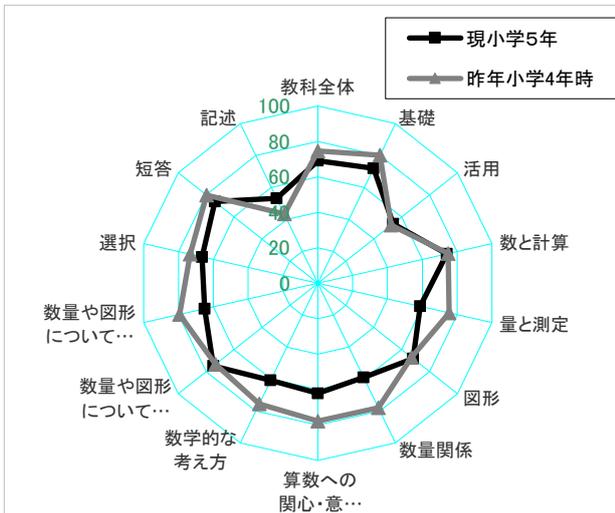
小学 5年 算数

1. 全体傾向



・教科全体としては、全国平均正答率より2.4ポイント下回っている。
 ・「数と計算」領域では、基本的な計算技能が身に付いておらず、正答率90%を超えた問題が1問のみであった。また、文章題にも課題が見られた。
 ・「数量関係」領域は、「計算のきまり」や「折れ線グラフ、二次元表の読み取り」に関する問題が、大きく全国平均より落ち込んでおり、当学年の重点課題と言える。二次元表の読み取りについては、無回答率が約2割と非常に高い。

2. 経年変化



・小学4年時と比べると、活用問題に関しては大きな差はないが、基礎的な問題で8.3ポイント低下している。
 ・領域別に見ると、「量と測定」で16.7ポイント、「数量関係」で18.9ポイントと、4年時を大きく下回った。
 ・解答形式では、記述が11ポイント向上した。

・前年度の5年生より、2ポイント以上正答率が下がった問題が8問ある。領域としては「数量関係」に多い。
 ・概数に関する問題については、1.5ポイント以上向上した。

3. 強み(○)と弱み(●)

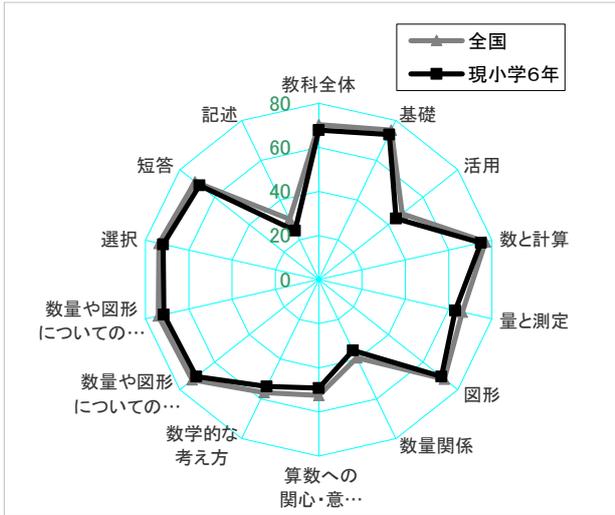
○数直線上に示された分数の読み取りが、全国平均より3ポイント上回っている。

●「図形」領域において、対角線の性質の理解やひし形の作図が、全国平均より大きく下回っており、単元指導計画の見直しや、具体的手立ての改善が必要である。

●身近にあるものの面積を推察する問題では、正答率が大変低い。半数以上が同じ誤答をしており、面積の量感をつかませる指導が必要である。

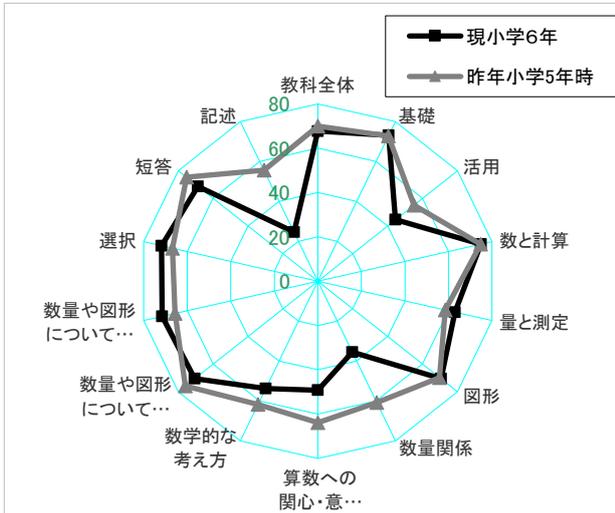
小学 6年 算数

1. 全体傾向

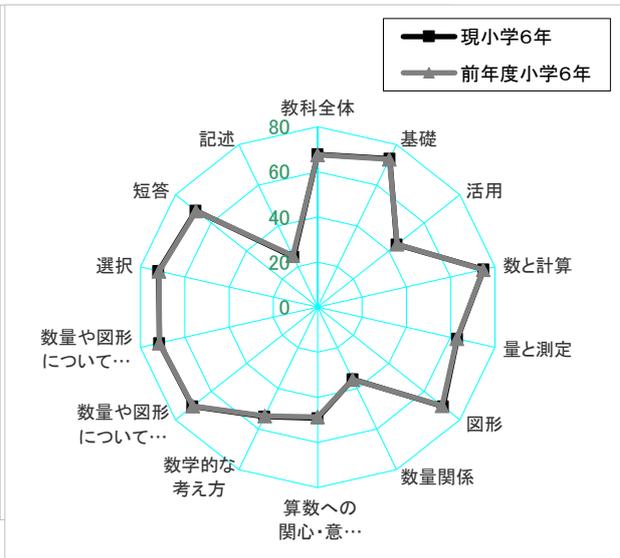


・教科全体として、全国平均正答率より2.4ポイント下回っている。領域や観点において、大きな差は見られないが、全国平均を上回った問題はない。
 ・「数と計算」領域では、基本的な計算問題の正答率が90%に満たない。そのうち、「整数÷小数」において、小数第三位までわり進める問題に関しては、無回答率が高い。
 「数量関係」の領域については、「与えられた表のデータから割合を求める」、「百分率を理解し、代金を求める」問題に課題が見られる。

2. 経年変化



・小学5年時と比べると、教科全体ではほぼ同等であるが、活用問題の正答率は10.6ポイント下回っている。
 ・領域別では、3領域において、向上が見られたが、「数量関係」については、大きく下回った。
 ・「関心・意欲・態度」の観点も、14.6ポイントと大きく低下している。



・前年度6年生と比較すると、全ての項目において、ほぼ同等の傾向が見られる。

3. 強み(○)と弱み(●)

○合同な図形を選ぶ問題は、正答率が90%を上回った。

●解答形式の「記述」については、全国的な傾向でもあるが、大変低い正答率となっている。授業で得た知識や技能を、考え方の根拠として用いることができるような学習活動の場を設定する必要がある。

●「正方形の紙を3回折って、切った形が正八角形だとわかる」という問いの正答率が昨年度より低下した。具体物操作を充実させることで、実感を伴った理解に繋げていけるとよい。

(1) 単元名「単位量あたりの大きさ」

(2) 本単元をつまずき

◇出題のねらい『測定値の個数が増えたとき, 新たな平均を求めることができる。』

◇問題例

たかしさんは, ソフトボール投げの記録を3回測りました。3回の平均は28mでした。4回目を投げたら, 32mでした。たかしさんの4回の記録の平均は何mでしょう。

◇多い誤答 → 3回の平均28mと, 4回目の32mを足して2で割る。(誤答30m)

◇つまずき仮説

- ①平均の定義, 求め方が定着していない。
- ②「3回の平均が28m」とは, どのような場合か, 理解できていない。
- ③3回の平均と, 4回目の記録の結びつけ方がわからない。



(3) つまずき解消に向けた指導例

①平均 → いくつかの数量を, 等しい大きさになるようにならしたもの

求め方『平均=合計÷個数』

上記の問題例では, 投げた回数

上記の問題例では, 4回投げた記録の合計



いくつか例題に取り組み, 「合計は?」「個数はいくつ?」などと, 子どもに問いかけてみましょう。

②「3回の平均が28m」とは, どのような場合が考えられるか, 図や文章などを使って表す。

例

	1回目	2回目	3回目
記録 (m)	31m	27m	26m

例 3回とも28mとんだ。

平均=合計÷個数

平均×個数=合計

3回の合計値の必要感を持たせましょう。

3回の平均が28mなので, 3回の合計は, $28 \times 3 = 84m$



③4回の記録の平均を求める。

平均=合計÷個数



3回の記録の合計+4回目の記録(32m)

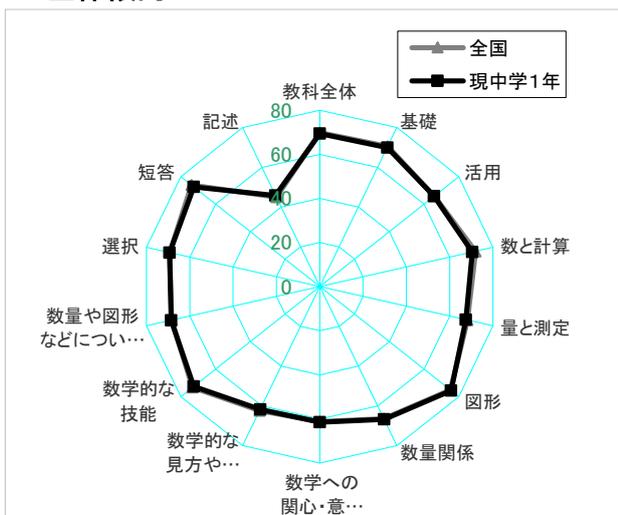
$$(28 \times 3 + 32) \div 4 = 29$$

答え 29m

() を使って一つの式で表せるように

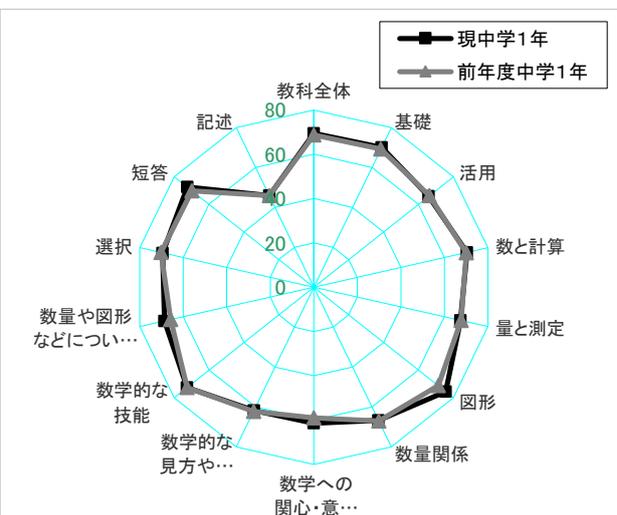
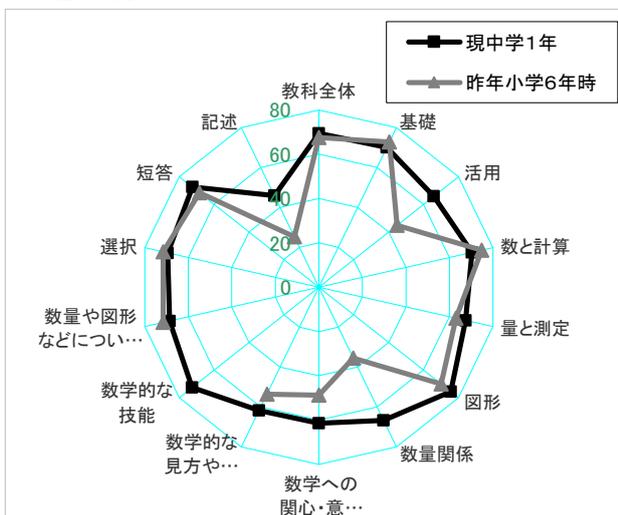
中学 1年 数学

1. 全体傾向



・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同等であり、良好な状況である。
 ・領域別に見ても、顕著な落ち込みはなく、「図形」、「数量関係」については、全国平均を上回った。特に「点対称な図形をすべて選ぶ」問題は、全国に比べ7.2ポイント高い。反対に、「ある四角形と合同な四角形を選ぶ」問題は、全国より5.8ポイント下回った。
 ・「整数÷分数に関する文章題の正しい式を選択する」問題や、「100m走のタイムから、その秒速を求める」問題では、約4割の生徒が同じ誤答を選んでい

2. 経年変化



・昨年小学6年時と比較すると、教科全体としては、1.8ポイント上回っている。
 ・活用問題に関しては大変高い。さらに、「数量関係」の領域では、31.2ポイントと大幅な向上が見られた。こうした結果と、「関心・意欲・態度」の数値の上昇には、相関関係があると推測する。

・前年度の中学1年と比較すると、ほぼ同等の数値である。
 ・「図形」領域については、4.3ポイント上回った。

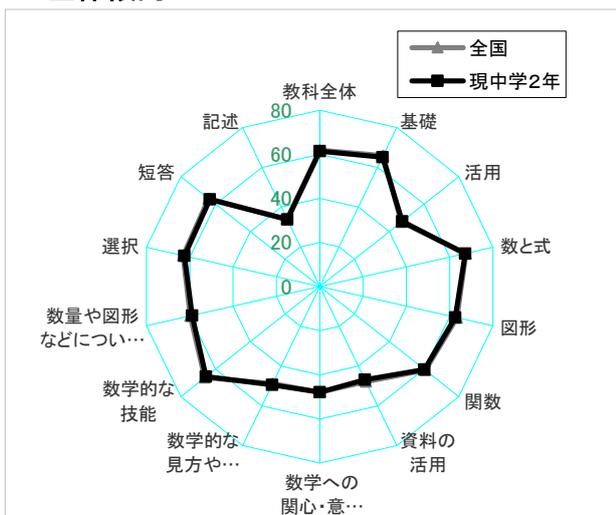
3. 強みと弱み

○無回答率が全て9%以下と低い値になっている。

●記述式の問題では、全国平均正答率を上回っている。但し、「グラフについての説明の正誤を判断し、判断の理由を説明する」問題は、決して高い正答率ではない。得た知識を基にして、自らの考えの根拠を述べるような活動が必要である。

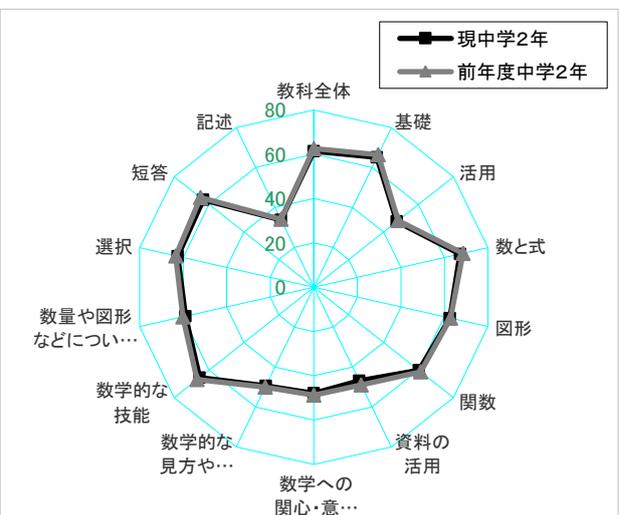
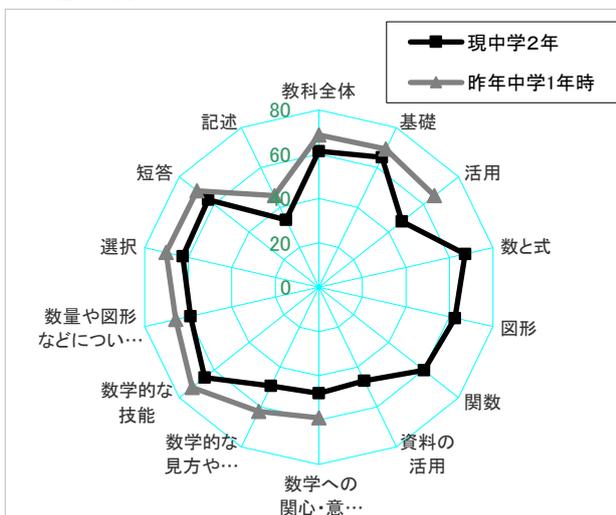
中学 2年 数学

1. 全体傾向



・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同等であり、良好な状況である。
 ・活用問題は、全国より0.5ポイント上回った。基礎的な問題も大きな差はないが、簡単な一次方程式や分数の乗法において、小さなつまづきが見られた。
 ・全国的な傾向であるが、解答形式において、「選択」、「短答」の正答率に比べ、「記述」の正答率は大変低くなっている。

2. 経年変化



・昨年中学1年時と比較すると、教科全体としては、7.3ポイント低下している。特に活用問題では17.1ポイント下回った。
 ・観点別に見ると、「数学的な見方・考え方」、解答形式の「記述」において、どちらも約12ポイント下がっている。

・前年度中学2年と比較すると、教科全体でわずかに下回っているものの、特に大きな差はない。

3. 強みと弱み

- 問題内容の「空間図形」や「資料の散らばりと代表値」において、全国平均を上回った問題が多い。
- 「ある図形の回転体の見取り図を選ぶ」問題では、昨年度より正答率が向上し、全国平均も若干上回った。
- 「資料の活用」領域において、昨年度比で大きく下がった問題が多い。特に、「ある距離の測定値を10の累乗を使った形に表す」問題は、正答率が大変低く、無回答率も高くなり、重点的な指導が必要である。

(1) 単元名「比例と反比例」

(2) 本単元のみならず

『比例の式から, 比例のグラフをかきことができる。』

『グラフの傾きから, 問題文の条件にあうグラフを選ぶことができる。』

(3) つまずき解消に向けた指導例

比例について理解させる。そして, 比例を表, 式, グラフなどに表す。

○比例を表す関数 $y = ax$ のグラフは, 原点を通る直線である。

① $a > 0$ のときは右上がりの直線

② $a < 0$ のときは右下がりの直線

中学校数学では, 数の範囲が負の数にまで拡張される。



教科書P137

○比例のグラフは原点を通る直線であり, 原点ともう1点がわかればかくことができる。

例: $y = -1/2x$ のように比例定数が分数のときは

「 $x = 2$ のとき, $y = -1$ 」というように, x 軸と y 軸が整数になる点を通る直線をかき。

また, a (比例定数) の値が大きいほど, グラフの傾きが急になることもあわせておさえない。

思考力, 判断力, 表現力等の育成のために・・・

○表, 式, グラフによる比例の考察方法や表現方法を習得させること。

関数の変化や対応の特徴を考察し理解する上で, 表・式・グラフを相互に関連づけていく。

○数の範囲を負の数にまで拡張した上で, 比例の特徴を具体的に見いだすこと。

小学校では正の数の範囲に限定されていた。比例定数の正負, 比例のグラフの増減の様子を対比させながら, 比例の特徴を理解させる。



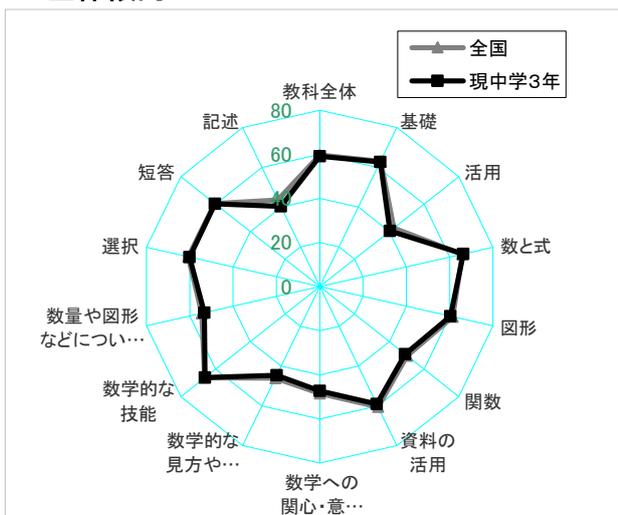
小学校では, 表などを用いて比例の関係を調べたり, その関係を式で表現したりするなど学習してきました。

中学校では, 関数関係にある数量をもとに, 捉えにくい数量を求めるという関数的な見方・考え方のよさを実感させていきたいです。また, 日常の中で, 厳密には比例ではなくても, 比例とみなして問題解決や未知の状況を予測する場合があります。こうした考えの重要性や有用性についても認識させていきたいです。

いろいろな例を取り上げ, 身の回りの比例の関係について, 数学的に考察しようとする態度を育てていきましょう。

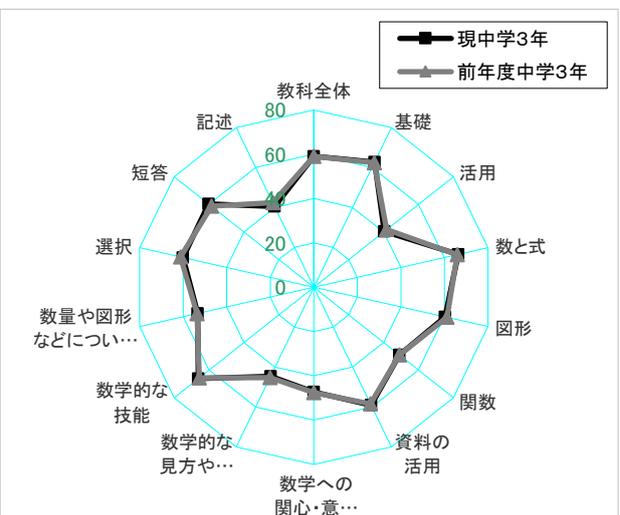
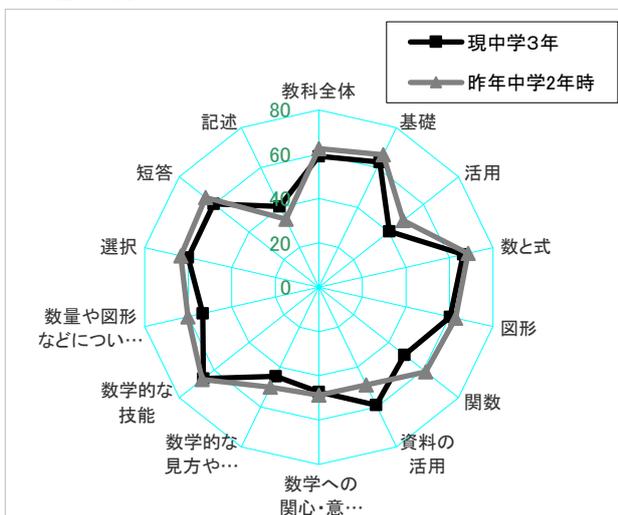
中学 3年 数学

1. 全体傾向



・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同等であり、良好な状況である。基礎的な内容に比べ、活用問題は平均値よりやや下回っている。
 ・領域別に見ると、「数と式」において、全国平均より上回っている問題が10問あり、基本的な計算技能が身に付いていると言える。
 ・「関数」、「資料の活用」領域は、各問題で大きな落ち込みはないものの、全国平均を下回っている。

2. 経年変化



・昨年中学2年時と比較すると、教科全体としては、3.5ポイント低下している。
 ・領域別に見ると、「資料の活用」で10.1ポイント上回り、反対に「関数」では、12.1ポイント下回った。
 ・解答形式の「記述」において、6.4ポイントの向上が見られた。

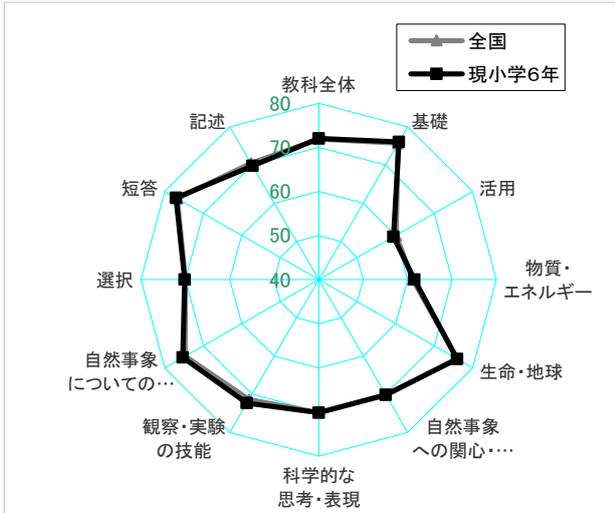
・前年度中学3年と比較すると、教科全体では1ポイント上回っている。
 ・領域や観点については、大きな差は見られない。

3. 強みと弱み

- 「分数を含む多項式の減法の計算」が、全国平均より上回っている。
- 「二つのサイコロを投げる時の確率を求める」問題は、昨年度より向上し、全国平均も上回っている。
- 「1次関数のグラフから、ばねが伸びた長さを読み取る」問題は、全国平均より下回っている。
- 「座標軸上の三角形の面積を2等分する直線の式を求める」問題は、全国平均を上回っているものの正答率は低い。さらに無回答率が非常に高く、授業改善が必要と言える。

小学 6年 理科

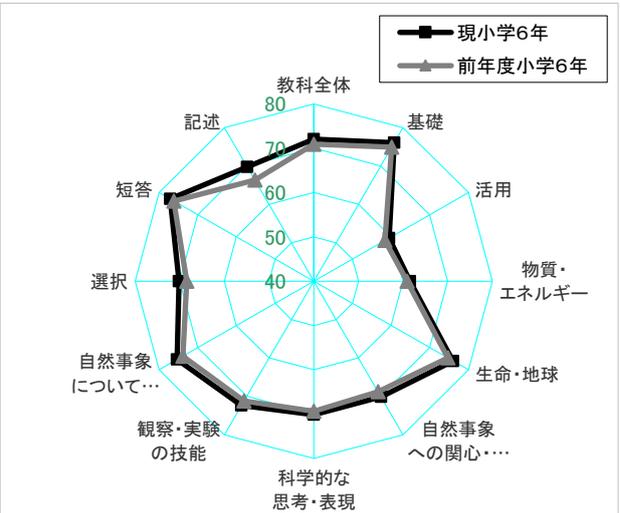
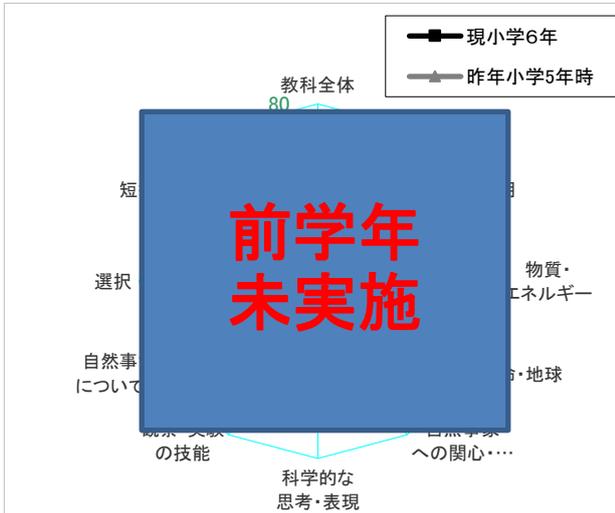
1. 全体傾向



コメント

・全国と比較すると、教科全体、基礎については若干上回っている。
 ・領域については、全国とほぼ同程度となっている。
 ・観点では、「観察・実験の技能」が全国より若干上回っている。

2. 経年変化



コメント

コメント

・昨年度と比較すると、教科全体では、1.2ポイント上回った。また、基礎でも1.2ポイント、活用でも1.0ポイント上回っている。
 ・領域では、「生命・地球」が1.3ポイント、観点では、「自然事象についての知識・理解」が1.5ポイント上回っている。

3. 強みと弱み

- 気象衛星の雲の画像から、次の日の天気を予測することができる。
- 台風が近づいてきたときの天気の変化を理解している。
- ふりこの周期についての対照実験の条件を制御できる。
- 川の写真から、川の流れている場所を指摘することについて。
- 川原の石の写真から、観察された川原の場所を推測することについて。

4. 授業改善の方向，効果的指導例

- 実験できるものに関しては，よくできている。
- 実験できないものや実際に見ることができないものはできない。
- 映像教材の有効性を発見する。ICTの活用。

*現象名や物の名前を答えるような問題の対応

現象を見たり，実験したりすることで内容の理解はできているが，理科の語彙が少ない傾向がある。授業の中で意識的に理科の用語を使うことができれば，改善される可能性がある。

例えば，児童がまとめを書く段階で，理科の用語を使ってまとめるように促すようにする。

*目に見えない物を見える化することの重要性

理科教育支援員の実験準備により，教科書にある実験をほぼ実施することができている。しかし，実験では扱えないものに関しては，映像等を有効に活用したり，図などで視覚的にとらえられるようなイメージ化をしたりして児童の理解を促す工夫が必要となる。

例題（あまりできていない問題）

図のような河原の石はどのあたりで見られるか。

- ①上流 ②中流 ③下流

また，その理由は？



【仕組みを理解し，より妥当な考えをつくり出す力】

なぜ石が写真のような形になるのか，自然の中でどのような現象が起きているのかなどを考える時間が必要である。物事の仕組みを考えることは科学的思考を伸ばすためにも必要であろう。しかし，自然現象を学校の実験で再現することは困難であるので，映像教材等を有効に利用し理解を深める活動を取り入れることが大切になると考える。

理科の学習では，「なぜ」という思いを十分持たせ，情報を整理して予想，実験，結果，まとめと進めていくことが大切である。

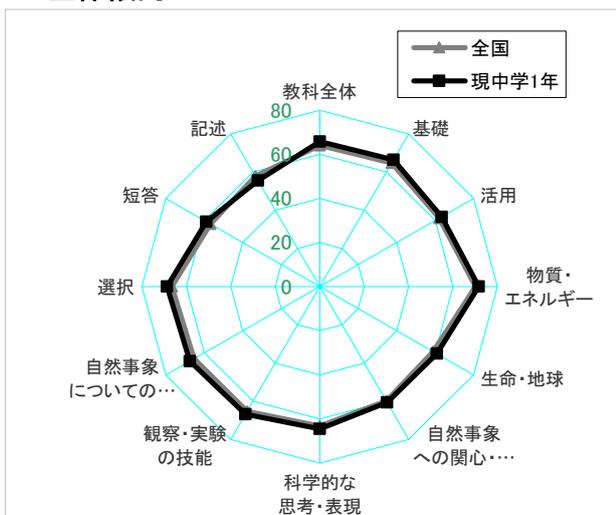
観察実験を行う際に育てたい資質・能力

- ①問題を見出す力
- ②根拠のある予想や仮説を発想する力
- ③解決の方法を発想する力
- ④より妥当な考えをつくり出す力

4つの力を児童が身に付けられるように，
これからの授業を工夫しましょう。

中学 1年 理科

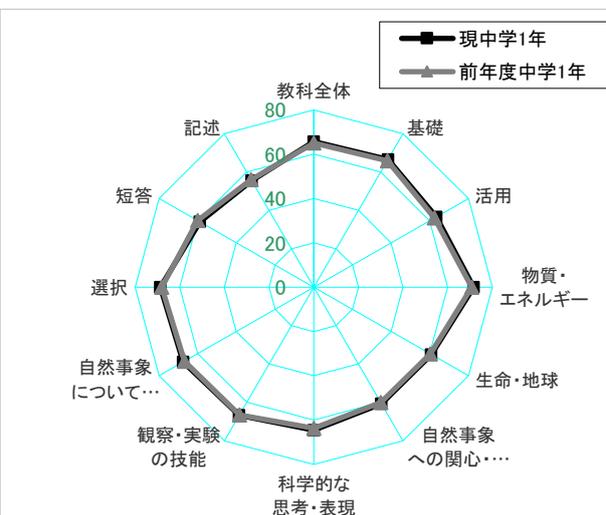
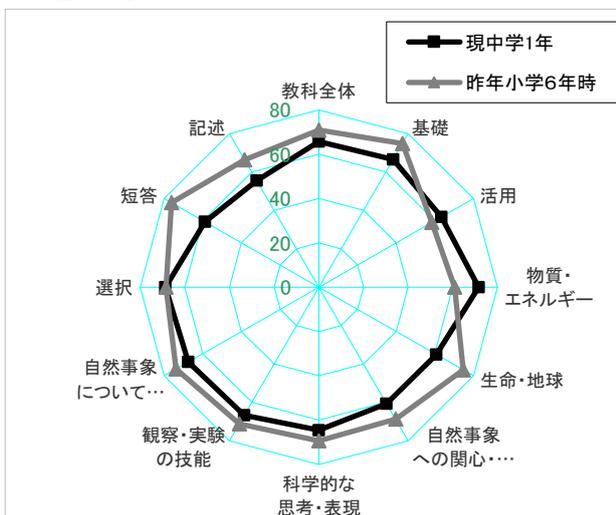
1. 全体傾向



コメント

・全国と比較すると、概ね同様か若干上回っている。教科全体・活用に関してはともに1.3ポイント上回っている。
 ・領域も「物質・エネルギー」が1.5ポイント、「生命・地球」が1.8ポイント、全国を上回っている。
 ・観点もすべての項目で全国を上回っており、特に「自然事象についての知識・理解」は2.2ポイント全国を上回っている。

2. 経年変化



コメント

・小学6年時と比較すると、教科全体・基礎は下回っているが、活用については上回っている。
 ・観点で見ると、すべての項目で下回っている。(問題の差によるものと考えられる。)

コメント

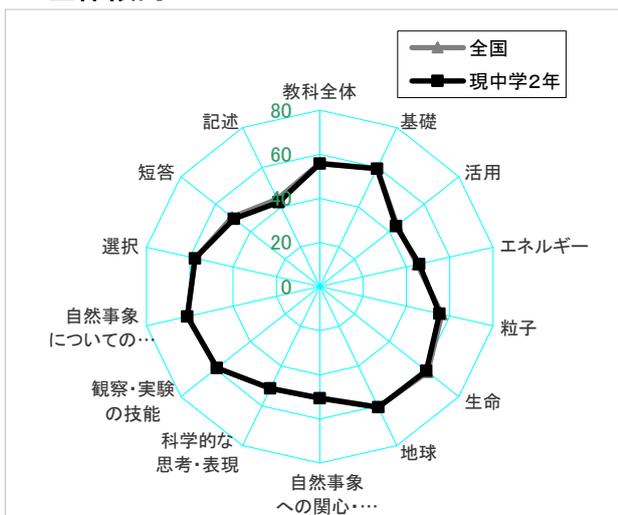
・昨年度との比較では、概ね同様か若干上回っている。領域・観点でもすべての項目で上回っている。

3. 強みと弱み

- 液に物がとけているかどうかを調べる方法を考えることができる。
- 植物の光合成を調べる実験で、葉にアルミニウムはくでおおう理由を理解している。
- 葉をヨウ素液につけたときの結果を判断できる。
- 日常生活に見られる道具が、てこのしくみを利用しているかどうかを判断できる。
- てこを使って、小さな力でおもりを持ち上げる方法についての考え。
- 水溶液の性質から、その水溶液がなんであるかを特定することについて。

中学 2年 理科

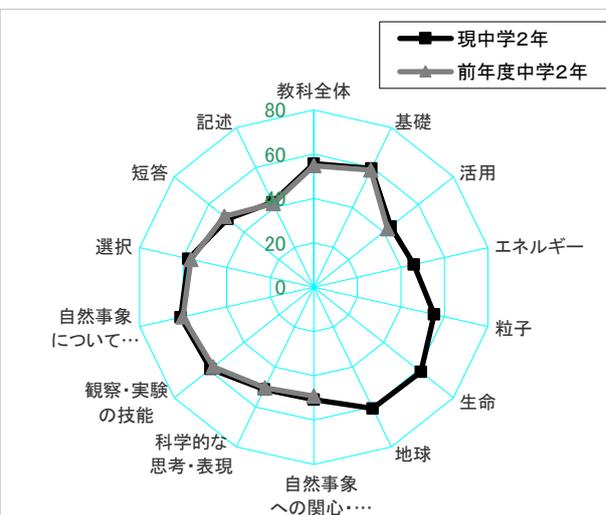
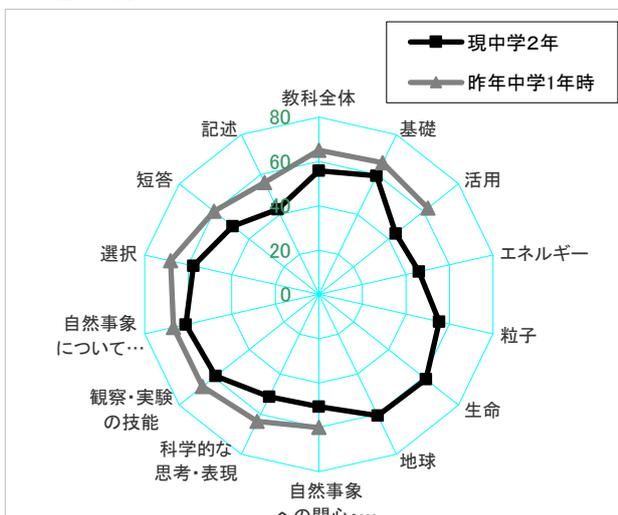
1. 全体傾向



コメント

- ・全国と比較すると、概ね同様の結果である。
- ・記述に関しては、全国より1.6ポイント下回った。
- ・領域については、「エネルギー」が若干上回ったが、その他の領域については同程度か若干下回った。
- ・観点では、すべての項目でほぼ同程度であった。

2. 経年変化



コメント

- ・昨年度と比較すると、教科全体・基礎活用ともに下回っている。活用については18.5ポイント下回っている。(問題の差によるものと考えられる。)

コメント

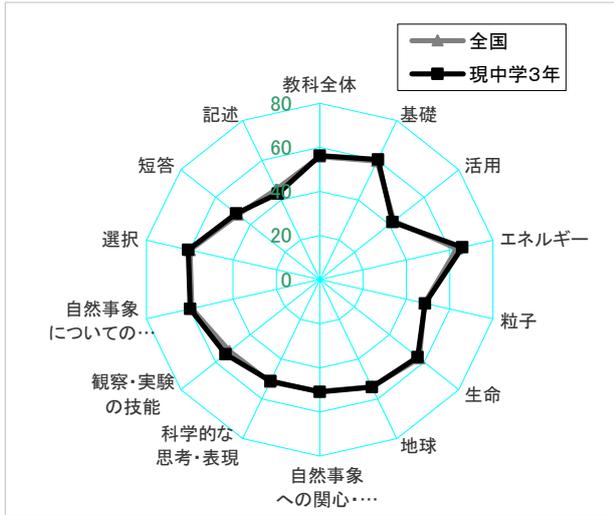
- ・昨年度と比較すると、教科全体で1ポイント、活用は1.8ポイント上回った。観点もどの項目においても昨年度を上回っており、「自然事象への関心・意欲・態度」「観察・実験の技能」は1.5ポイント上回っている。

3. 強みと弱み

- ヨウ素デンプン反応の結果から、光合成を行いデンプンをつくった葉を判断できる。
- 水中に完全にしずんだ物体をさらに深くしずめたときの、浮力の大きさについて考えることができる。
- 電気伝導性や磁性を調べることで、身近な物質を区別できる。
- 密度を求めることで、金属を区別できる。
- シダ植物やコケ植物は胞子をつくってふえることの理解。
- 双子葉類の根と茎の断面の様子について。
- 深成岩のでき方とできた場所の理解について。

中学 3年 理科

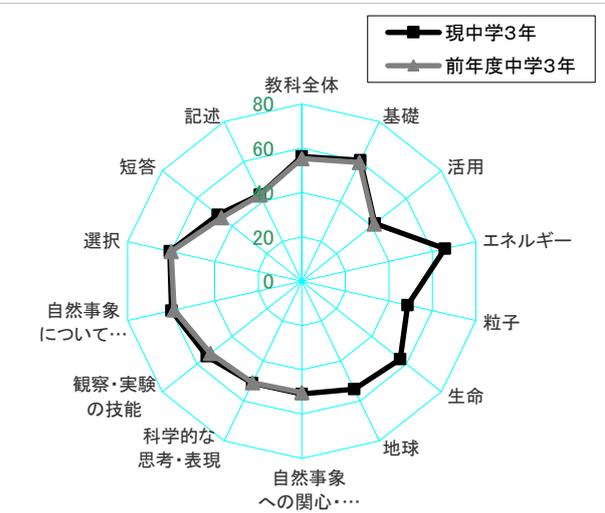
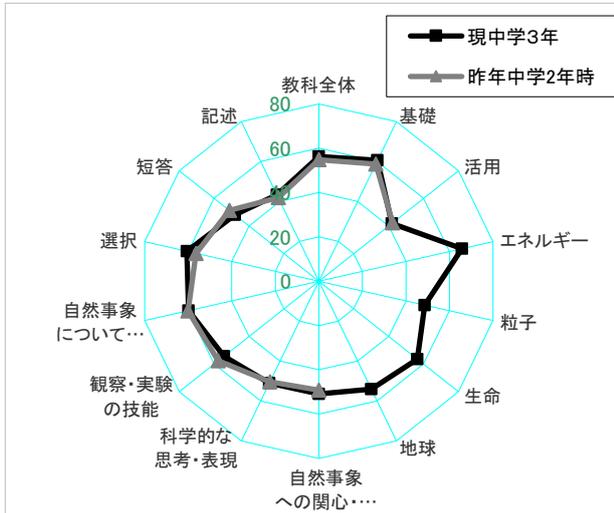
1. 全体傾向



コメント

・全国と比較すると教科全体と基礎では若干上回ったものの、活用については全国を下回った。
 ・領域では、「エネルギー」については全国より2.5ポイント上回ったが、「生命」においては若干下回った。
 ・観点では、「観察・実験の技能」について2.3ポイント全国より上回ったが、その他の項目ではほぼ同程度の数値となった。

2. 経年変化



コメント

・教科全体では1.5ポイント上回った。また、記述に関しても向上し、1.5ポイント上昇した。一方、短答では3.1ポイント低下している。

コメント

・昨年度と比較し、教科全体、基礎活用ともに上回っている。観点については、「観察・実験の技能」が2ポイント、「自然事象についての知識・理解」が1.2ポイント上回っている。

3. 強みと弱み

- デンプンを消化する器官を理解している。
- 肝臓のはたらきを理解している。
- 誘導電流の向きと大きさを変えることができる。
- 「電磁誘導」について理解している。
- 細胞を観察するときを使う染色液の理解について。
- 電流と電圧の測定の結果から、電熱線の抵抗を求めることについて。
- ガスバーナーの炎の正しい消し方について。

4. 授業改善の方向，効果的指導例

- 実験できるものに関しては，よくできている。
- 実験できないものや実際に見ることができないものはできない。
- 映像教材の有効性を発見する。ICTの活用。

*理科の用語を答えるような問題の無回答に対する対応

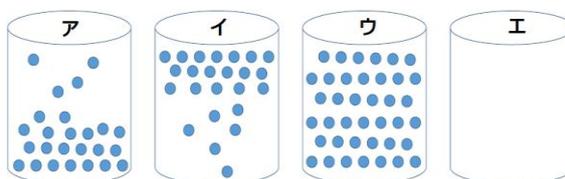
現象を見たり，実験したりすることで内容の理解はできているが，理科の語彙が少ない傾向がある。授業の中で意識的に理科の用語を使うことができれば，改善される可能性がある。

*目に見えない物を見える化することの重要性

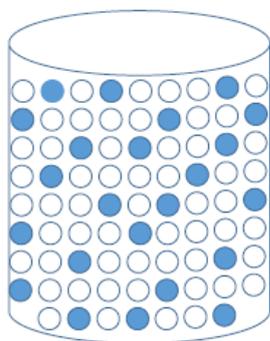
電流や電圧，分子や原子など中学校では，目に見えないものを学ぶことが増える。教員側はイメージできていても，生徒はイメージできていないことも多い。見えないものをイメージ化することは，科学的な想像力を育てる第一歩になると考える。予想を言葉で表すことも大切だが，科学的なイメージを持てるようにすることも今後重要になると考えられる。

例題

右の図は，砂糖水を粒子のモデルで表したものです。このビーカーにふたをして1週間置いた後の砂糖水は，どのようなモデルで表せますか。



【既知の知識から未知のものを想像する力】



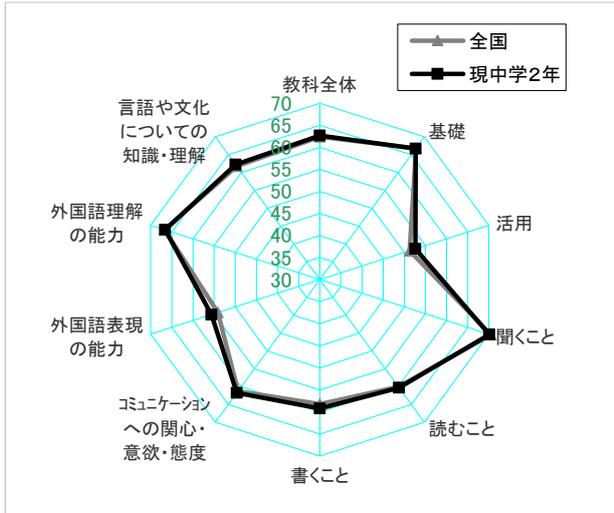
● 砂糖 ○ 水

生徒が見えない物を理解するためには，イメージ化できるかどうか，そのイメージをどのように実体験や既習事項と結び付けていくかが鍵である。砂糖を大きな粒と考えていれば，沈むとするのが自然のイメージだと思われるが，均一に混ざったままであると理解させるには，何が必要だろうか。例えば，左図のように水も粒であるというイメージも持つことなど授業で様々な視点を生徒に考えさせ，理解を深めていくことも必要だと考える。

理科の学習では，「なぜ」という思いを十分持たせ，情報を整理して予想，実験，結果，まとめと進めていくこととなります。物事を多面的にとらえるように働きかけた授業を展開してください。

中学 2年 英語

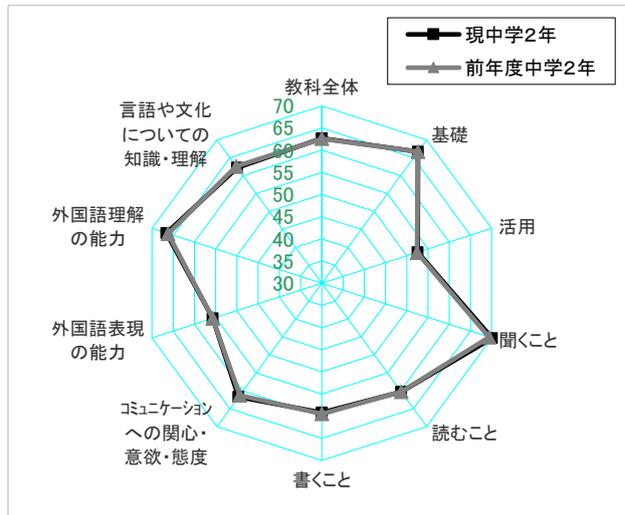
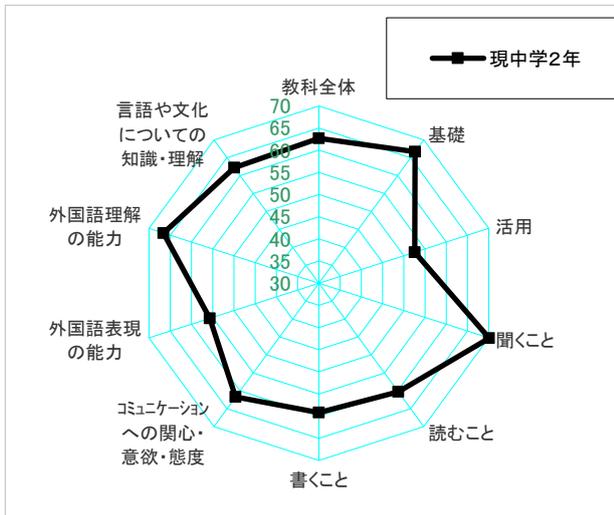
1. 全体傾向



コメント

教科全体の平均正答率は、全国と同等である。
 <問題別>
 ・「場面に応じて英文を書く」問題や「長文の内容を英文で答える」問題は、全国と比較して、上回っているものの、平均正答率は大変低い。また無回答率も18%から21%と高い。「表現力」に課題がみられる。

2. 経年変化



コメント

コメント

・前年度とほぼ同等である。「表現の能力」が弱いという課題は依然として克服できているとは言えない。

3. 強みと弱み(強み○ 弱み●)

- 「語彙や語法の知識理解」「単語の並べ替えによる英作文」等、知識習得に関することは良好である。
- 「活用」には大きな課題があり、特に「外国語表現の能力」が低い。
- インプットによる知識を、アウトプットによる表現の能力までつなげることが必要となる。

中学2年生の授業改善の方向・効果的指導例

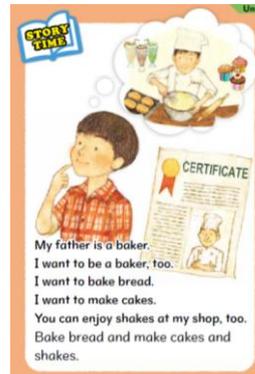
背景として

小学校では次期学習指導要領の移行期間（H30～H31）となっている。

○各小学校で3年生から外国語活動の授業開始（今年度：学校裁量で年間15時間～30時間増）

6年 We can! 2 Unit 8 Story Time より

☆小学校でたくさん触れている音声を
中学校でなるべくたくさん文字や文法に
自然につなげていくことが必要



小学校外国語活動

中学校外国語

音声（聞く、話す）の学習

⇒ 文字（読む、書く）が大きく入ってくる学習への移行

※特に「文法」など学習内容が高度になる

今回の調査結果及びその対策として

「聞くこと」の正答率が他の技能よりも高いことを活用，応用

⇒「聞くこと」の技能を，他技能に「つなげる」活動を組み立てる<4技能を意識した指導>

例：「聞いたものに反応して即興的に話す」，「聞いたものを書いてまとめる」

⇒学習意欲を高める場面設定の工夫<日々の積極的な授業改善>

(1) 「小学校外国語活動」と「中学校の英語」をつなげる

- ・「Let's try! 1,2」「We can! 1,2」の内容の把握
- ・相互授業参観や小学校における出前授業などの実施

(2) 「聞くこと」と「書くこと」をつなげる

例【トピックトーク】

- ・グループやペアで共通のトピックについて，英語で一定の時間（30秒～1分）会話
※トピックについては，既習事項などと組み合わせ，生徒の「伝えたい，知りたい」という気持ちを自然に高めるような身近な話題を設定
- ・「一定時間会話を続ける」，「アイコンタクトをする」，「失敗を恐れず英語を話す」，「2文以上で詳しく答える」など，「めあて」をはっきりと設定
- ・話したことを書き起こす等，「書く」活動につなぐ

(3) 「読むこと」につなげる

中1では，30語～50語の英文を読み取ることから，年度末には100語程度の英文初見の内容を読むことができるように，授業に取り入れる。

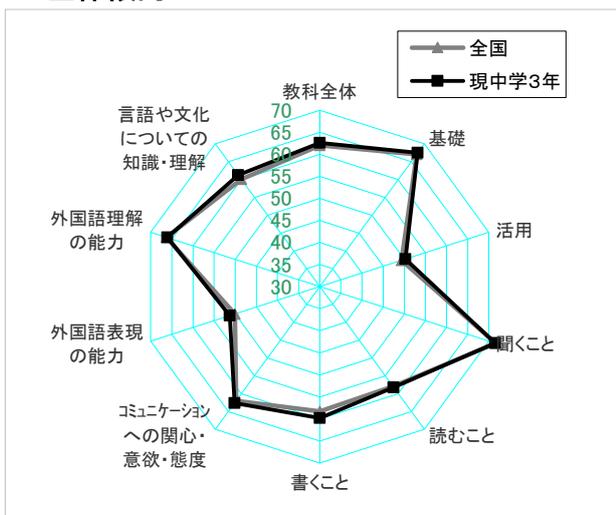
(4) 「家庭学習の仕方を指導すること」から，「自主学习」につなげる

特に，中1の英語の自主学习の仕方については丁寧に指導

★昨年度から導入したデジタル教科書の積極的な活用をお願いします。

中学 3年 英語

1. 全体傾向



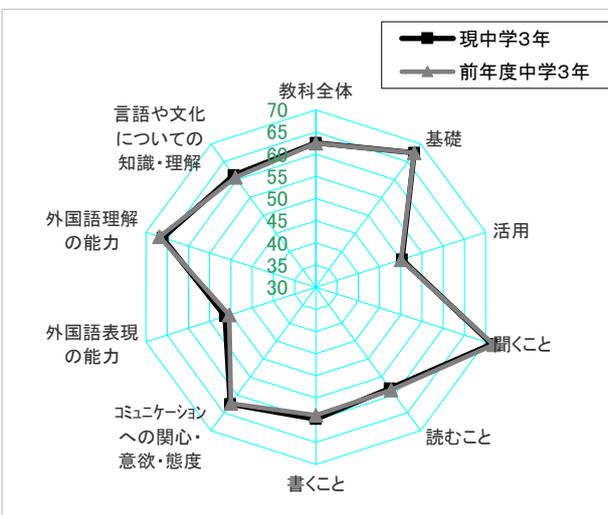
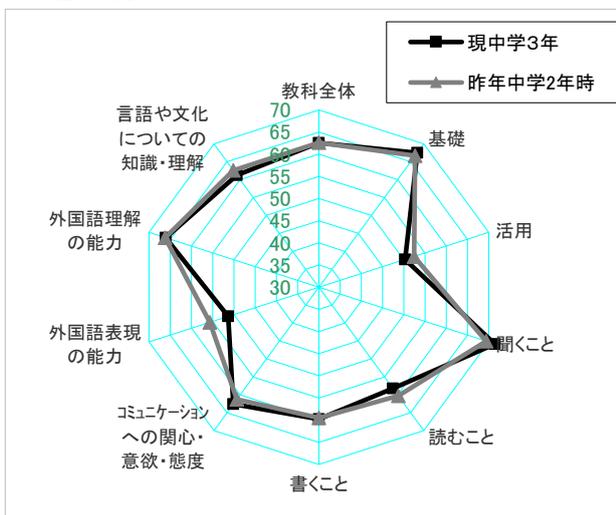
コメント

教科全体の平均正答率は、全国と同等である。

＜問題別＞

・「場面に応じて英文を書く」問題や「長文の内容を英文で答える」問題は、全国と比較して、上回っているものの、平均正答率は大変低い。無回答率も16%から35%と高い。「表現力」に課題がみられる。

2. 経年変化



コメント

・教科全体の平均正答率は、中学2年時と比較すると同程度である。
 ・全国平均との標準スコアで昨年中学2年時と比較すると下回った。

コメント

・前年度と同等である。「表現の能力」が弱いという課題は依然として克服できていないといえる。

3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

○「内容理解に関するリスニング」「語彙の知識理解」は良好である。

●「活用」には大きな課題があり、特に「外国語表現の能力」が低い。

●インプットによる知識を、アウトプットによる表現の能力までつなげることが必要となる。

背景として

中学校2年間の学習を経てきて、「強み」（特に聞くこと）と「弱み」（特に書くこと）の傾向がはっきりとし、二極化が顕著である。

柏市の生徒が持っている「強み」をどこまで「弱み」の克服に活かせるか。全国との比較から正答率が高いケースと低いケースとに区別、注目しながら、今後の授業改善につなげる。

今回の調査結果及びその対策として

- ・特に「書くこと」については無解答の生徒が3割を超える問題もあり、改善を図る必要あり。
- ・Classroom English でよく使われる表現でも、正しく英文に書けない（文字と音声のつながり）

☆指導の方針

- (1) 「聞くこと」(input)を「話すこと」「書くこと」(output)につなげる

ペア学習から小集団学習のスマールステップなど授業形態を工夫しながら、アウトプットを行う必然性を高めた言語活動の設定

- (2) 「家庭学習の仕方を指導すること」から、「自主学习」につなげる

生徒の中には進路を考え、焦りが高まるが「何から手をつけていいかわからない。」という声はかなり多い。家庭学習で高められるのは、「読むこと」、「書くこと」が中心となる。どんなものを読み、どんなことを書くのか個別のレベルも考慮し、明確に指示を出したい。

- (3) 授業で習得した英語が実社会・実生活でどのように活用できるか、生徒に意識させる

- ・「教科書を学ぶ」ではなく、「教科書で学ぶ」そして学んだ内容を実践する。
- ・+1（プラスワン）のアクティビティ、生徒のもっとできるようになりたいという気持ちを高める。

例 英文の読み取り（ある意見に自身の考えと理由を書く問題）

To travel is very interesting and exciting.

Which do you like to go during summer, mountain or sea? I usually go to sea to swim.
I think that going to sea is more exciting than going to mountain.

What do you think?

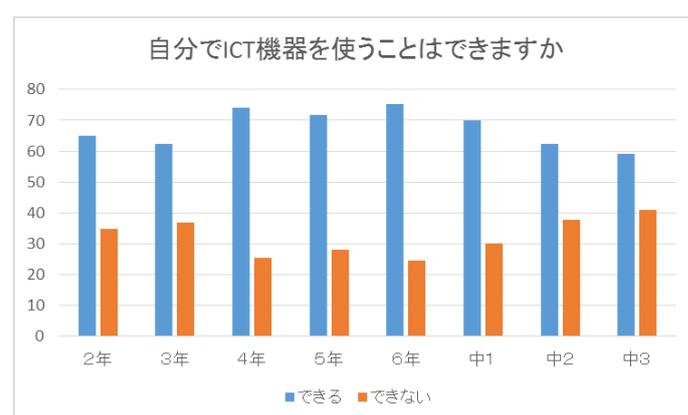
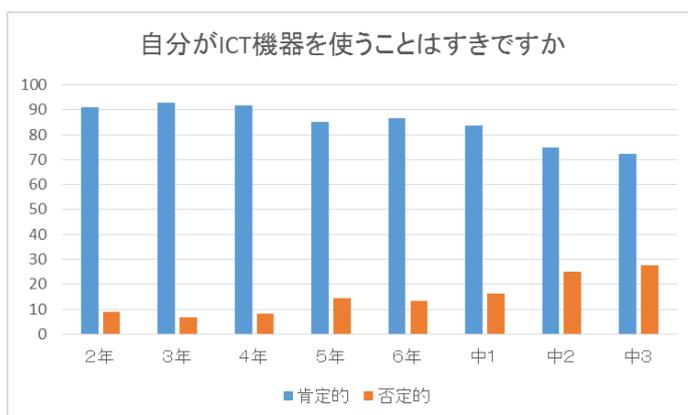
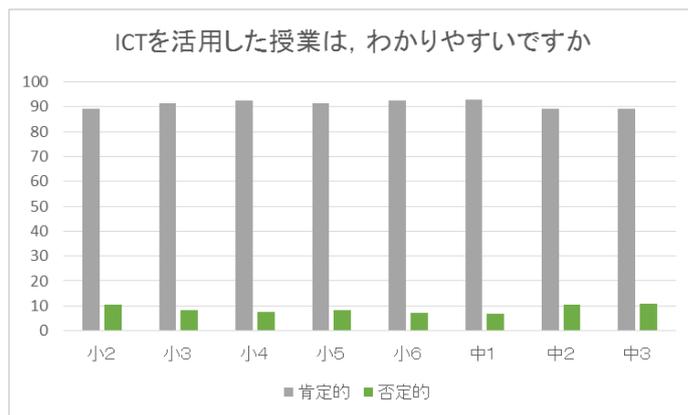
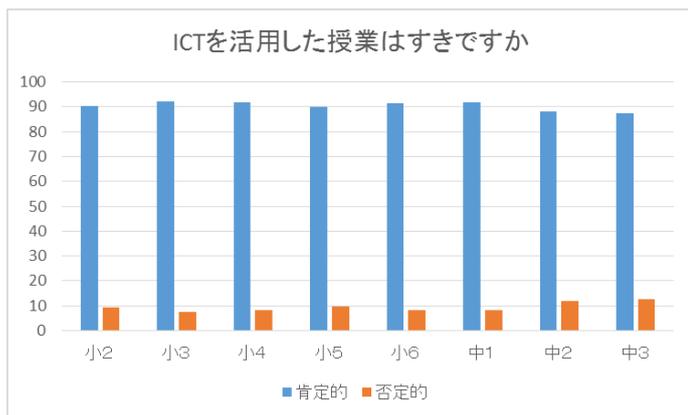
☆帯活動などで、一つの話題について「自分」の意見を表現し合う場面設定のある言語活動を普段の授業で実践できているか。

- (4) 「読むこと」と「書くこと」をつなげる

- ・中1では、段階に応じて、100語程度の英文を読むことに慣れる（簡単なQ&A）
- ・中2では、100語から150語程度の英文を読むことに慣れる（簡単なQ&A）
- ・中3では、それ以上の語数の英文を読み、内容理解とともに、理解した内容について、
①retell（話すこと） あらすじを自分の言葉で説明する
②reproduct（書くこと）要約などを自分の英語で作文する
などのアウトプット活動につなげる

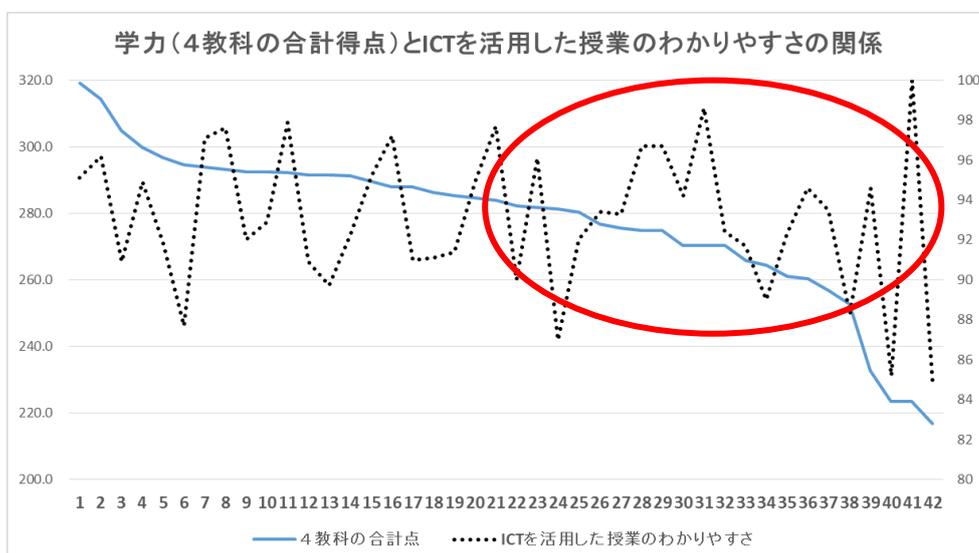
★昨年度から導入したデジタル教科書の積極的な活用をお願いします。

◆ICT 活用に関する生活・学習意識調査結果及び学力との関連について

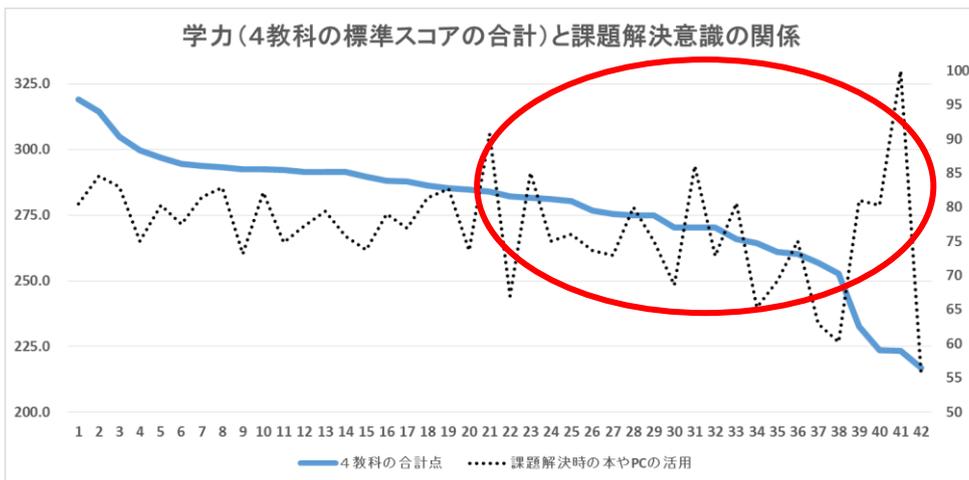


今年度の ICT 活用に関する生活・学習意識調査結果では、どの学年においても授業での ICT 活用を求めていることがわかる。ICT 活用のメリットである「拡大して見せる」「編集・強調ができる」「試行錯誤がしやすい」等を生かした授業展開が行われ、児童生徒の興味関心の高まりやわかりやすさにつながったものと思われる。

一方で、児童生徒が授業で ICT を活用することについては「肯定的ではあるが使うことに不慣れである」ことがわかる。新学習指導要領では「情報活用能力」が学習の基盤と位置付けられている。情報活用能力を育成するためには、ICT 活用は不可欠であり、積極的に学習活動に取り入れていく必要がある。



学力とわかりやすさの相関関係を見ると、学力が中・低位の児童にとって、授業での ICT 活用がわかりやすさにつながっていることがわかる。「学習課題を明確につかませたり、考えを共有したりする学習場面」における ICT 活用が望まれる。



学力と課題解決意識の相関関係を見ると、学力が中・低位の児童が、課題解決のために積極的に本やICTを活用していることがわかる。情報を収集・整理する活動を通して、「情報活用能力」や「問題解決能力」の育成を目指していく必要がある。

「情報活用能力」育成に向けた ICT を活用した授業展開例

- 【ポイント】
- * 情報を収集・整理し、比較分析を行い、それを表現し他者へ伝達する学習活動
 - * これまでの指導過程への位置付け

学習活動	学習場面	具体的な ICT 活用
課題把握	一斉	電子黒板やデジタル教科書, 実物投影機等で拡大して映す
自力解決	個別	タブレット PC でデジタル教材等を活用しながら自分の考えを整理する
比較検討	ペア・グループ・一斉	授業支援ソフトや協働学習ソフトを活用して他者の考えを共有したり, 自分の考えの再構成したりする
習熟	個別	

あるものを有効活用

IT アドバイザー Online

学習メニュー (小学校用・中学校用・特別支援学級用)



授業での効果的な ICT 活用場面を多数収録
※教育研究所HPで閲覧も可能



1 調査結果からみえる課題の改善には、学校図書館の活用が不可欠です。

①学校図書館で「読書習慣」

語彙力や漢字を読む力を育成するには、たくさんの生きた言葉に出会うことが必要です。学校図書館を活用して、語彙を増やしましょう。

②学校図書館で「目的に応じた様々な読み」

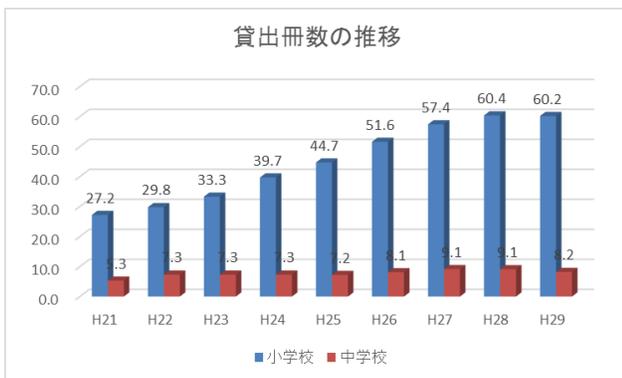
日常生活では、時と場に応じて、様々な読み方が必要とされます。例えば、「全体を速く読む」「比べて読む」「必要な箇所を素早く見付けて読む」などです。学校図書館を活用して、様々な方法で読む力を鍛えましょう。

③学校図書館で「調べ学習」

学校図書館を活用して、全ての教科領域で、主体的・対話的な調べ活動を行い、学びを深めましょう。

2 学校図書館を「読書センター」から「学習情報センター」へ

★学び、変わる、図書館から！！



学校図書館を活用した授業を行っている教員の割合

【H29年度】

小:98.7%

中:59.2%

小中:79.0%

柏市の子供達の図書館活用は、定着してきています。7年前の調査結果と比較すると、小中学校ともに貸出冊数が増加していることがわかります。柏市の小学生では少なくとも半数以上が学校図書館の本を年間で約60冊借りています。昨年度と比較すると微減ですが、学校図書館が「本と出会う場」として機能し、定着してきていることがわかります。

一方、中学校の年間貸出数は9.1冊と微増にとどまっており、読書の対象が、学校図書館の蔵書から個々の嗜好で入手した本に移っていくことが考えられます。学校図書館を利用した授業では、単に本を「読む」のではなく、「情報を集める」「調べるために読む」といった目的を持った読書を推進し、読書の質を向上させていく必要があると考えています。

レーダーチャート分析シート使用方法

このシートは、当該学年の結果を柏市全体や同一集団の前年度、昨年度の同学年の結果と比較するためのものです。

- ① ファイル名
 小学校用 「2018 小学校用レーダーチャート分析シート」
 中学校用 「2018 中学校用レーダーチャート分析シート」
- ② シートは学年ごと、教科ごとに用意してあります。
- ③ 柏市平均正答率は既に入力してあります。
- ④ 入力データは、各年度の次のファイルを開いてコピーして貼り付けてください。
 「柏市立〇〇〇学校 ①学力 (00) C1.xlsx」

★集計結果					★正答率の比			
	目標値	平均正答率	中央値	達成率	[確認・活]			
校内	78.0	81.1	87.0	75.9	100%			
市町村		80.1	82.6	74.7	90%			
全国		81.2	84.8	76.7	80%			

	目標値	平均正答率		
		校内	市町村	全国
78.0	81.1	80.1	81.2	
82.0	86.1	85.6	86.5	
57.3	57.3	54.4	55.9	
86.2	86.2	86.1	88.8	
75.5	75.5	75.9	77.8	
76.8	76.8	73.8	76.3	
83.5	83.5	83.1	82.7	
73.9	73.9	72.9	74.0	
86.7	86.2	86.1	88.8	
71.3	71.3	70.9	72.6	
70.6	70.6	67.5	68.7	
90.5	90.5	90.8	90.9	
78.4	78.4	76.3	78.0	
90.5	90.5	90.8	90.9	
68.0	68.0	67.9	69.5	

このデータを貼り付ける

学年の数字を入力(赤矢印)すると、表に学年が入ります。校種をまたぐ場合は手入力してください

	教科全体	標準	前年度
基礎		80.1	81.1
応用		55.6	56.2
応用		54.4	55.9
応用		57.3	58.2
応用		75.9	75.5
応用		73.5	76.5
応用		83.1	83.5
応用		72.9	73.9
応用		86.1	88.2
応用		70.9	71.3
応用		87.5	70.8
応用		90.8	90.5

項目名とそれぞれの平均正答率を入力します。エクセルシートからただコピーすると使いやすくなります。

小学 2年 国語

1. 全体傾向

表の目盛りを変更したい場合は、グラフを選択し「1」のツールバーで「数値軸」→「軸の書式設定」をクリック後、任意の目盛りを振ります

2. 前年変化

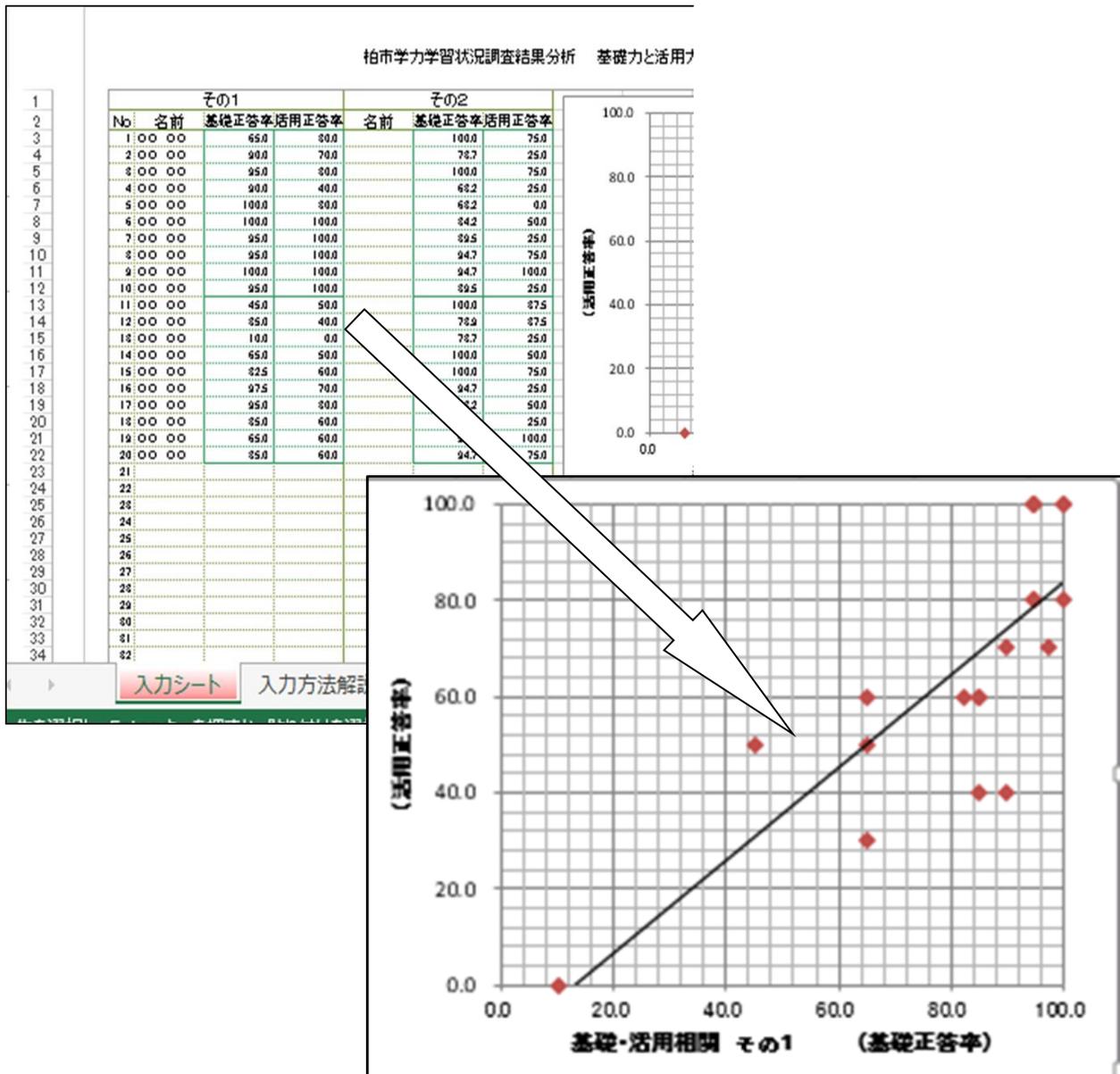
【国語】小2年 | 【国語】小3年 | 【国語】小4年 | 【国語】小5年 | 【国語】小6年 | 【算数】小2年

基礎と活用相関関係分析シート利用方法

このシートは、学級ごとに、基礎的な力と活用の力について、学級や一人一人の状況を分析するためのものです。

- ① ファイル名
「基礎と活用相関関係分析シート」
- ② シートは必要数をコピーしてください。
- ③ 各学校に配付された「柏市立〇〇〇学校〇学年①学力 (**) C1.xlsx」より、学級ごとのデータをコピーして貼り付けてください。
- ④ その1, その2の欄は、国語と算数, 昨年度と今年度など, 比較したいデータを組み替えて利用してください。

※ 子供の名前を転記する際には、取り扱いに十分注意をしてください。



平成 30 年度 柏市学力・学習状況調査
結果報告及び改善案
「学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む」

編集 柏市教育委員会 学校教育課
指導課
柏市立教育研究所
児童生徒課

発行 2018 年 8 月 1 日